

# 住民意識調査結果報告書

まんのう町

# まんのう町男女共同参画に関する住民アンケート調査

平素は町政に、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本町では、平成 20（2008）年に「まんのう町男女共同参画プラン」を策定したのち、平成 25（2013）年に「まんのう町男女共同参画プラン（改訂版）」を策定し、男女が互いに人権を尊重し、ともにいきいきと暮らせる「男女共同参画社会の実現」に向けて取り組んでいます。

このたび、令和 4（2022）年度から令和 8（2026）年度を計画期間とする「第 3 次まんのう町男女共同参画プラン」の策定に向けて、アンケート調査を実施することとなりました。この調査は、18 歳以上の住民の皆様から無作為に抽出した 1,000 人の方にお送りし、町民の皆様が日頃の生活の中で感じておられるお考えやご意見等を計画策定の基礎資料として活用することを目的としています。

回答は無記名であり、統計的に処理をしますので、返信用封筒から個人が特定されることはありません。また、個人情報の取り扱いについては、適正に行います。この調査結果は計画策定の目的以外に使用することはありませんので、率直なご意見をご記入ください。

ご多忙の折とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和 3（2021）年 7 月

まんのう町長 栗田 隆義

## 調査票へのご記入にあたって

- ① 封筒の宛名のご本人がご回答ください。  
※何らかの理由でご本人による回答が難しい場合は、ご本人のお考えを尊重し代理の方がご記入いただければ幸いです。
- ② 「その他（      ）」にあてはまる場合は、その具体的な内容を（      ）内にご記入ください。
- ③ ご記入後は、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま  
**8月2日（月）**までに最寄りの郵便ポストにご投函ください。切手は不要です。

【お問い合わせ先】まんのう町役場 企画政策課  
TEL:0877-73-0106 FAX:0877-73-0113

## 調査概要

### (1) 調査の実施について

対象者	18歳以上の住民 1,000人（無作為抽出）
調査時期	令和3年7月16日（金）～令和3年8月2日（月）
実施方法	郵送配布、郵送回収

### (2) 回収状況

		配布	回収	回収率
男性	18～19歳	10人	1人	10.0%
	20～29歳	38人	9人	23.7%
	30～39歳	54人	14人	25.9%
	40～49歳	72人	19人	26.4%
	50～59歳	63人	29人	46.0%
	60～69歳	90人	37人	41.1%
	70歳以上	173人	87人	50.3%
	計	500人	196人	39.2%
女性	18～19歳	9人	3人	33.3%
	20～29歳	38人	25人	65.8%
	30～39歳	54人	16人	29.6%
	40～49歳	72人	22人	30.6%
	50～59歳	64人	31人	48.4%
	60～69歳	90人	57人	63.3%
	70歳以上	173人	89人	51.4%
	計	500人	243人	48.6%
不明	-	4人	-	
合計	1,000人	443人	44.3%	

#### 【参考：前回調査（平成18年度）】

	配布	回収	回収率
男性	464人	137人	29.5%
女性	536人	260人	48.5%
不明	-	18人	-
合計	1,000人	415人	41.5%

### (3) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「N」は「Number」の略で、比率算出の母数です。
2. 対象者の抽出はまんのう町の年代別人口分布を基に算出しています。
3. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
4. 設問によっては、国調査（令和元年度男女共同参画社会に関する世論調査）、香川県調査（令和元年度香川県男女共同参画社会に関する意識調査）、まんのう町前回調査（平成18年度）との比較を行っています。

# あなたご自身のことについて

## 【調査結果】

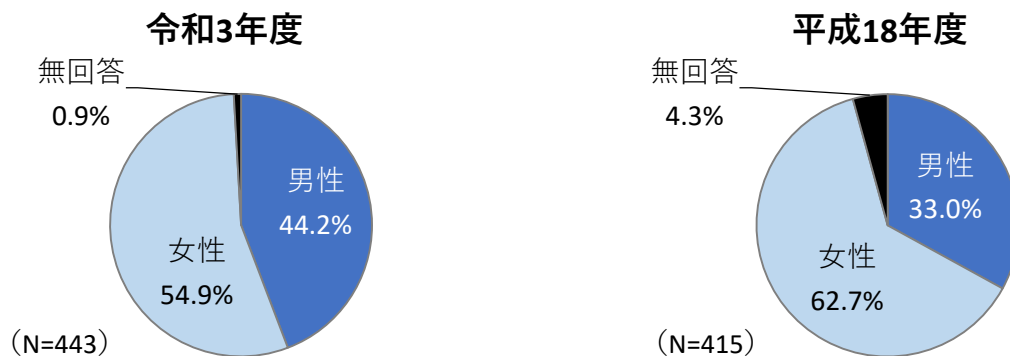
- 男性より女性が約 10 ポイント多い
- 20～29 歳を除くと、年齢が上がるにつれて回答者が多い
- 女性の 20 歳代の回答率が最も高い
- 回答者の約 7 割は既婚
- 回答者および配偶者の職業は「正規の社員や職員」「無職」が多い
- 同居家族に介護・看護が必要とする方がいる世帯は約 1 割

## 【結果検証】

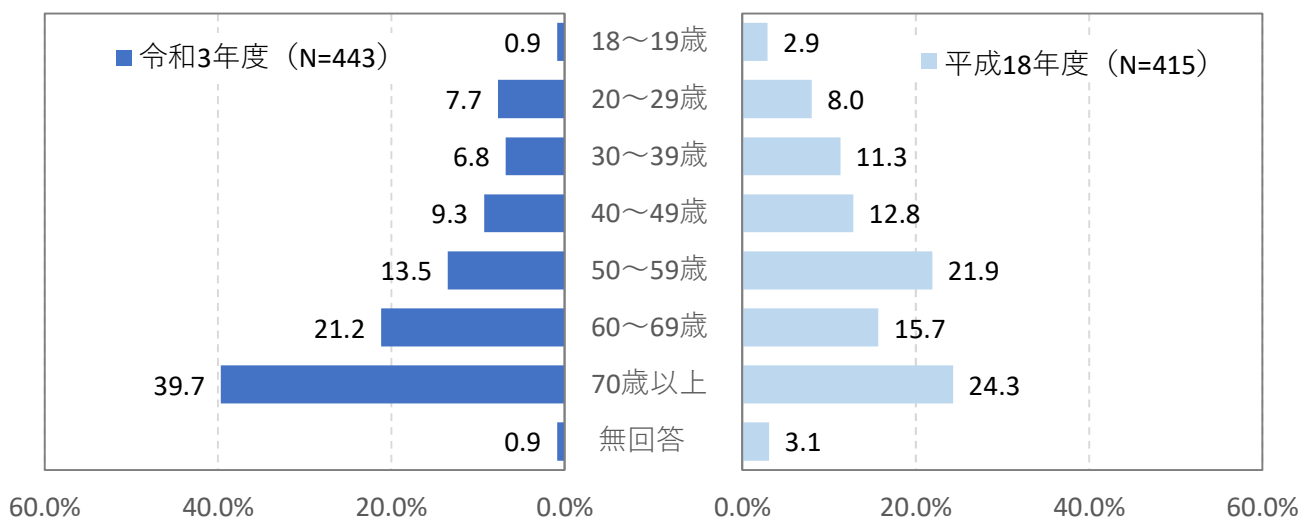
- 前回調査と比較して年齢層の偏りが大きく、60 歳以上が半数以上を占めている
- 女性の 20 歳代の内訳をみると、未婚者が 6 割、働いている方が 8 割を占めており、男女共同参画への関心の高さが回答率の高さにつながっていると考えられる
- 職業については、60 歳以上の回答者（男性が約 61%、女性が約 40%）が多くなっていることから「無職」の割合が多くなっている
- 就業状況は、平成 18 年度と比較して、20 歳代、30 歳代の「共働き」の割合が増加している。雇用形態については、男女を比較すると女性の方が「非正規の社員や職員」の割合が多い。また、男女ともに 30 歳代の「非正規の社員や職員」の割合が 20 歳代、40 歳代と比べると高い傾向があり、リーマンショックなどの不景気時の採用状況が数字に表れていると考えられる。

問 1. あなたの性別を教えてください。（あなた自身が自認する性についてお答えください）

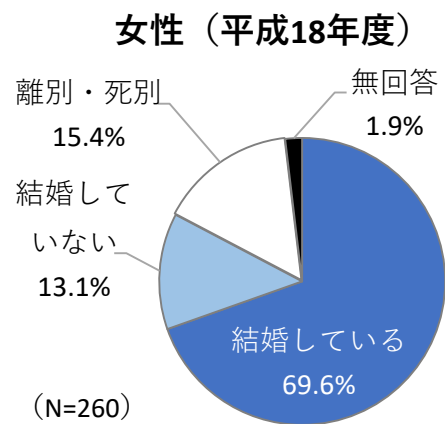
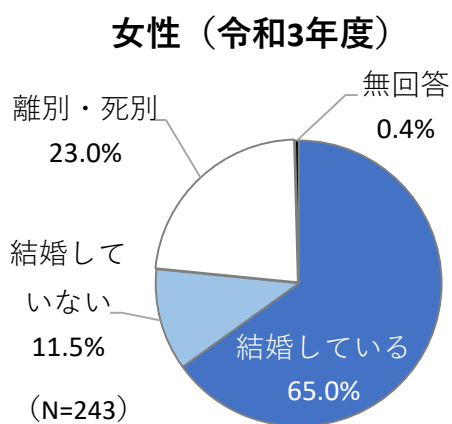
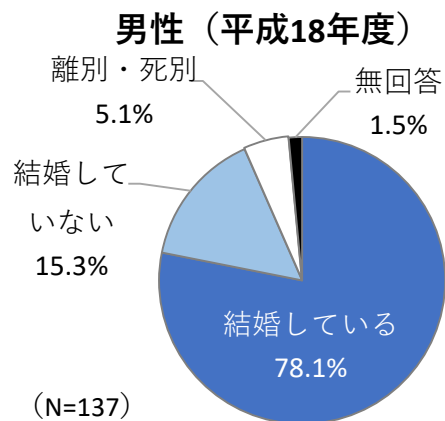
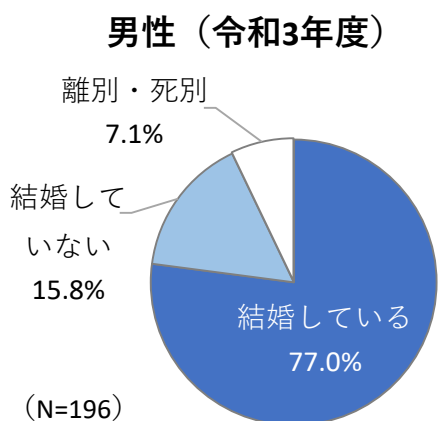
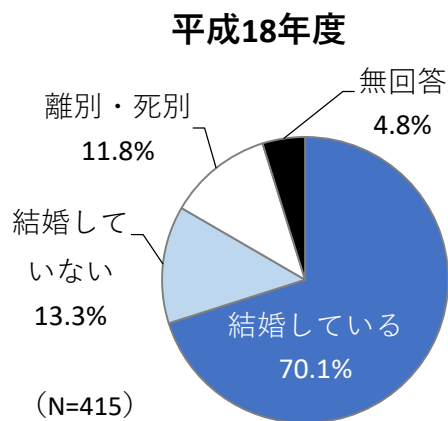
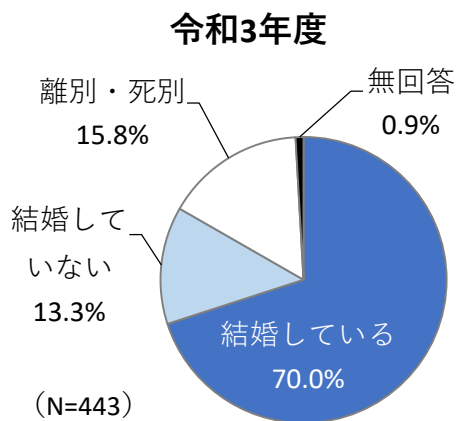
（○は1つ）



問 2. あなたの年齢を教えてください。（○は1つ）



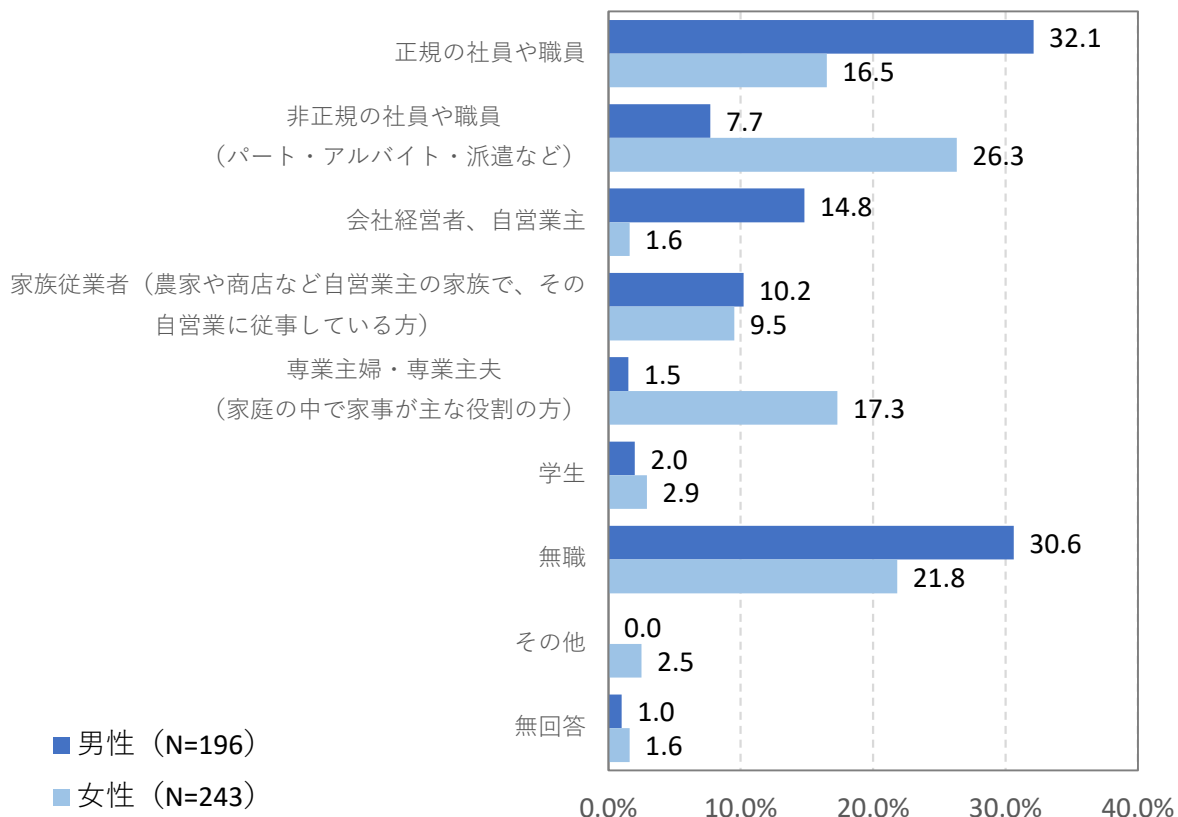
問3. あなたは現在結婚（事実婚等も含みます）していますか。（〇は1つ）



問4. あなたとあなたの配偶者（事実婚等も含みます）の職業は、次のどれにあたりますか。

（「あなた」と「配偶者」それぞれに○を1つつけてください。配偶者のいない方はあなたの職業のみに○を1つつけてください。）

### あなたの職業



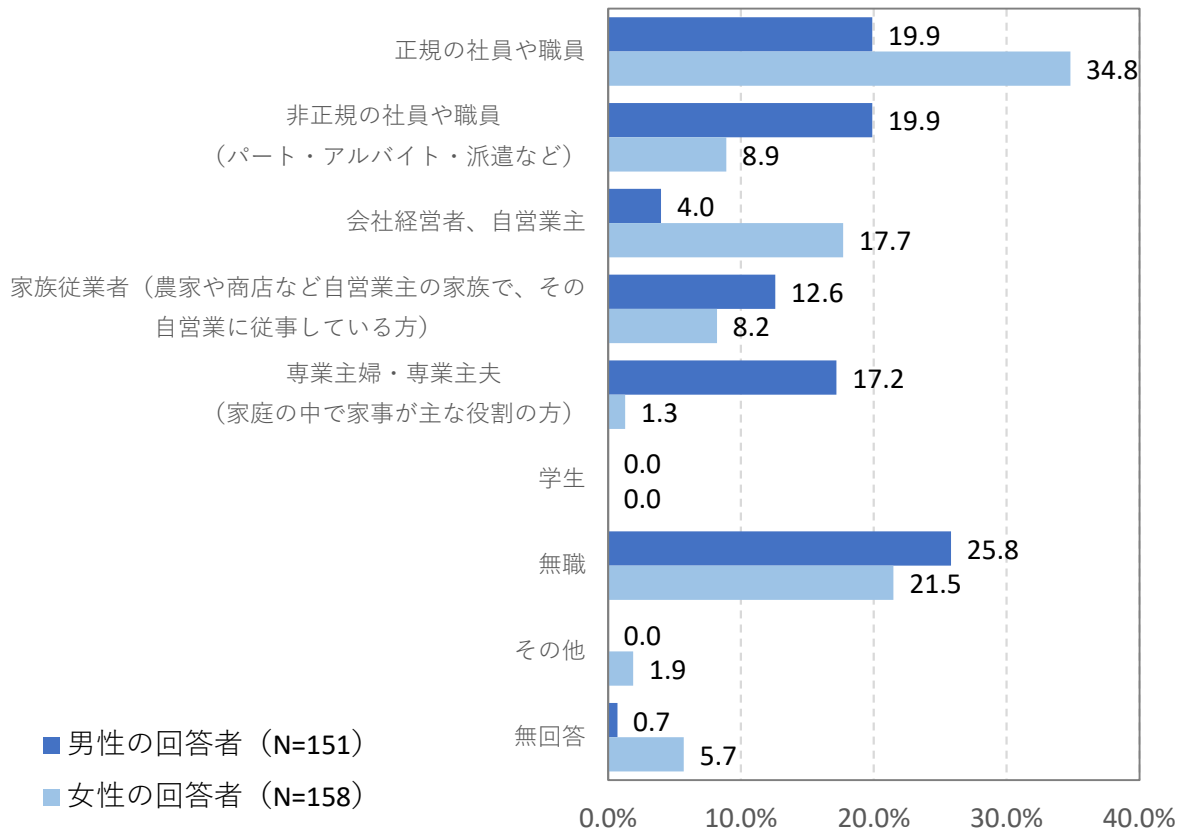
### 【あなたの職業】

単位：%

		正規の社員や職員	非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など)	会社経営者、自営業主	家族従業者 (農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事している方)	専業主婦・専業主夫 (家庭の中で家事が主な役割の方)	学生	無職	その他	無回答
男性	18～19歳 (N=1)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	20～29歳 (N=9)	55.6	-	-	-	-	33.3	11.1	-	-
	30～39歳 (N=14)	64.3	14.3	7.1	7.1	-	-	7.1	-	-
	40～49歳 (N=19)	84.2	-	10.5	-	-	-	5.3	-	-
	50～59歳 (N=29)	69.0	-	20.7	6.9	-	-	3.4	-	-
	60～69歳 (N=37)	29.7	21.6	5.4	18.9	2.7	-	21.6	-	-
	70歳以上 (N=87)	2.3	5.7	20.7	11.5	2.3	-	55.2	-	2.3
女性	18～19歳 (N=3)	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	20～29歳 (N=25)	56.0	24.0	-	4.0	-	12.0	-	4.0	-
	30～39歳 (N=16)	37.5	50.0	-	-	12.5	-	-	-	-
	40～49歳 (N=22)	50.0	27.3	-	4.5	9.1	-	4.5	-	4.5
	50～59歳 (N=31)	22.6	54.8	-	6.5	9.7	-	3.2	3.2	-
	60～69歳 (N=57)	3.5	29.8	5.3	15.8	26.3	1.8	14.0	1.8	1.8
	70歳以上 (N=89)	-	11.2	1.1	11.2	22.5	-	48.3	3.4	2.2

第1位 ※以下同様

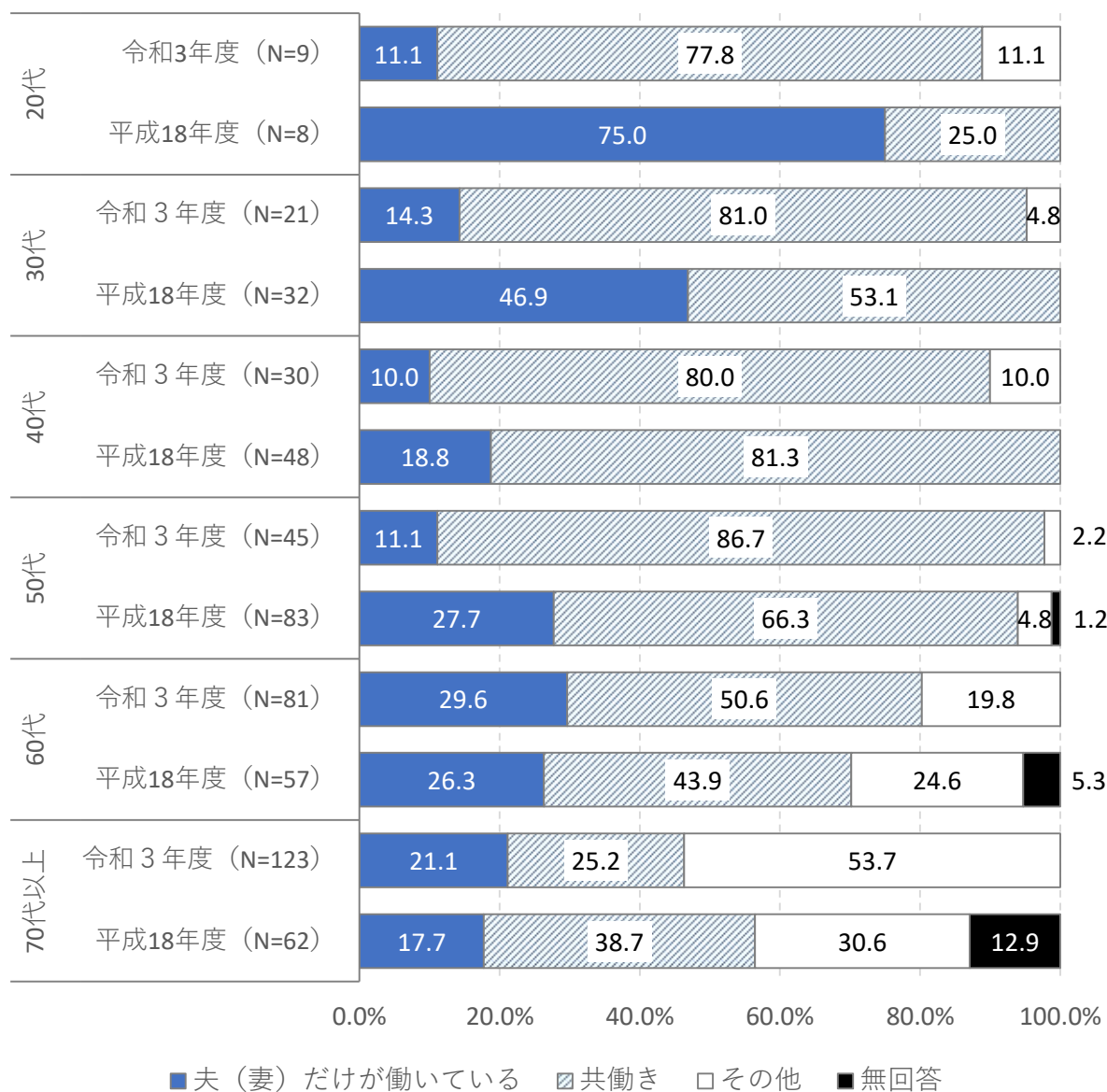
## あなたの配偶者の職業



### 【あなたの配偶者の職業】

単位：%

回答者		正規の社員や職員	非正規の社員や職員 (パート・アルバイト・派遣など)	会社経営者、自営業主	家族従業者 (農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事している方)	専業主婦・専業主夫 (家庭の中で家事が主な役割の方)	学生	無職	その他	無回答
男性	18~19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳 (N=1)	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	30~39歳 (N=8)	50.0	37.5	-	-	12.5	-	-	-	-
	40~49歳 (N=13)	53.8	38.5	-	7.7	-	-	-	-	-
	50~59歳 (N=19)	47.4	26.3	15.8	-	5.3	-	5.3	-	-
	60~69歳 (N=31)	25.8	32.3	6.5	6.5	9.7	-	16.1	-	3.2
	70歳以上 (N=79)	2.5	8.9	1.3	20.3	25.3	-	41.8	-	-
女性	18~19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳 (N=8)	75.0	-	12.5	-	-	-	-	-	12.5
	30~39歳 (N=13)	76.9	15.4	-	-	-	-	-	-	7.7
	40~49歳 (N=17)	64.7	11.8	11.8	-	-	-	-	-	11.8
	50~59歳 (N=26)	65.4	11.5	19.2	-	-	-	-	3.8	-
	60~69歳 (N=50)	18.0	14.0	32.0	10.0	-	-	24.0	2.0	-
	70歳以上 (N=44)	4.5	-	9.1	18.2	4.5	-	50.0	2.3	11.4



※集計方法について

【平成18年度】

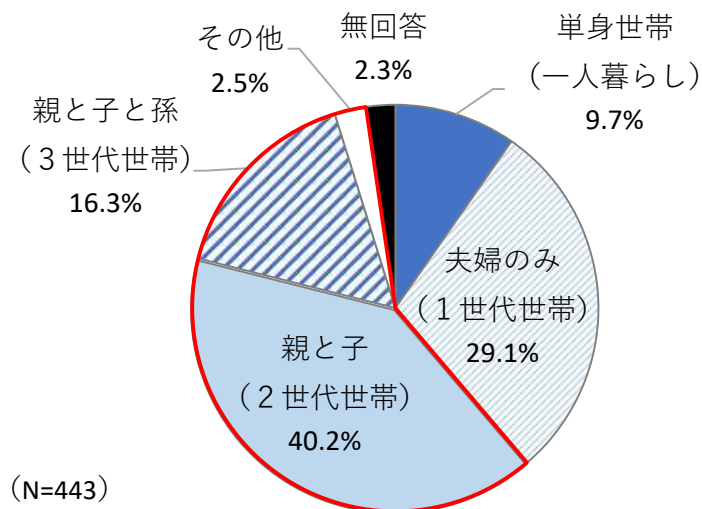
『結婚の経験』で「結婚している（配偶者と同居）」「結婚している（配偶者と別居）」「結婚していないが同居しているパートナーがいる」と回答した方を対象に、夫婦の働き方の設問で「夫（妻）だけが働いている」「共働きである」「その他」で分類

【令和3年度】

現在の婚姻状況の設問で「結婚している」と回答した方のうち、「正規の社員や職員」「非正規の社員や職員（パート・アルバイト・派遣など）」「会社経営者、自営業主」「家族従業者（農家や商店など自営業主の家族で、その自営業に従事している方）」と答えた方を“働いている”、「専業主婦・専業主夫（家庭の中で家事が主な役割の方）」「学生」「無職」「その他」と答えた方を“働いていない”とし、「夫（妻）だけが働いている」「共働きである」「その他」で分類

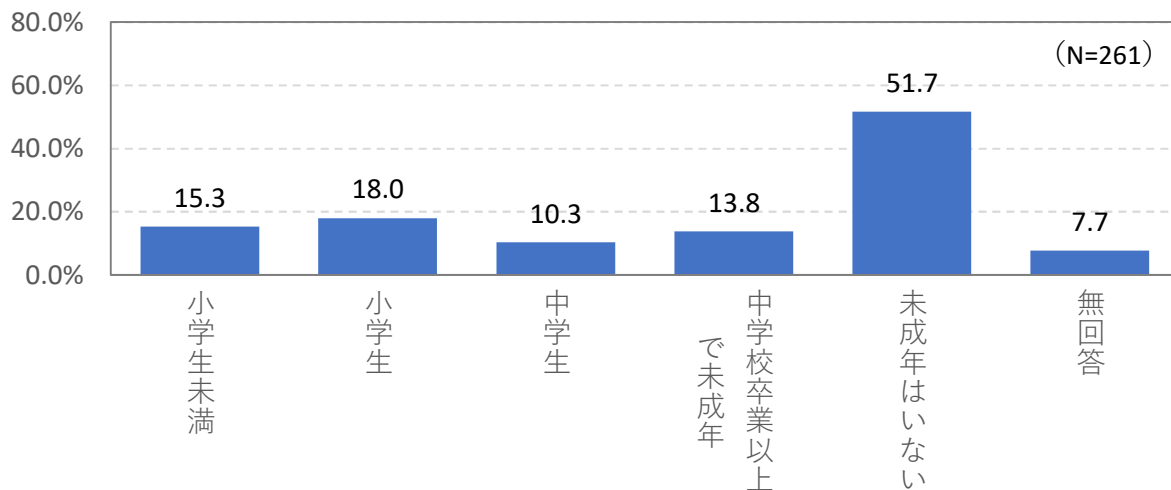


問5. 現在、あなたが同居しているご家族の構成は、次のうちのどれですか。（〇は1つ）

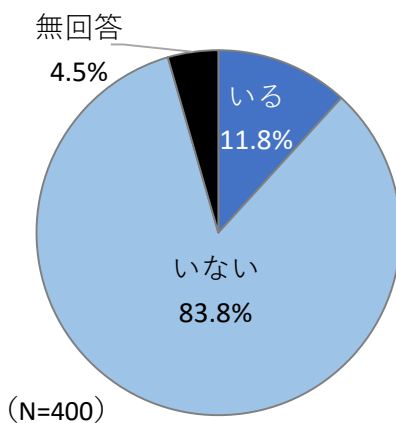


問5. で「親と子（2世代世帯）」「親と子と孫（3世代世帯）」「その他」と回答した方にお尋ねします。

問6. 現在、あなたが同居しているご家族に、次にあてはまる方はいますか。（〇はいくつでも）



問7. 現在、あなたが同居しているご家族に、日常的に介護・看護を必要とする方はいますか。（〇は1つ）



# 家庭生活について

## 【調査結果】

- 家事は「主に妻」が担っていることが多いが、男性・女性ともに「夫と妻で分担協力」を理想としており、若年層のみならず、中高年層でも多くなっている
- 地域活動（自治会活動など）は「妻」より「夫」が担っている

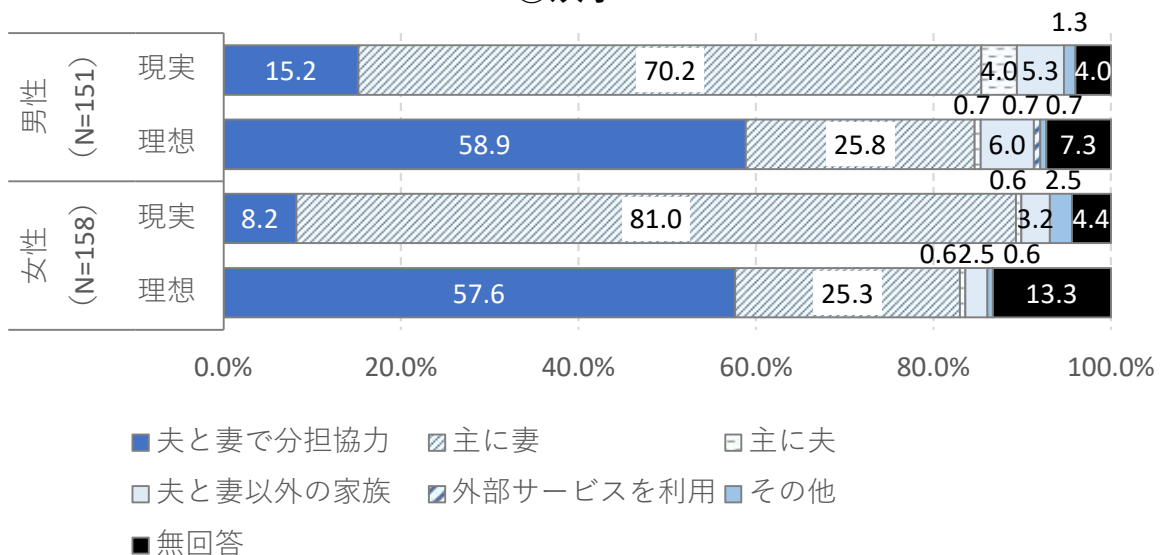
## 【結果検証】

- 家事については、男女ともに「夫と妻で分担協力」を理想としているものの、現状をみると「主に妻」が担っていることが多く、平成18年度と同様の結果になっている
- 女性より男性は現実で「夫と妻で分担協力」と回答した人が多く、男女間で認識のズレがあると考えられる
- 「子どもの教育や世話」の全体と未成年の子どもと同居している方みの結果を見比べると、後者の方が理想では「夫と妻で分担協力」の割合が高くなっている。そこから子育ては夫婦ですべきとの考え方になってきているが、現実の割合をみると、夫婦で分担できていると回答した方が男女とも4割以下であり、男性のさらなる子育てへの参加が求められている結果となった。
- 「親や身内の介護」をみると、現実では「夫と妻で分担協力」、「主に妻」もしくは「夫と妻以外の家族」の割合が高くなっているが、理想は「夫と妻で分担協力」と「外部サービスを利用」の割合が現実と比べて増加しており、夫婦で分担すべきとの考え方以外に、共働き家庭の増加などにより、外部にその役割を求める方が一定数いることが伺える。また、介護・看護が必要な方が同居している方みの集計では、理想で男性が「主に夫」、女性が「主に妻」と回答した人が0%であることから、介護については相当負担のかかるものであることが伺える。

問3. で「結婚している」と回答した、現在結婚している（事実婚等を含みます）方にお尋ねします。

問8. 家事などは誰が日常的に担っていますか。また、理想ではどうしたいと考えていますか。（①～⑦の（1）現在の担い手、（2）理想の担い手それぞれに○は1つ。）

### ①炊事

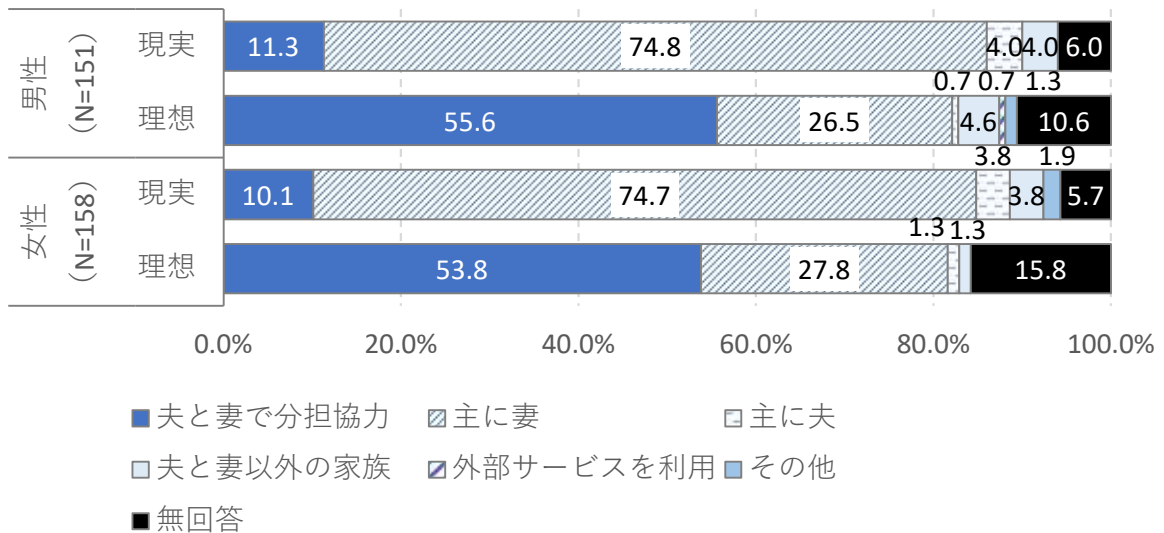


【①炊事の担い手の現実と理想】

単位：％

回答者		現実						理想							
		夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=1)	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=8)	-	62.5	12.5	12.5	-	-	12.5	62.5	25.0	-	-	-	-	12.5
	40～49歳 (N=13)	23.1	53.8	-	23.1	-	-	-	61.5	38.5	-	-	-	-	-
	50～59歳 (N=19)	26.3	63.2	5.3	5.3	-	-	-	63.2	36.8	-	-	-	-	-
	60～69歳 (N=31)	25.8	64.5	-	3.2	-	-	6.5	61.3	25.8	-	3.2	-	-	9.7
	70歳以上 (N=79)	8.9	77.2	5.1	2.5	-	2.5	3.8	55.7	21.5	1.3	10.1	1.3	1.3	8.9
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=8)	12.5	87.5	-	-	-	-	-	75.0	25.0	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=13)	15.4	53.8	-	30.8	-	-	-	69.2	23.1	-	-	-	-	7.7
	40～49歳 (N=17)	17.6	82.4	-	-	-	-	-	52.9	29.4	-	-	-	-	17.6
	50～59歳 (N=26)	11.5	84.6	-	-	-	-	3.8	73.1	23.1	-	-	-	-	3.8
	60～69歳 (N=50)	4.0	90.0	-	-	-	4.0	2.0	58.0	32.0	-	4.0	-	-	6.0
	70歳以上 (N=44)	4.5	75.0	2.3	2.3	-	4.5	11.4	43.2	18.2	2.3	4.5	-	2.3	29.5

②洗濯

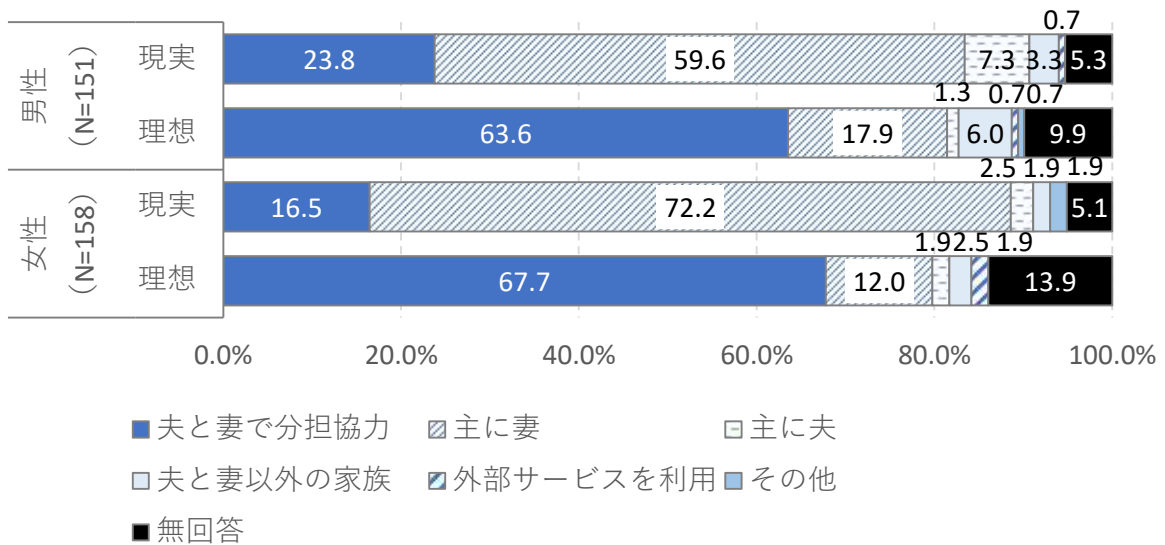


【②洗濯の担い手の現実と理想】

単位：％

回答者		現実						理想							
		夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=1)	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=8)	25.0	50.0	12.5	-	-	-	12.5	87.5	-	-	-	-	-	12.5
	40～49歳 (N=13)	15.4	76.9	-	7.7	-	-	-	53.8	38.5	-	-	-	-	7.7
	50～59歳 (N=19)	15.8	78.9	-	5.3	-	-	-	68.4	31.6	-	-	-	-	-
	60～69歳 (N=31)	19.4	64.5	-	3.2	-	-	12.9	54.8	29.0	-	3.2	-	-	12.9
	70歳以上 (N=79)	5.1	79.7	6.3	3.8	-	-	5.1	49.4	25.3	1.3	7.6	1.3	1.3	13.9
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=8)	37.5	50.0	12.5	-	-	-	-	87.5	12.5	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=13)	23.1	53.8	7.7	15.4	-	-	-	61.5	38.5	-	-	-	-	-
	40～49歳 (N=17)	11.8	82.4	-	-	-	-	5.9	41.2	41.2	-	-	-	-	17.6
	50～59歳 (N=26)	11.5	73.1	3.8	7.7	-	-	3.8	69.2	23.1	-	3.8	-	-	3.8
	60～69歳 (N=50)	6.0	80.0	4.0	2.0	-	4.0	4.0	54.0	34.0	2.0	-	-	-	10.0
	70歳以上 (N=44)	4.5	77.3	2.3	2.3	-	2.3	11.4	40.9	18.2	2.3	2.3	-	-	36.4

### ③掃除

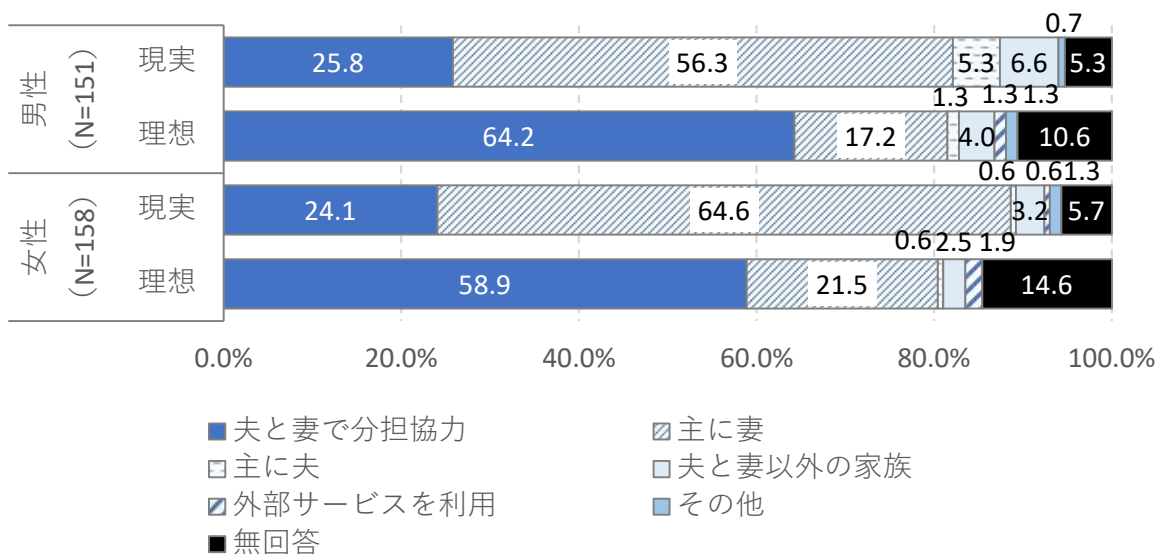


### 【③掃除の担い手の現実と理想】

単位：％

回答者	現実							理想						
	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=1)	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=8)	25.0	37.5	25.0	-	-	-	12.5	87.5	-	-	-	-	12.5
	40～49歳 (N=13)	38.5	38.5	15.4	7.7	-	-	84.6	15.4	-	-	-	-	-
	50～59歳 (N=19)	10.5	73.7	15.8	-	-	-	78.9	21.1	-	-	-	-	-
	60～69歳 (N=31)	41.9	48.4	-	-	-	-	9.7	58.1	22.6	3.2	3.2	-	12.9
	70歳以上 (N=79)	17.7	65.8	5.1	5.1	1.3	-	5.1	55.7	17.7	1.3	10.1	1.3	1.3
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=8)	37.5	62.5	-	-	-	-	87.5	12.5	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=13)	15.4	69.2	7.7	7.7	-	-	76.9	15.4	-	-	-	-	7.7
	40～49歳 (N=17)	17.6	76.5	5.9	-	-	-	41.2	29.4	5.9	-	5.9	-	17.6
	50～59歳 (N=26)	19.2	73.1	3.8	-	-	-	3.8	88.5	3.8	-	3.8	-	3.8
	60～69歳 (N=50)	12.0	78.0	2.0	-	-	4.0	4.0	70.0	14.0	2.0	6.0	-	8.0
	70歳以上 (N=44)	15.9	65.9	-	4.5	-	2.3	11.4	56.8	6.8	2.3	-	4.5	29.5

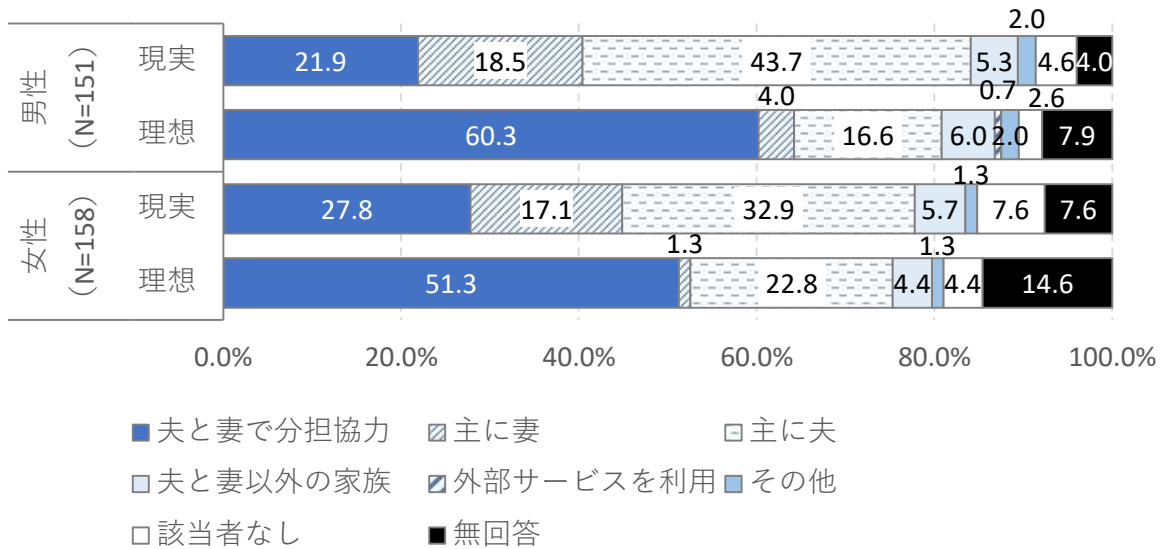
### ④日常の買い物（食料品、日用品など）



【④日常の買い物（食料品、日用品など）の担い手の現実と理想】 単位：％

回答者	現実							理想							
	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=1)	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
	30～39歳 (N=8)	12.5	62.5	12.5	-	-	-	12.5	62.5	25.0	-	-	-	12.5	
	40～49歳 (N=13)	15.4	53.8	7.7	23.1	-	-	69.2	30.8	-	-	-	-	-	
	50～59歳 (N=19)	36.8	63.2	-	-	-	-	84.2	15.8	-	-	-	-	-	
	60～69歳 (N=31)	41.9	45.2	-	3.2	-	3.2	6.5	67.7	12.9	-	-	-	3.2	16.1
	70歳以上 (N=79)	20.3	58.2	7.6	7.6	-	-	6.3	57.0	16.5	2.5	7.6	2.5	1.3	12.7
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=8)	37.5	62.5	-	-	-	-	75.0	25.0	-	-	-	-	-	
	30～39歳 (N=13)	30.8	53.8	-	15.4	-	-	61.5	30.8	-	-	7.7	-	-	
	40～49歳 (N=17)	17.6	76.5	5.9	-	-	-	35.3	35.3	5.9	-	-	-	23.5	
	50～59歳 (N=26)	23.1	73.1	-	-	-	-	3.8	61.5	30.8	-	-	3.8	3.8	
	60～69歳 (N=50)	22.0	70.0	-	2.0	-	2.0	4.0	70.0	18.0	-	4.0	-	-	8.0
	70歳以上 (N=44)	25.0	52.3	-	4.5	2.3	2.3	13.6	50.0	11.4	-	4.5	2.3	-	31.8

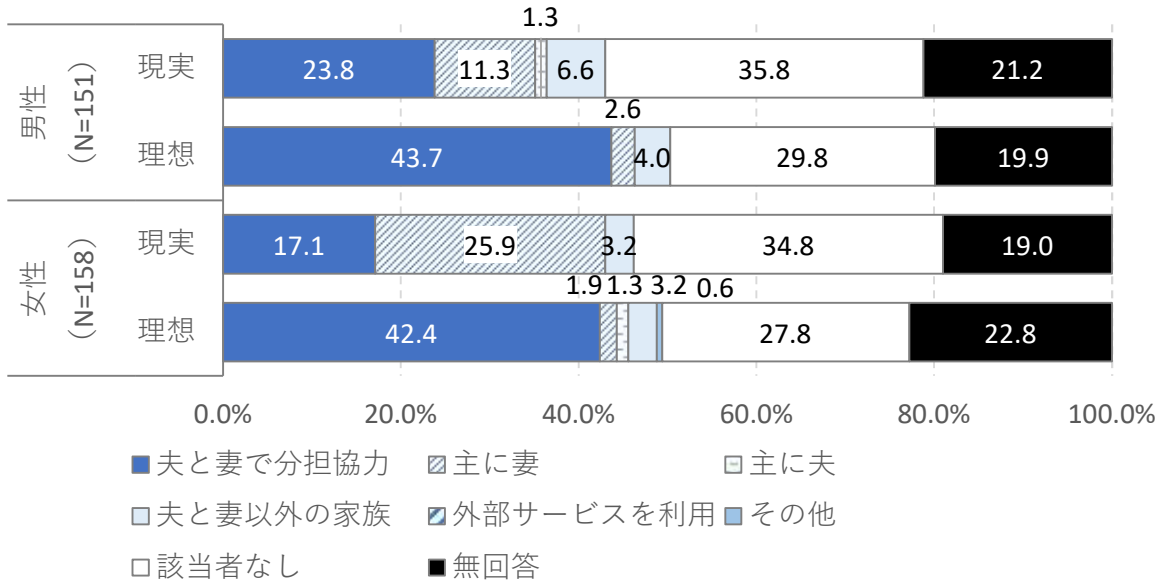
【⑤地域活動（自治会活動など）の担い手の現実と理想】



【⑥地域活動（自治会活動など）の担い手の現実と理想】 単位：％

回答者	現実							理想							
	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サー ビスを利用	その他	無回答	
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=1)	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	
	30～39歳 (N=8)	12.5	12.5	50.0	12.5	-	-	50.0	-	25.0	-	-	-	12.5	
	40～49歳 (N=13)	23.1	15.4	38.5	15.4	-	7.7	61.5	7.7	15.4	7.7	-	-	7.7	
	50～59歳 (N=19)	26.3	15.8	42.1	5.3	-	-	10.5	52.6	5.3	31.6	-	5.3	5.3	
	60～69歳 (N=31)	25.8	9.7	51.6	-	-	3.2	3.2	71.0	-	12.9	-	-	3.2	3.2
	70歳以上 (N=79)	20.3	24.1	41.8	5.1	-	1.3	3.8	58.2	5.1	13.9	10.1	-	-	2.5
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=8)	12.5	37.5	12.5	12.5	-	12.5	50.0	-	25.0	12.5	-	-	12.5	
	30～39歳 (N=13)	23.1	-	7.7	30.8	-	-	38.5	46.2	-	15.4	-	-	7.7	30.8
	40～49歳 (N=17)	17.6	35.3	41.2	-	-	-	5.9	41.2	5.9	35.3	-	-	-	
	50～59歳 (N=26)	46.2	7.7	34.6	3.8	-	-	3.8	69.2	-	23.1	-	-	3.8	
	60～69歳 (N=50)	34.0	16.0	40.0	-	-	2.0	4.0	60.0	2.0	20.0	6.0	-	-	4.0
	70歳以上 (N=44)	18.2	18.2	31.8	6.8	-	-	4.5	36.4	-	22.7	6.8	-	-	

### ⑥子どもの教育や世話

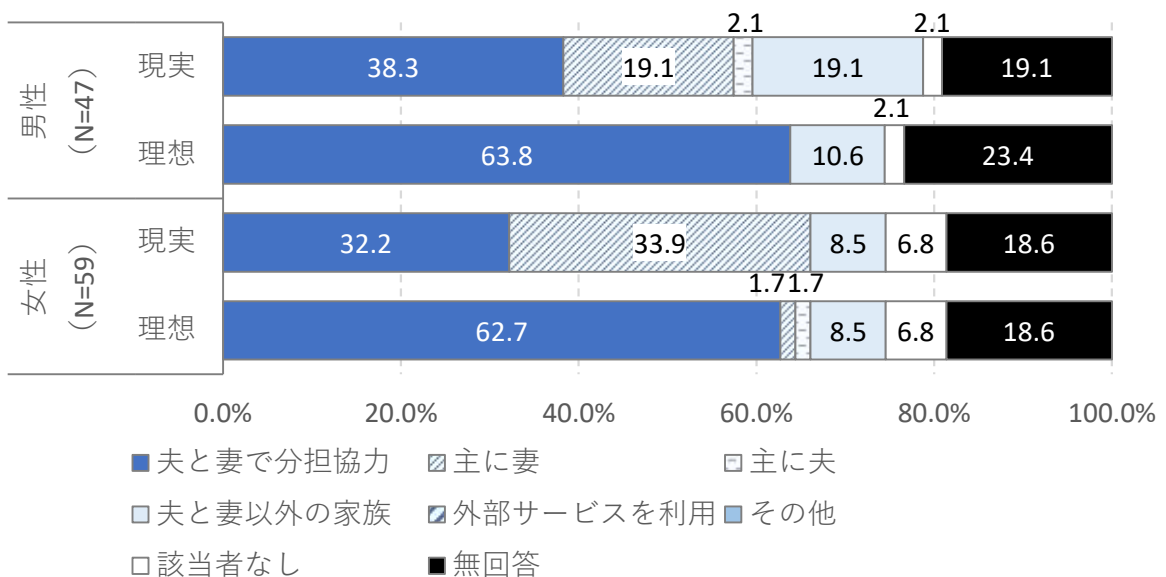


【⑥子どもの教育や世話の担い手の現実と理想】

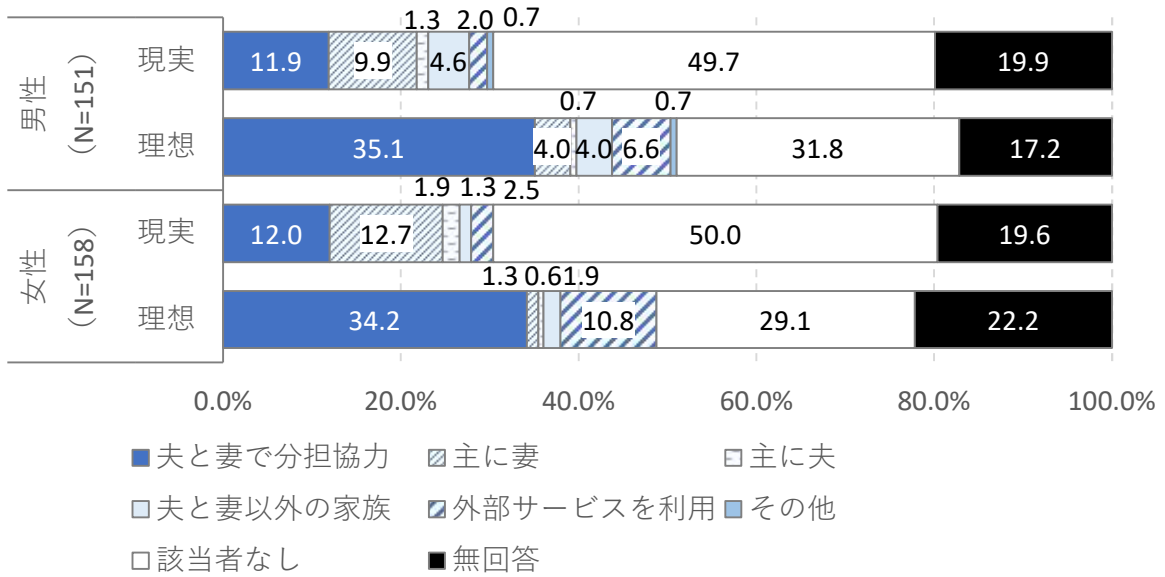
単位：%

回答者	年齢	現実							理想						
		夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	無回答	夫と妻で分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外の家族	外部サービスを利用	その他	無回答
男性	18~19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳 (N=1)	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	30~39歳 (N=8)	50.0	12.5	12.5	-	-	-	12.5	87.5	-	-	-	-	-	-
	40~49歳 (N=13)	53.8	38.5	-	-	-	-	7.7	84.6	7.7	-	-	-	-	-
	50~59歳 (N=19)	42.1	15.8	-	-	-	-	36.8	73.7	-	-	-	-	-	21.1
	60~69歳 (N=31)	35.5	6.5	-	-	-	-	38.7	48.4	6.5	-	-	-	-	29.0
	70歳以上 (N=79)	7.6	6.3	1.3	12.7	-	-	41.8	22.8	1.3	-	7.6	-	-	40.5
女性	18~19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳 (N=8)	37.5	37.5	-	-	-	-	25.0	87.5	-	-	-	-	-	12.5
	30~39歳 (N=13)	23.1	38.5	-	-	-	-	38.5	61.5	-	7.7	-	-	-	30.8
	40~49歳 (N=17)	47.1	47.1	-	-	-	-	5.9	70.6	11.8	-	-	-	-	-
	50~59歳 (N=26)	26.9	34.6	-	-	-	-	30.8	65.4	-	-	-	-	-	23.1
	60~69歳 (N=50)	12.0	22.0	-	6.0	-	-	48.0	32.0	2.0	-	6.0	-	2.0	44.0
	70歳以上 (N=44)	-	11.4	-	4.5	-	-	34.1	15.9	-	2.3	4.5	-	-	25.0

### ⑥子どもの教育や世話（未成年の子どもと同居している方のみ）



### ⑦親や身内の介護

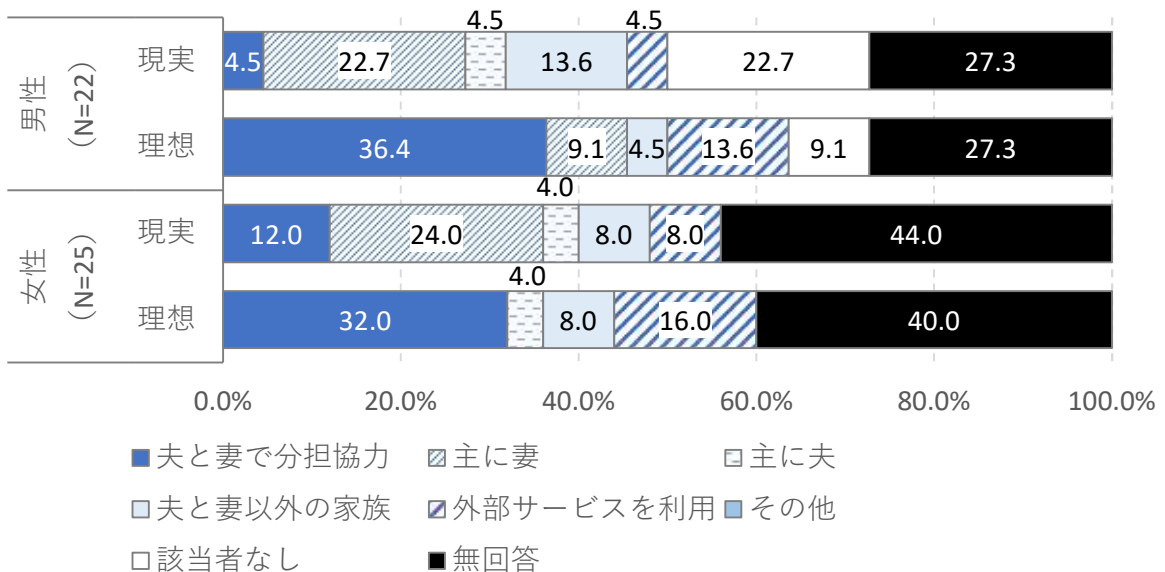


【⑦親や身内の介護の担い手の現実と理想】

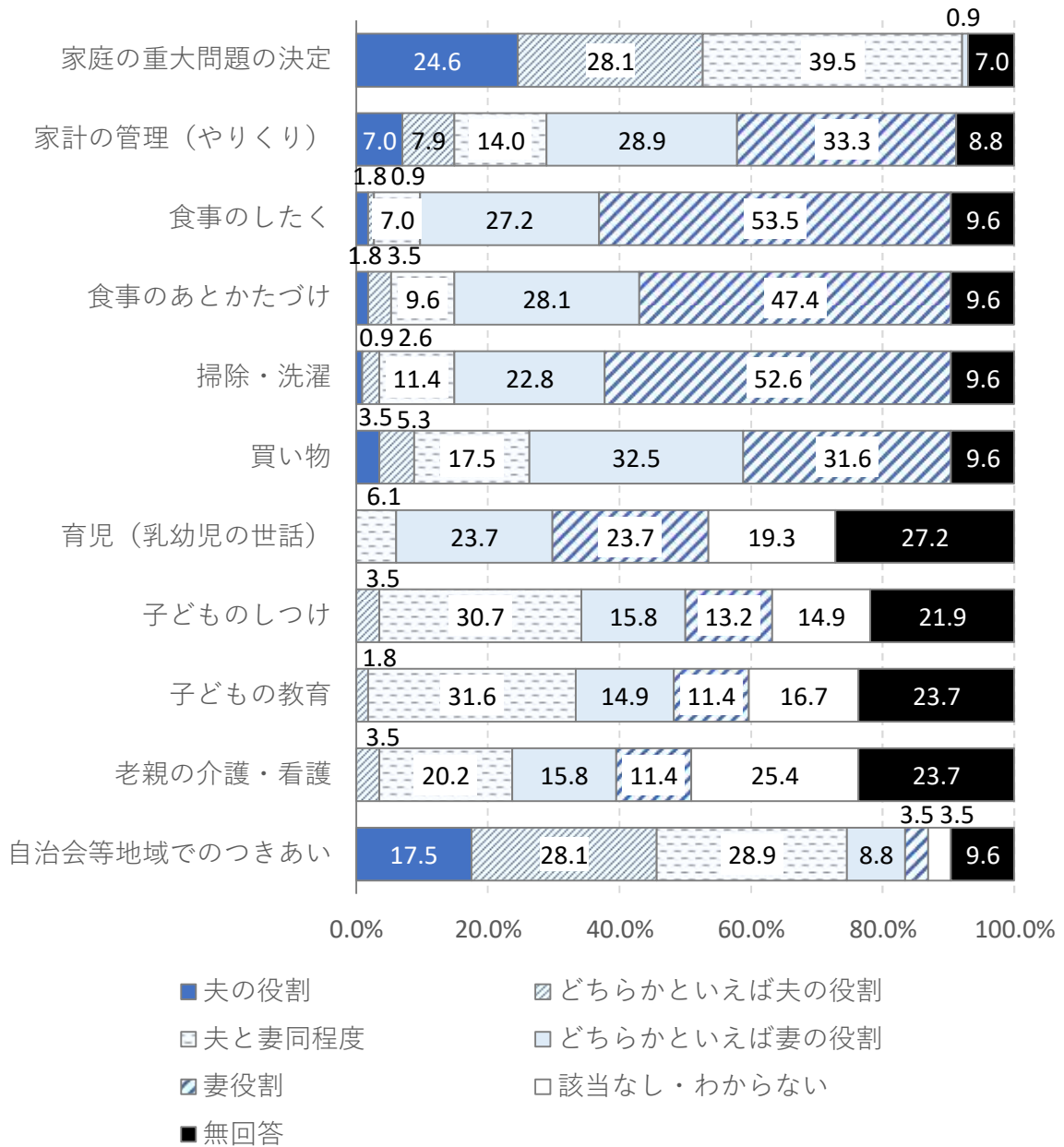
単位：%

回答者	年齢	現実							理想						
		夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サービ スを利用	その他	無回答	夫と妻で 分担協力	主に妻	主に夫	夫と妻以外 の家族	外部サービ スを利用	その他	無回答
男性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=1)	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
	30～39歳 (N=8)	25.0	-	-	-	-	12.5	50.0	62.5	-	-	-	-	25.0	
	40～49歳 (N=13)	7.7	-	-	15.4	-	-	76.9	53.8	7.7	-	7.7	7.7	23.1	
	50～59歳 (N=19)	26.3	15.8	5.3	5.3	-	-	42.1	52.6	5.3	-	-	10.5	5.3	21.1
	60～69歳 (N=31)	16.1	16.1	3.2	-	-	9.7	41.9	35.5	9.7	3.2	-	12.9	-	22.6
	70歳以上 (N=79)	6.3	8.9	-	5.1	-	-	49.4	24.1	1.3	-	6.3	3.8	40.5	
女性	18～19歳 (N=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳 (N=8)	12.5	-	-	-	-	-	87.5	37.5	-	-	-	-	62.5	
	30～39歳 (N=13)	7.7	7.7	-	-	-	-	84.6	38.5	-	-	-	15.4	46.2	
	40～49歳 (N=17)	11.8	11.8	-	11.8	-	-	64.7	47.1	5.9	5.9	5.9	5.9	11.8	
	50～59歳 (N=26)	34.6	15.4	3.8	-	-	-	42.3	57.7	3.8	-	-	19.2	15.4	
	60～69歳 (N=50)	10.0	20.0	4.0	-	8.0	-	44.0	36.0	-	-	4.0	12.0	34.0	
	70歳以上 (N=44)	2.3	6.8	-	-	-	-	38.6	11.4	-	-	-	6.8	27.3	

### ⑦親や身内の介護 (介護・看護が必要な方と同居している方のみ)

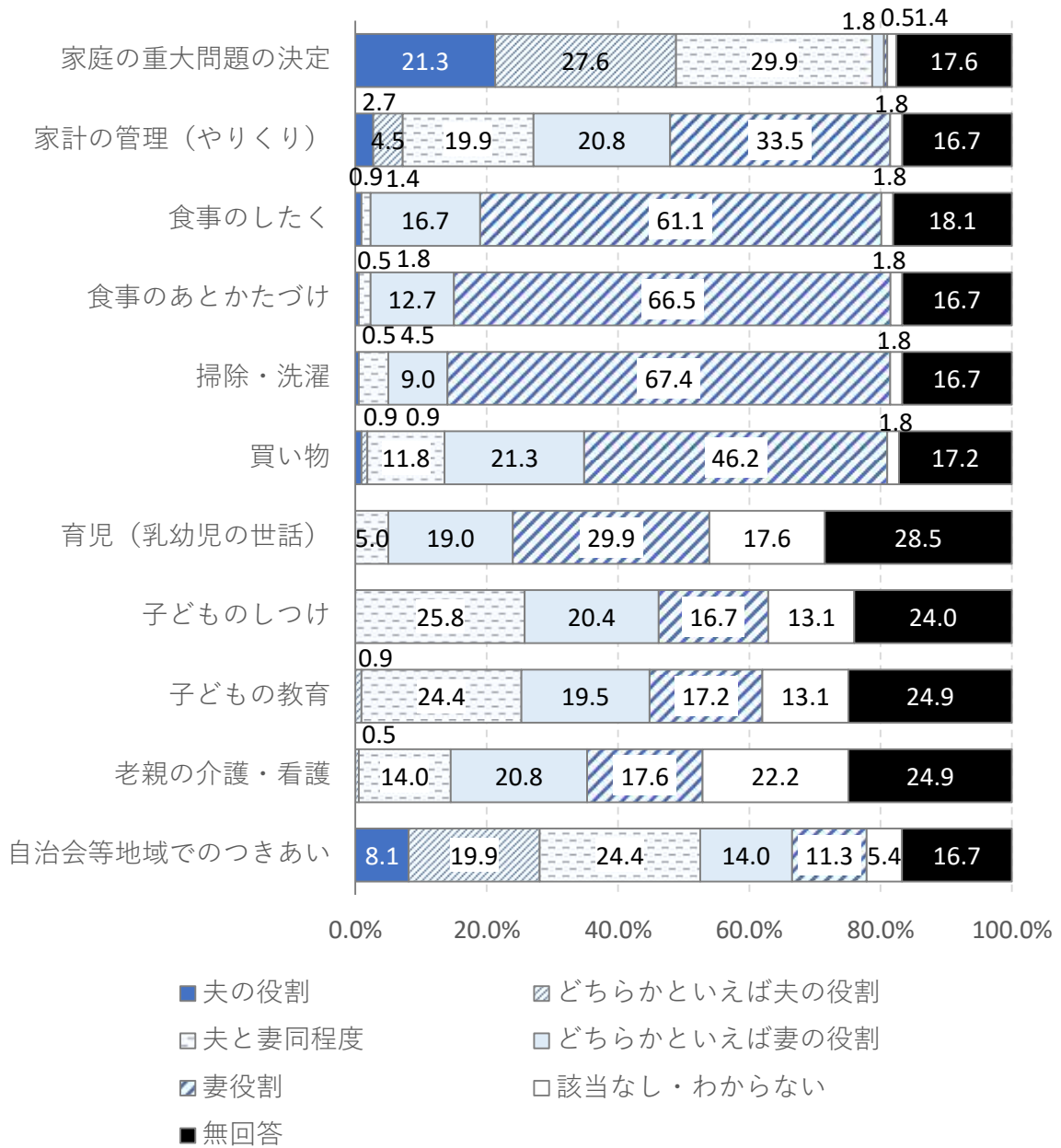


※参考 まんのう町（平成18年度） 男性（N=114）





※参考 まんのう町（平成18年度） 女性（N=221）



## 職業・職場環境について

### 【調査結果】

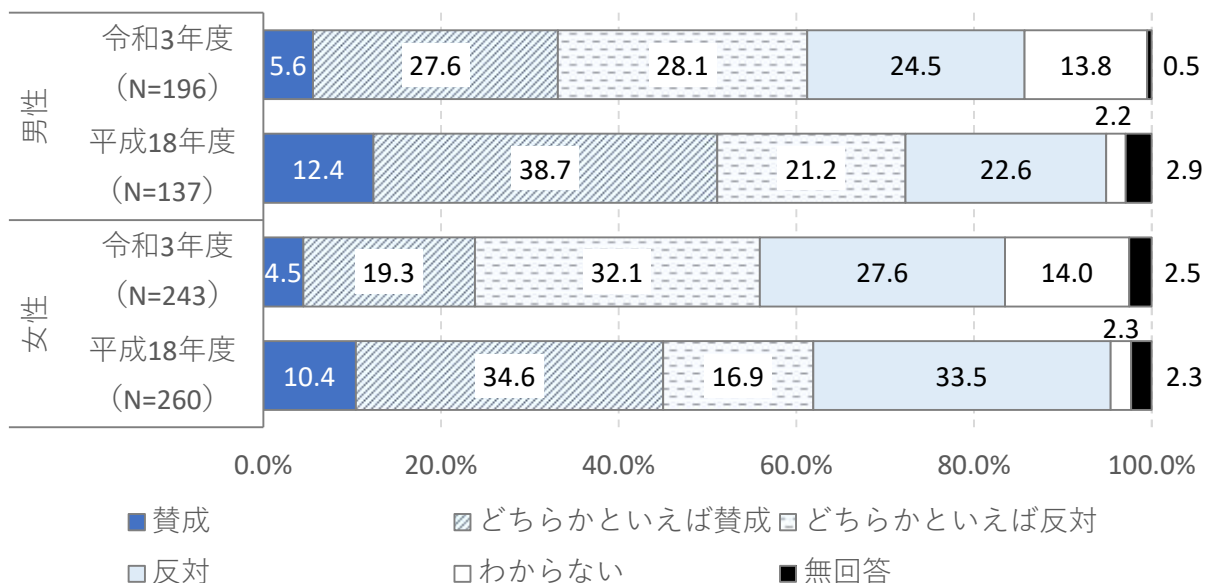
- ・「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について「反対」と回答した方は、男性は20歳代を除き、50～59歳までが多く、女性は30歳代までで最も多くを占めている。「反対」「どちらかといえば反対」と答えている“反対派”の割合は、まんのう町は56.2%、香川県は57.4%、全国では59.8%で少ない傾向にある。
- ・女性が職業を持つことについては、男性・女性ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が約5割、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が約3割を占めている
- ・育児休業の取得状況は、男性は1割未満、女性は2割程度となっており、女性の年齢別にみると、20～30歳代では約5割が取得（予定）しており、「希望はあるが取得できない（取得できなかった）」と答えた方は30歳代で最も多く、約2割を占めている
- ・介護休業の取得状況は、男性・女性ともに1割程度となっている
- ・働く意欲のある女性が長く働き続けたり、再就職するために重要なことは、男性・女性ともに「育児・介護休業制度等を利用しやすくする」が約5割と最も多く、次いで、男性は「賃金・昇進・仕事の内容等の男女間の格差をなくす」「保育サービスの整備を充実させる」「結婚・出産・育児・介護等のために退職した社員の再雇用制度を充実させる」、女性は「労働時間短縮・フレックスタイム・在宅勤務などを導入し、労働環境を整備する」「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力を得られるようにする」が多くなっており、女性は労働環境と周囲からの理解を求めている

### 【結果検証】

- ・「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に「反対」「どちらかといえば反対」と回答した“反対派”の方をみると、女性では20歳代が84%で、ついで50歳代では74.2%とが多くなっており、時代的に女性の社会参画が意識され始めた世代であると推測される。
- ・「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方に、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した方をみると、20歳代～40歳代で男性よりも女性の方が多く、特に30歳代では約25%の回答があり、同年代で「非正規の社員や職員」が多いことや子育てに労力のかかる年代であることなどが原因であると推測される。
- ・女性が職業を持つことについてみると、小学生未満または小学生の子どもがいる方の約7割が「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えており、また、女性が働くことについて、女性自身が重視するのは、育休など休業制度、労働時間短縮など労働環境、周囲の理解の3点となっており、制度や環境を整備すると同時に、それらを積極的に利用できる風土を培うことが重要と考える。

問9. あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。

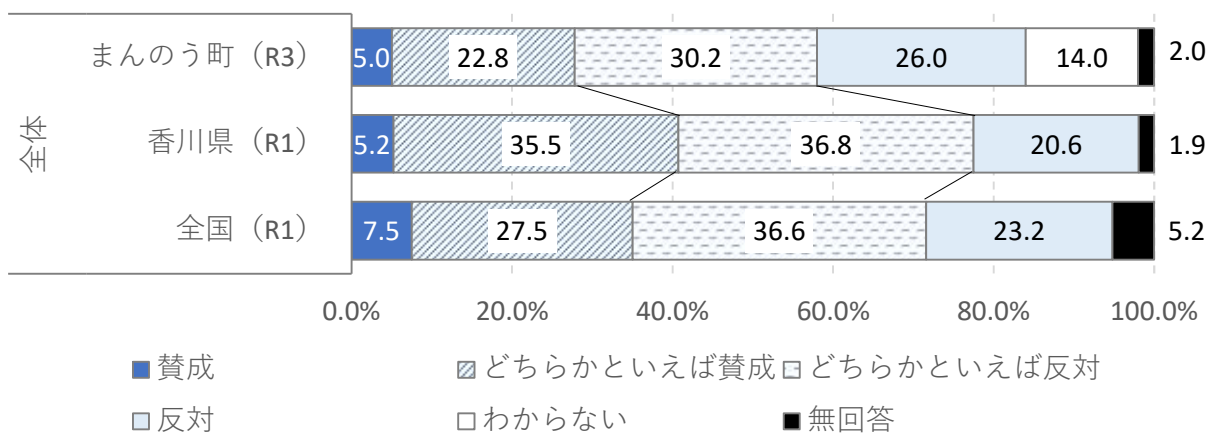
(〇は1つ)



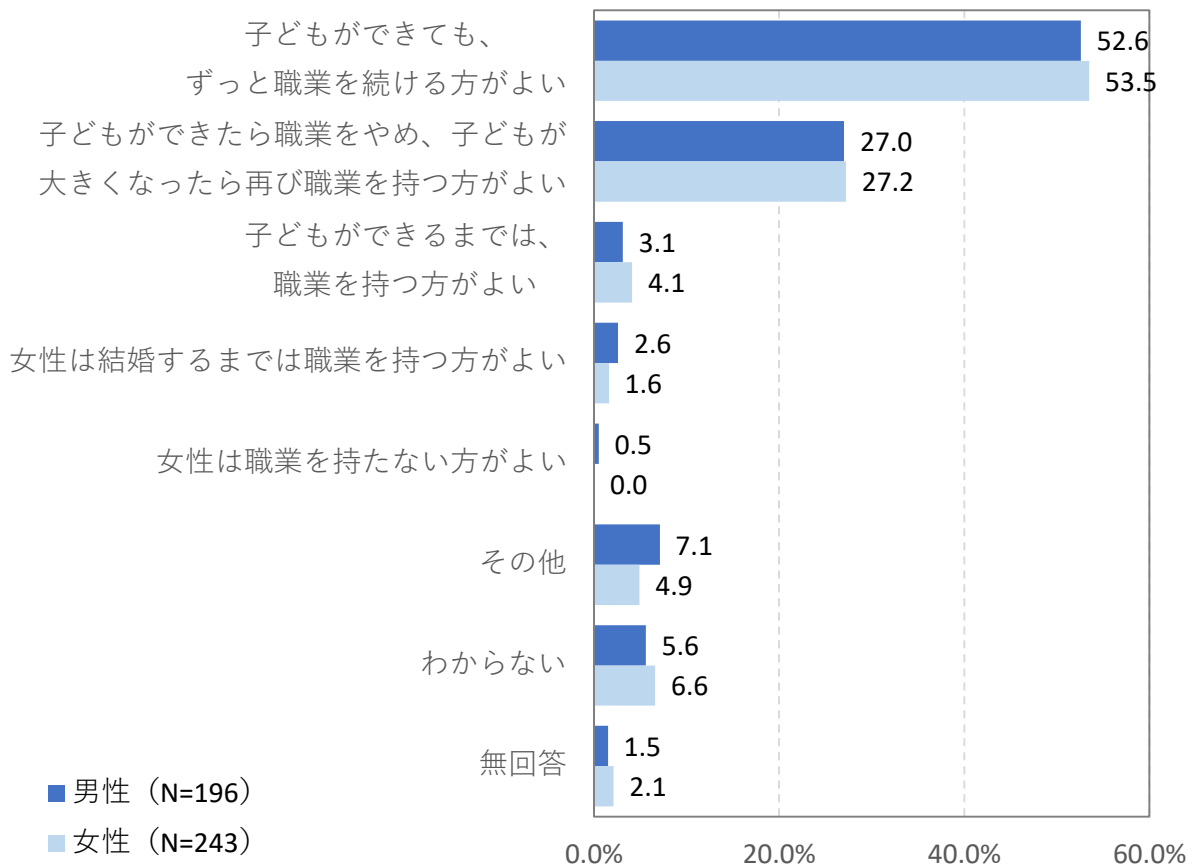
【「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について】 単位：%

回答者		賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
男性	18～19歳 (N=1)	-	-	-	100.0	-	-
	20～29歳 (N=9)	-	-	55.6	11.1	33.3	-
	30～39歳 (N=14)	7.1	7.1	28.6	50.0	7.1	-
	40～49歳 (N=19)	-	10.5	31.6	36.8	21.1	-
	50～59歳 (N=29)	6.9	10.3	27.6	34.5	17.2	3.4
	60～69歳 (N=37)	-	18.9	45.9	21.6	13.5	-
	70歳以上 (N=87)	9.2	47.1	17.2	16.1	10.3	-
女性	18～19歳 (N=3)	-	-	-	100.0	-	-
	20～29歳 (N=25)	-	8.0	32.0	52.0	4.0	4.0
	30～39歳 (N=16)	6.3	18.8	31.3	31.3	12.5	-
	40～49歳 (N=22)	9.1	13.6	36.4	22.7	18.2	-
	50～59歳 (N=31)	-	12.9	48.4	25.8	12.9	-
	60～69歳 (N=57)	1.8	14.0	43.9	22.8	17.5	-
	70歳以上 (N=89)	7.9	30.3	19.1	22.5	14.6	5.6

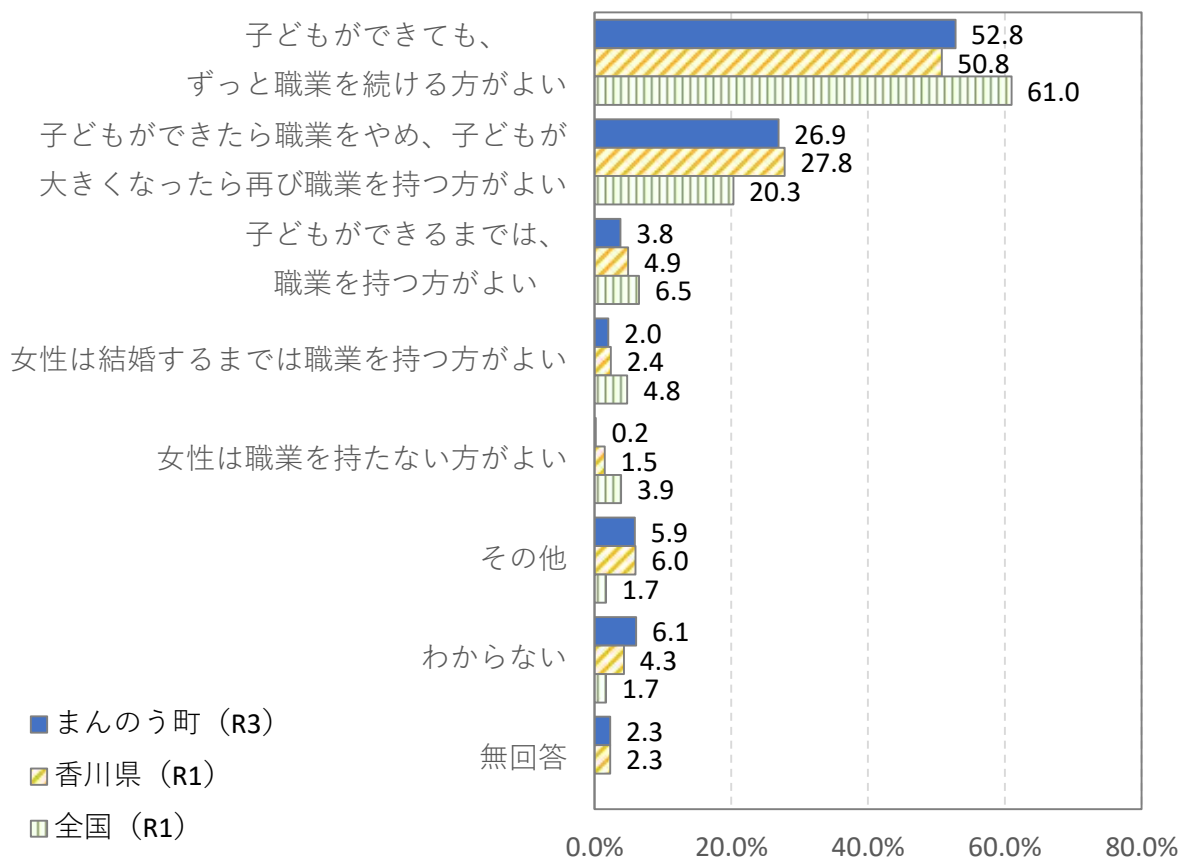
参考



問 10. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどうお考えですか。（○は1つ）

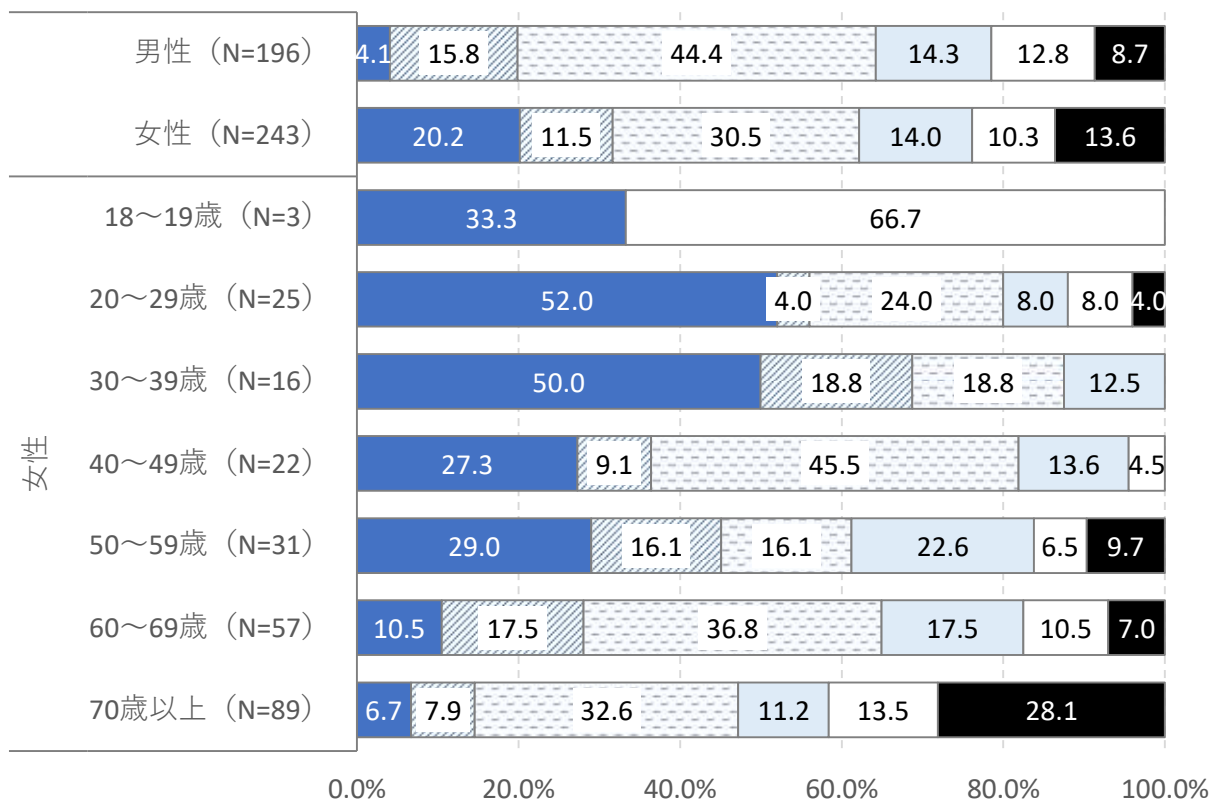


参考（全体）



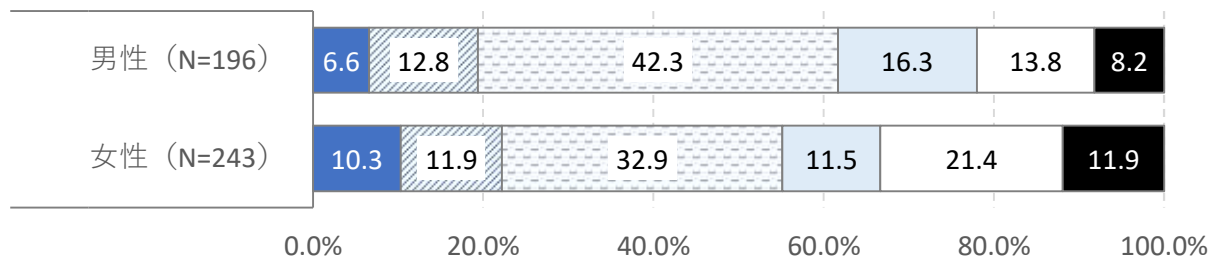
問 11. 育児休業、介護休業についてお聞かせください。(①と②それぞれに○は1つ)

### 育児休業



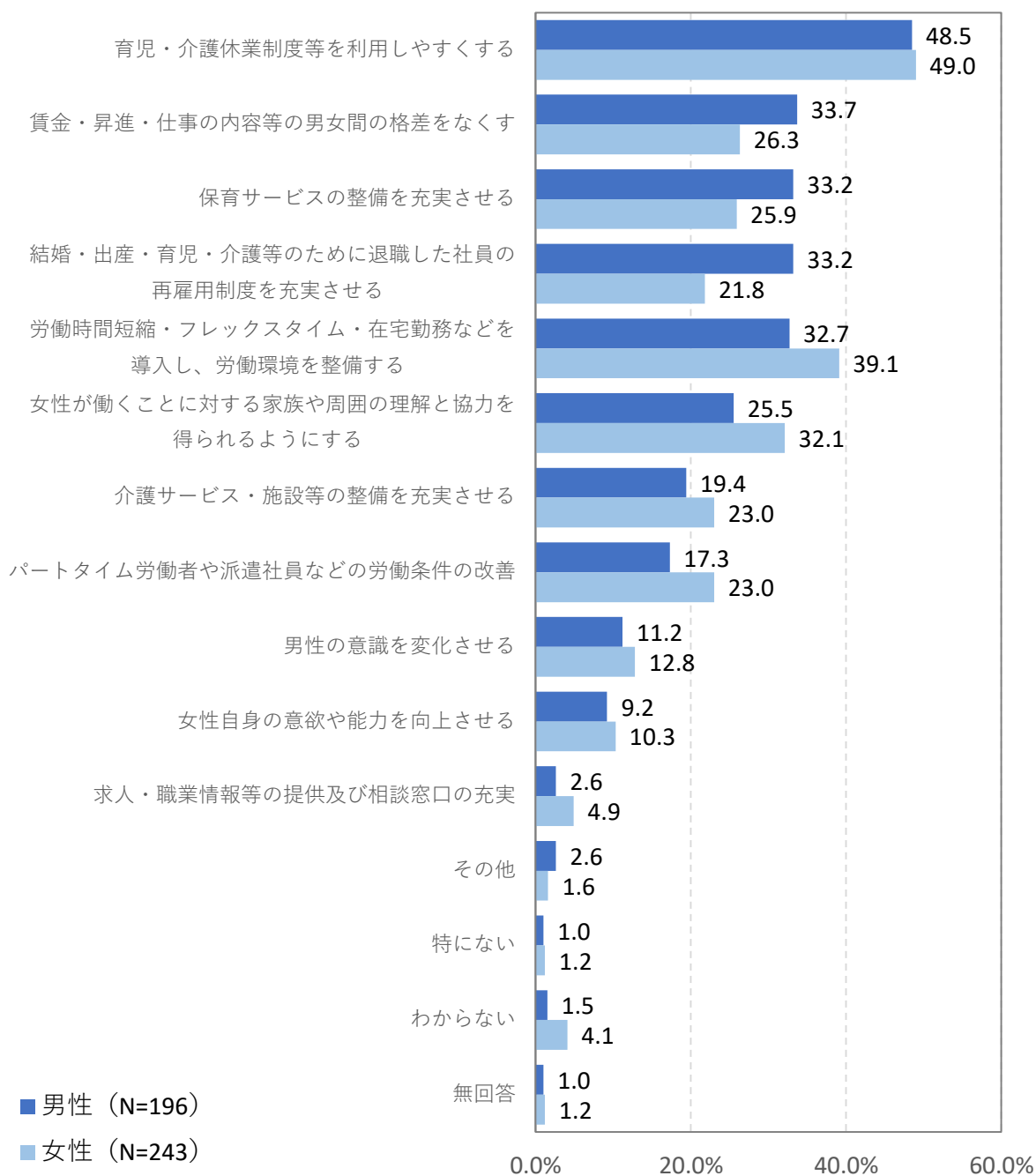
- 取得したことがある (取得するつもりだ)
- ▨ 希望はあるが取得できない (取得できなかった)
- 取得する必要がある (必要がなかった)
- 取得せずに退職する (退職した)
- 制度を知らない (わからない)
- 無回答

### 介護休業



- 取得したことがある (取得するつもりだ)
- ▨ 希望はあるが取得できない (取得できなかった)
- 取得する必要がある (必要がなかった)
- 取得せずに退職する (退職した)
- 制度を知らない (わからない)
- 無回答

問 12. あなたは、働く意欲のある女性が長く働き続けたり、再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。（〇は3つまで）



## 女性の活躍推進について

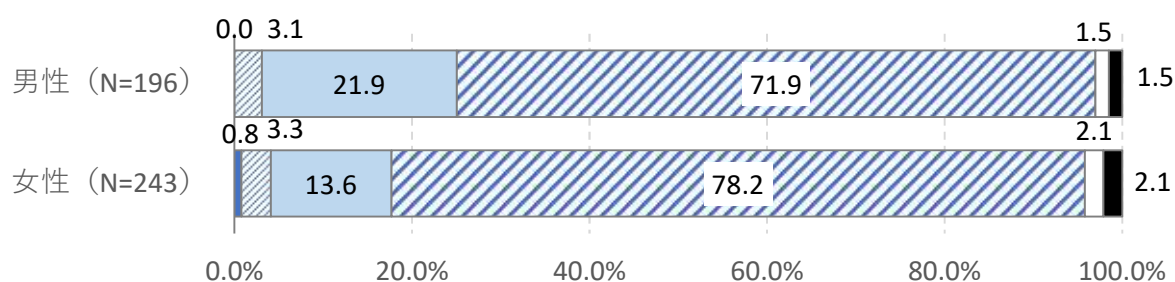
### 【調査結果】

- 女性が職場で役職につくことについては、男性・女性ともに「性別にかかわらず、能力のあるものは当然役職につくべきだ」が7割を超えており、女性の社会参画には賛同的となっている
- 女性は「女性の多い職場や女性の特性を活かせる職場」なら役職に就けると考える方が女性より男性に多い傾向がある。
- 企業や地域破壊、また政治や行政において、企画立案や方針決定の過程に女性リーダーが少ない理由は、男性・女性ともに「男性優位の組織運営」が約5割を占めているが、「家庭の支援や協力が得られない」と答えた方は女性が男性の約2倍を占めている

### 【結果検証】

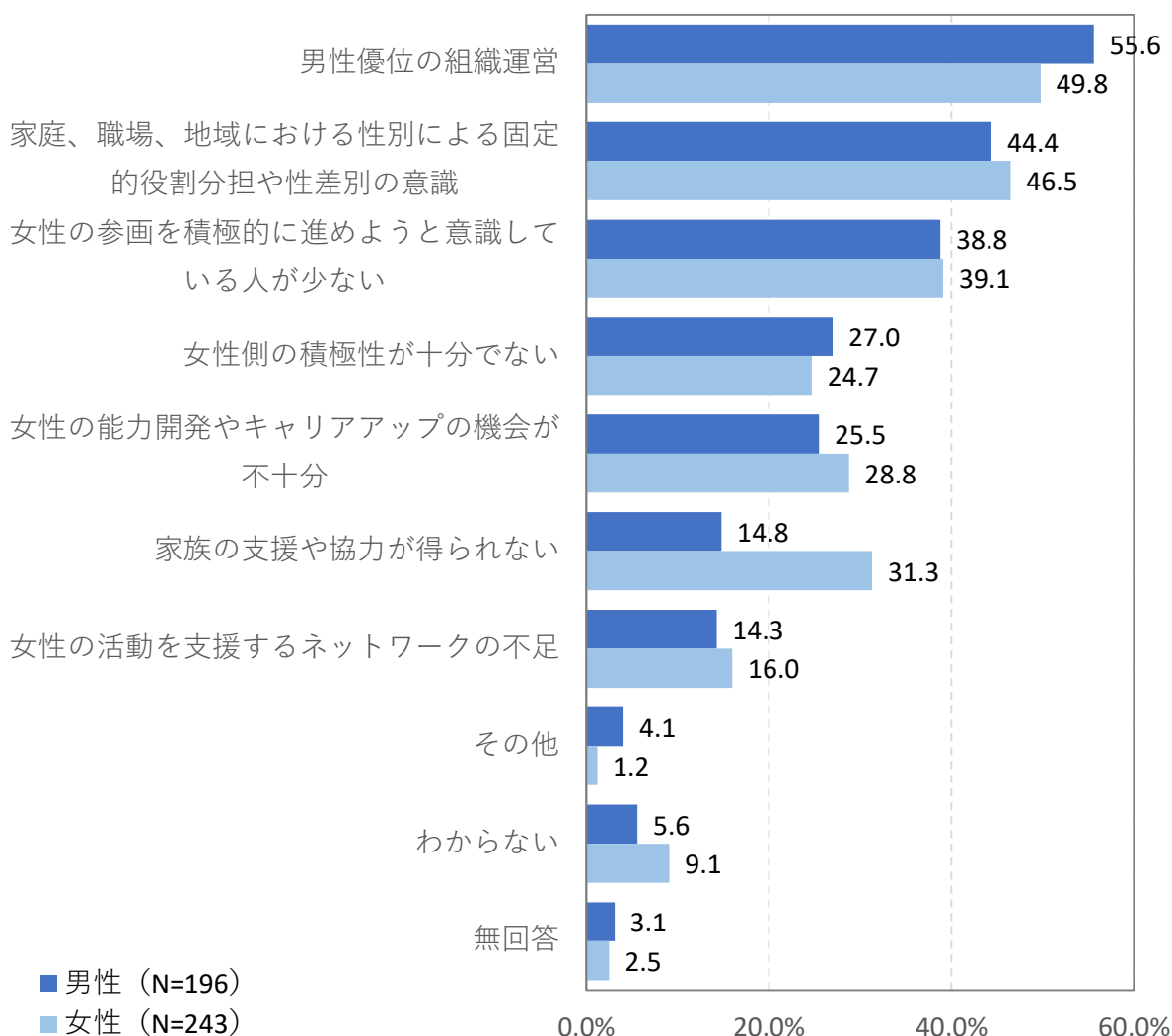
- 女性リーダーが少ない理由として、「男性優位の組織運営」「女性側の積極性が十分でない」は女性より男性、「家庭の支援や協力が得られない」は男性より女性が多く挙げており、女性も家庭の支援や協力が得られれば積極的に活躍できる可能性がある
- 「男性優位の組織運営」について、「家族、職場、地域における性別による固定的な役割分担や性差別の意識」、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」との回答が多く、女性の考えを積極的に企画立案や方針決定に反映するための意識改革や仕組みづくりが今まで以上に必要であるとの結果となった。

問 13. あなたは、女性が職場で役職につくことをどう思いますか。（〇は1つ）



- 職場での立場で女性が男性の上に立つのはよくない
- ▨ 女性は家庭を守ることをのほうが大切だから、役職につかないほうがよい
- 女性の多い職場や女性の特性を活かせる職場で役職につくのはよい
- ▨ 性別にかかわらず、能力のあるものは当然役職につくべきだ
- その他
- 無回答

問 14. あなたは、企業や地域社会、また政治や行政において、企画立案や方針決定の過程に女性リーダーが少ない理由は何だと思えますか。（〇はいくつでも）



【女性リーダーが少ない理由】

単位：%

回答者		男性優位の組織運営	家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識	女性の参画を積極的に進めようとしていない人が少ない	女性側の積極性が十分でない	女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分	家族の支援や協力が得られない	女性の活動を支援するネットワークの不足	その他	わからない	無回答
男性	20～29歳 (N=9)	55.6	66.7	44.4	11.1	22.2	11.1	22.2	-	11.1	-
	30～39歳 (N=14)	42.9	85.7	42.9	14.3	21.4	14.3	7.1	7.1	7.1	-
	40～49歳 (N=19)	63.2	63.2	21.1	15.8	5.3	10.5	-	5.3	5.3	-
	50～59歳 (N=29)	51.7	37.9	48.3	27.6	13.8	20.7	13.8	10.3	3.4	-
女性	20～29歳 (N=25)	52.0	52.0	36.0	28.0	24.0	28.0	4.0	-	12.0	-
	30～39歳 (N=16)	50.0	68.8	6.3	12.5	25.0	31.3	6.3	-	-	-
	40～49歳 (N=22)	50.0	54.5	31.8	18.2	31.8	36.4	9.1	9.1	13.6	4.5
	50～59歳 (N=31)	51.6	61.3	41.9	29.0	29.0	45.2	22.6	-	3.2	-

第1位

第2位

第3位



## 地域活動や防災について

### 【調査結果】

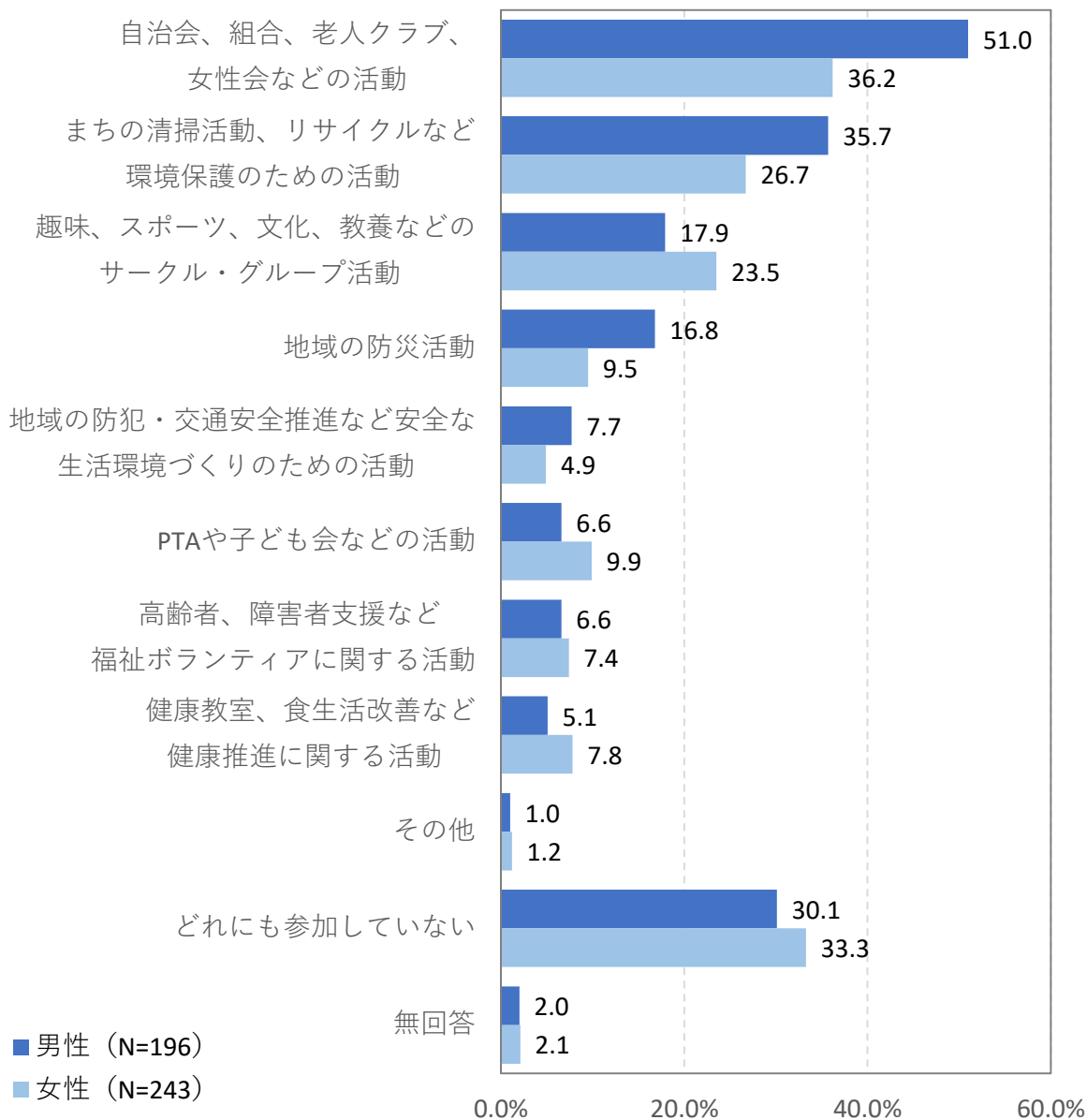
- この1年間の地域活動への参加は女性より男性が多く、男女ともに「自治会、組合、老人クラブ、女性会などの活動」が多い。また、男女とも約3割の方が「どれにも参加していない」と回答している。参加していない理由について、男性は「忙しくて時間がない」、女性は「参加するきっかけがない」が最も多い。
- 防災活動に関して、男女共同参画を推進していくために必要なことは、男性は「防災研修や防災訓練への女性の積極的な参加」、女性は「女性に配慮した避難所設備の確保」が最も多くなっている

### 【結果検証】

- 地域活動に参加している方は、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて増加傾向となっており、60歳代以上は女性より男性に多く、退職後に地域活動へ参加する方が多い可能性がある
- 「忙しくて時間がない」を理由に地域活動に参加していない方は、男性・女性ともに、働き盛りや子育て世代の多い40歳代で最も多くなっている
- 防災活動に関して男女共同参画を推進していくために必要なこととして、女性は「女性に配慮した避難所設備の確保」を挙げた人が一番多く、女性目線での意見を反映する場が必要であるとの結果となった。反面、「自主防災組織への女性の積極的な参加」や「女性消防職員や消防団員の育成」では、男性の回答よりも大きく下回っていることから、防災活動の最前線での活動ではなく、女性目線で活躍できる場について今後考えていく必要がある。

問 15. あなたはこの1年間で、どのような地域活動に参加しましたか。

(※コロナ禍等で中止になった場合は、コロナ前の1年間でどのような地域活動に参加したかを回答してください。)(〇はいくつでも)



【この1年間に参加した地域活動】

単位：%

回答者		自治会、組合、老人クラブ、女性会などの活動	まちの清掃活動、リサイクルなど環境保護のための活動	趣味、スポーツ、文化、教養などのサークル・グループ活動	地域の防災活動	地域の防犯・交通安全推進など安全な生活環境づくりのための活動	PTAや子ども会などの活動	高齢者、障害者支援など福祉ボランティアに関する活動	健康教室、食生活改善など健康推進に関する活動	その他	どれにも参加していない	無回答
男性	18～19歳 (N=1)	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳 (N=9)	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	88.9	-
	30～39歳 (N=14)	28.6	21.4	35.7	21.4	14.3	28.6	-	-	-	57.1	-
	40～49歳 (N=19)	57.9	21.1	15.8	15.8	10.5	26.3	-	-	5.3	26.3	-
	50～59歳 (N=29)	41.4	44.8	6.9	13.8	-	-	3.4	3.4	-	37.9	-
	60～69歳 (N=37)	75.7	59.5	18.9	21.6	2.7	5.4	13.5	-	-	13.5	2.7
	70歳以上 (N=87)	51.7	32.2	18.4	17.2	11.5	2.3	8.0	10.3	1.1	25.3	3.4
女性	18～19歳 (N=3)	-	33.3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-
	20～29歳 (N=25)	-	-	4.0	4.0	-	16.0	-	-	-	76.0	-
	30～39歳 (N=16)	6.3	12.5	6.3	-	-	43.8	-	-	-	50.0	-
	40～49歳 (N=22)	18.2	9.1	18.2	4.5	13.6	31.8	4.5	-	4.5	45.5	4.5
	50～59歳 (N=31)	41.9	32.3	16.1	9.7	6.5	12.9	6.5	-	-	29.0	-
	60～69歳 (N=57)	50.9	38.6	40.4	15.8	7.0	1.8	12.3	12.3	1.8	17.5	1.8
	70歳以上 (N=89)	46.1	31.5	23.6	9.0	3.4	1.1	9.0	13.5	1.1	27.0	3.4

問 15. で「どれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。

問 16. どれにも参加していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）

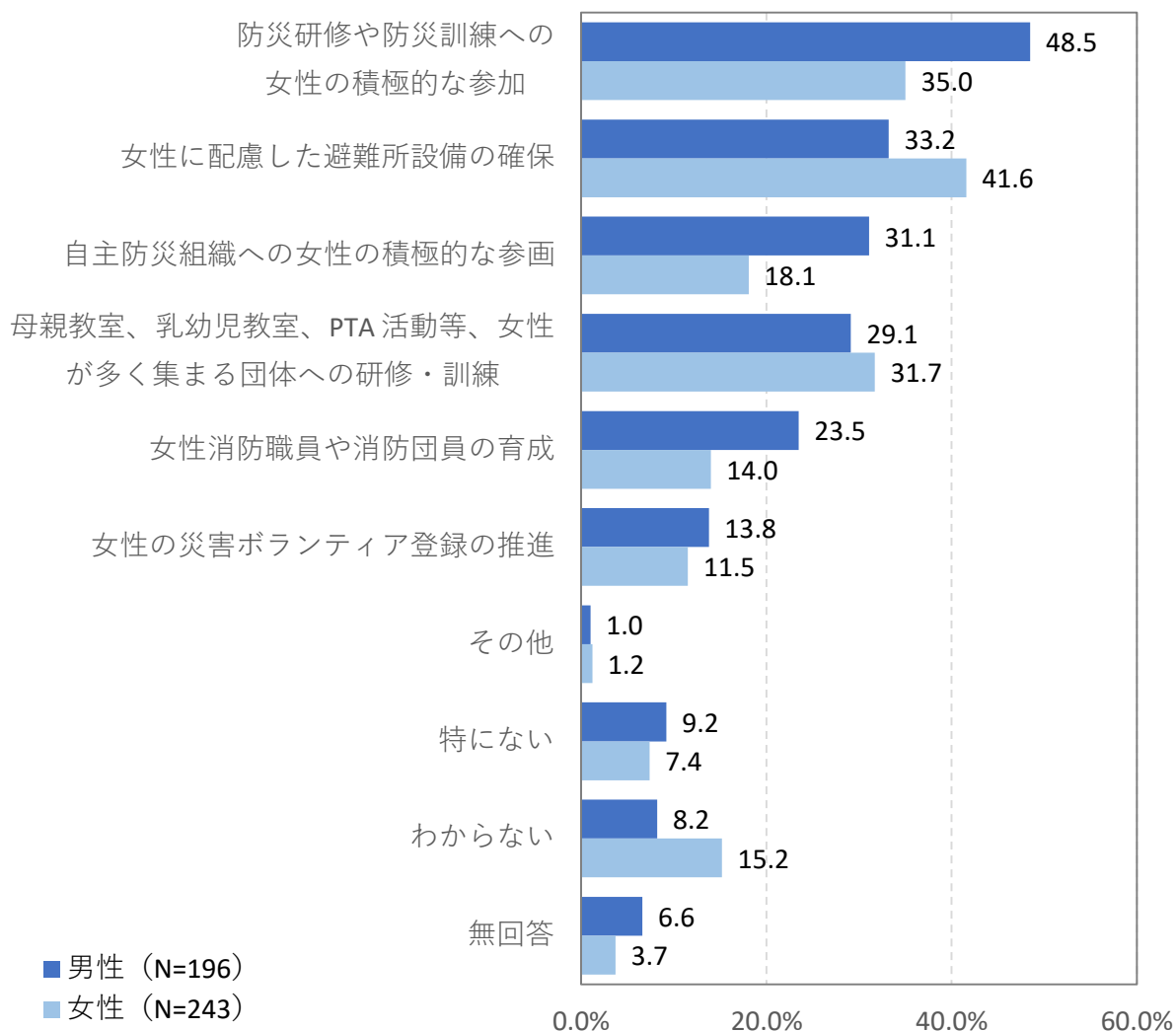
【この1年間に地域活動に参加していない理由】

単位：%

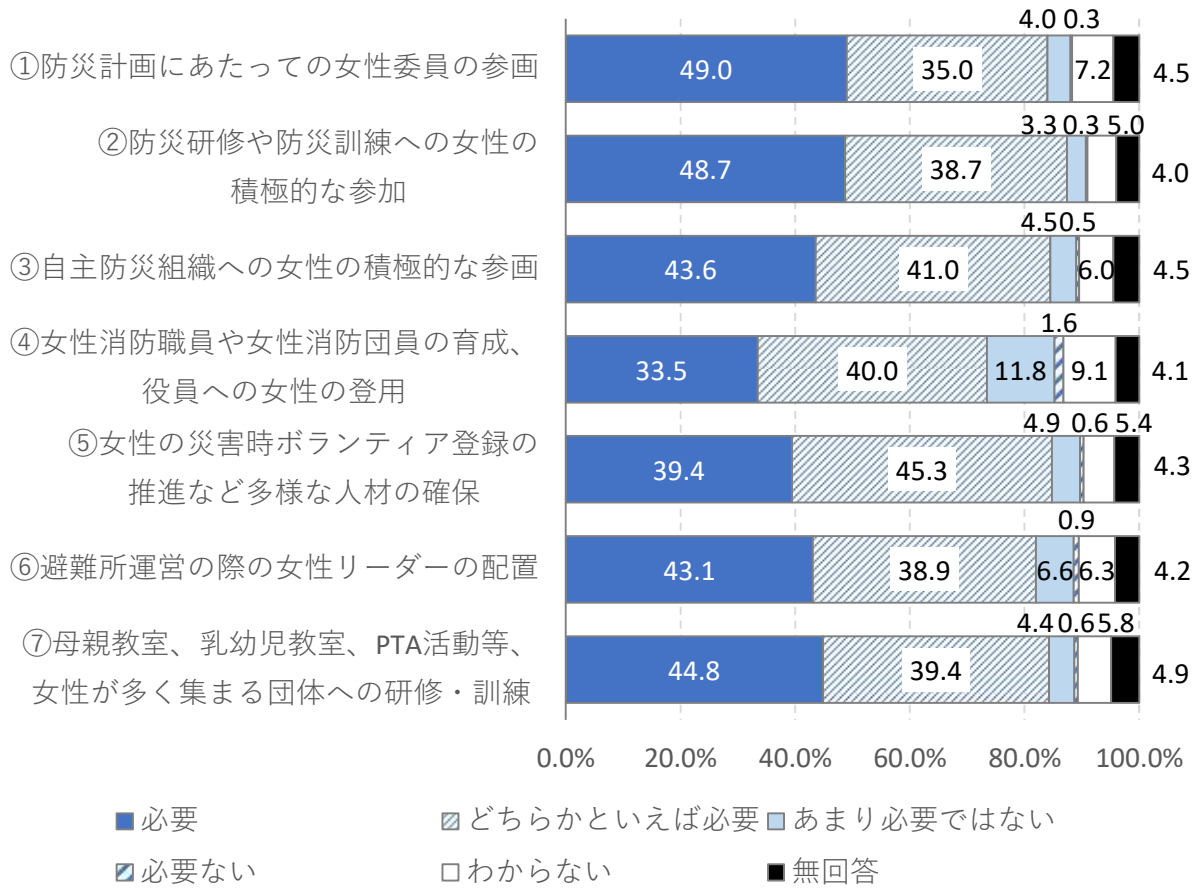
	忙しくて時間がない	参加したいが、家族の理解がない	一緒に参加する人（顔見知りなど）がない	意見を発言しにくい（意見を上げられにくい）	人間関係がわずらわしい	役員や世話人になりたくない	参加するきっかけがない	必要性を感じない	地域活動に関する情報が少ない	地域活動が衰退している	その他	無回答
男性（N=59）	30.5	-	16.9	1.7	23.7	13.6	27.1	18.6	13.6	16.9	20.3	6.8
女性（N=81）	34.6	-	17.3	-	23.5	18.5	37.0	16.0	11.1	8.6	16.0	2.5

■ 第1位    ■ 第2位    ■ 第3位

問 17. 防災活動に関して、男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



< 参考（香川県 R1） >



# ドメスティック・バイオレンス (DV) について

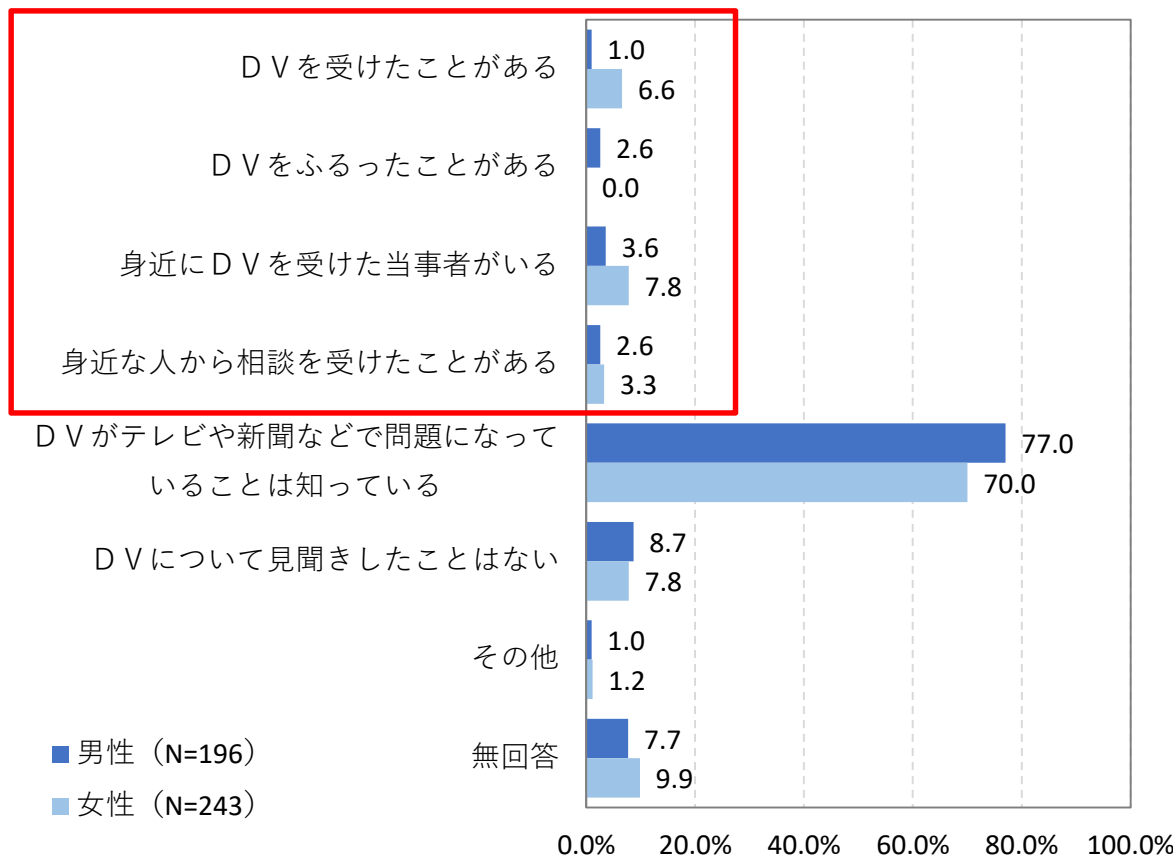
## 【調査結果】

- DVを受けたことがある方は男性で1.0%、女性で6.6%といずれも1割未満となっており、DVをふるったことがある方は男性で2.6%を占めている
- DVを受けた際の相談先は「家族・親族」「友人・知人」が多くなっているが、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方も男性で1人（50%）、女性で5人（31.3%）となっており、相談しなかった理由は、男性は「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、女性は「相談しても無駄だと思ったから」が最も多い
- DVに対する支援や対策として必要な取組は、男性・女性ともに「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」が最も多く、「DVに関する広報・啓発活動の積極的な実施」は男性が女性の約2倍を占めている

## 【結果検証】

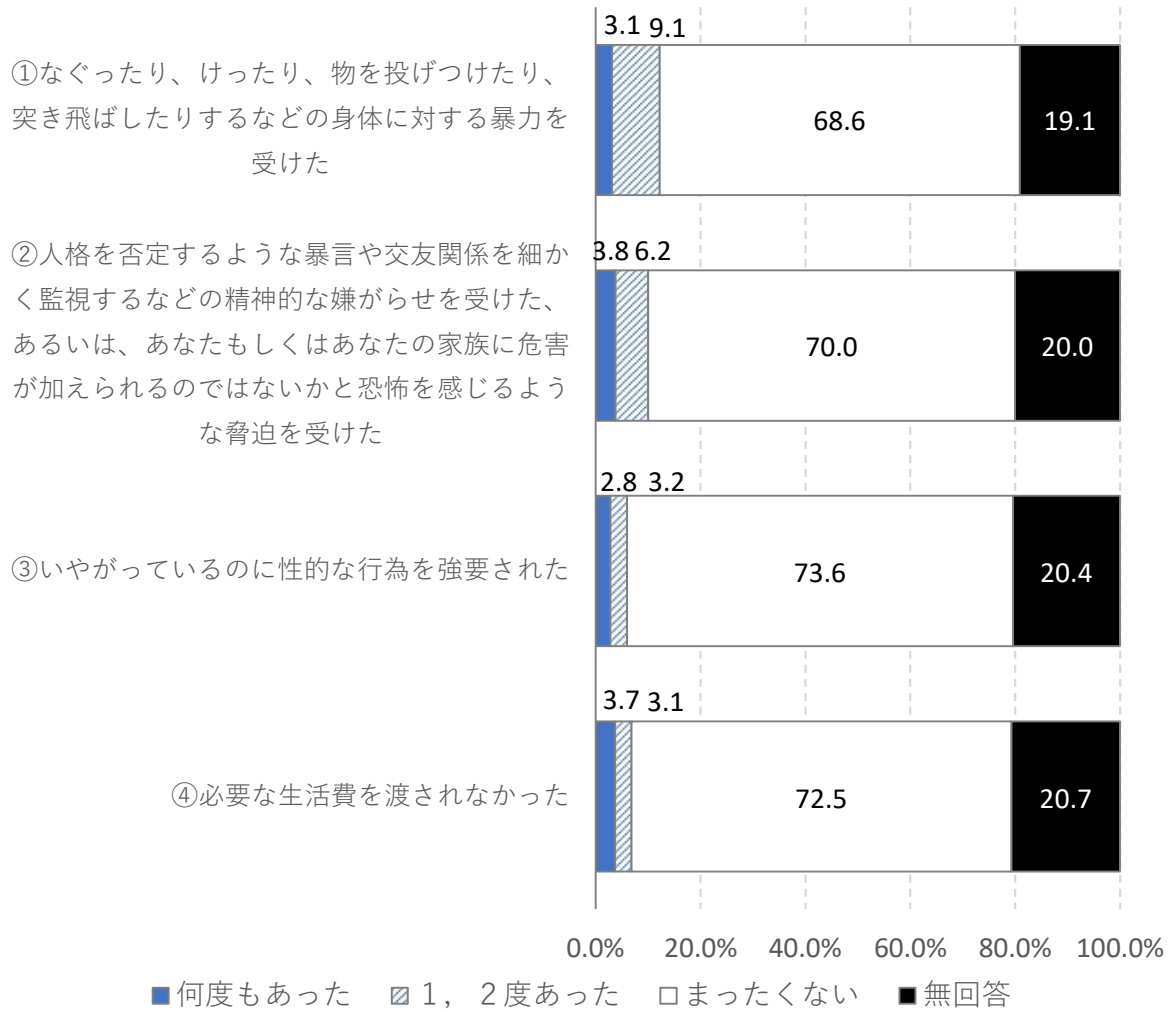
- DV経験者の相談先として公的機関がほとんど挙がっていないが、どこ（だれ）にも相談しなかった方の理由で「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから」「相談する人がいなかったから」がそれぞれ4割を占めていることから、公的機関の周知を図るとともに、利用しやすいような工夫・改善を進める必要がある
- 香川県全体でも家族・親戚、友人・知人が多いという類似した傾向が出ていることから、公的機関につながりづらいという特徴を踏まえた対策を検討する必要がある
- DV対策として、唯一男女間で違いが見られたのは「広報・啓発活動」となっており、DV被害者が男性より女性に多いことから、「広報・啓発活動」にとどまらず、相談体制の強化や被害を受けたときの対応など実効性のある取組みを期待していると考えられる

問 18. あなたは、ドメスティック・バイオレンス (DV) ※2を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。(〇はいくつでも)



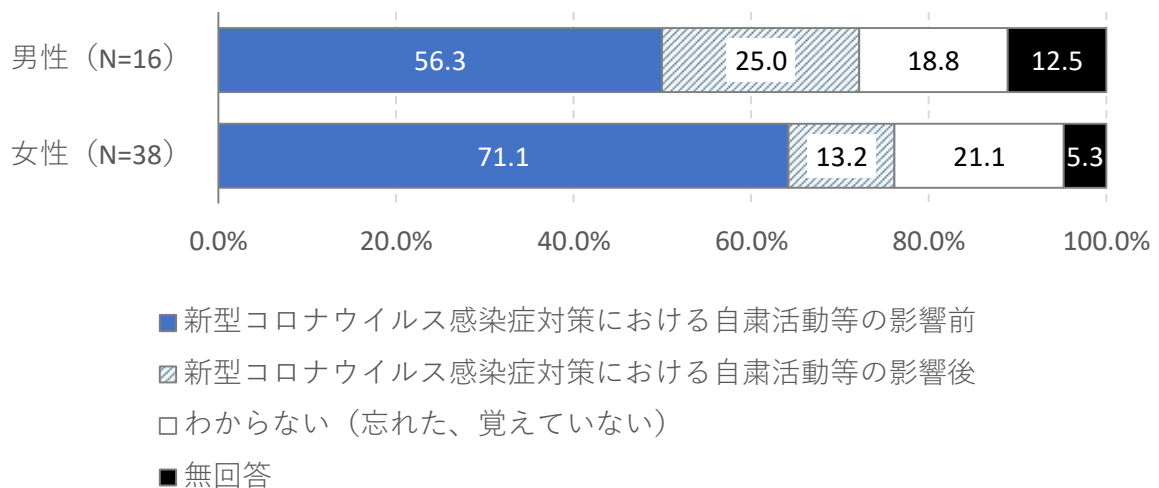
※2 配偶者や恋人などごく親しい男女間で起こる暴力のこと(殴る、蹴るなどの身体的な暴力、精神的な暴力、性行為の強要など性的な暴力、言葉の暴力、経済的な暴力、社会的な暴力を含みます。)

< 参考（香川県 R1） >



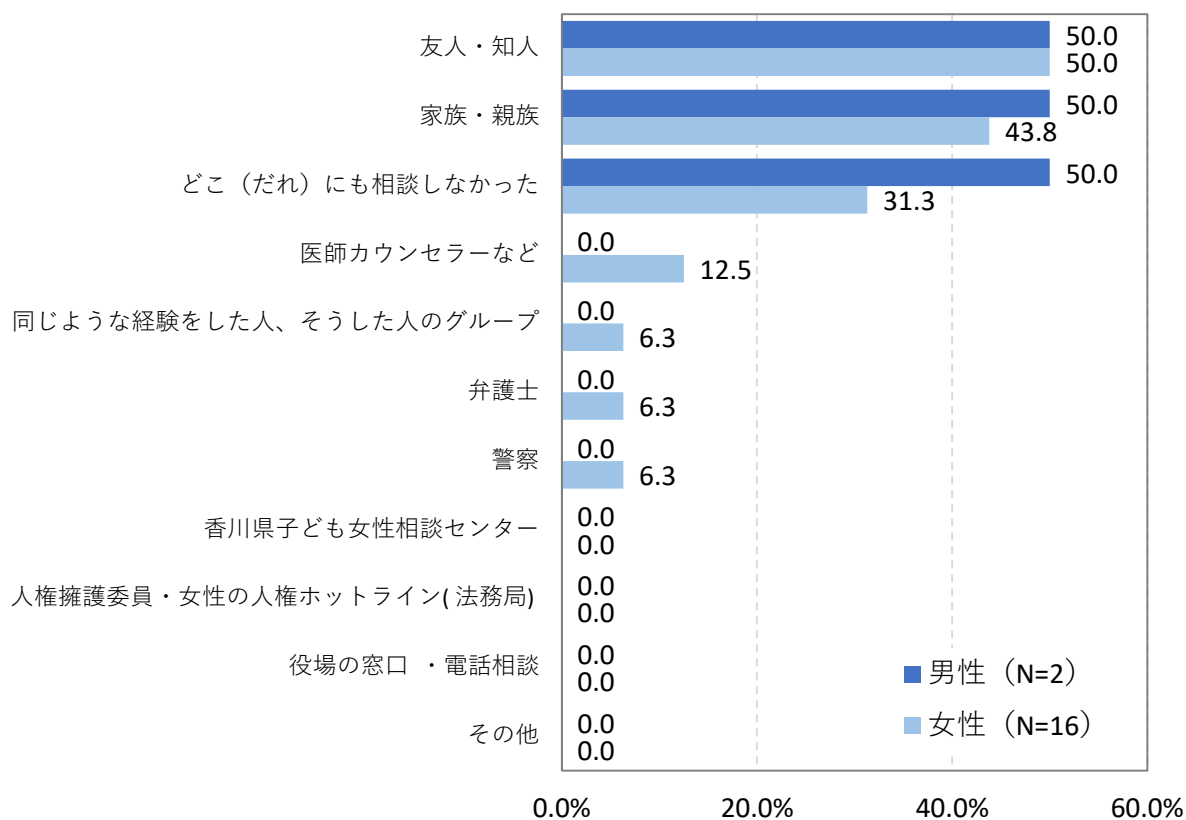
問 18. で「DVを受けたことがある」「DVをふるったことがある」「身近にDVを受けた当事者がいる」「身近な人から相談を受けたことがある」と回答した方にお尋ねします。

問 19. それはいつですか。（新型コロナウイルスの前も後もある場合は○を両方へ）

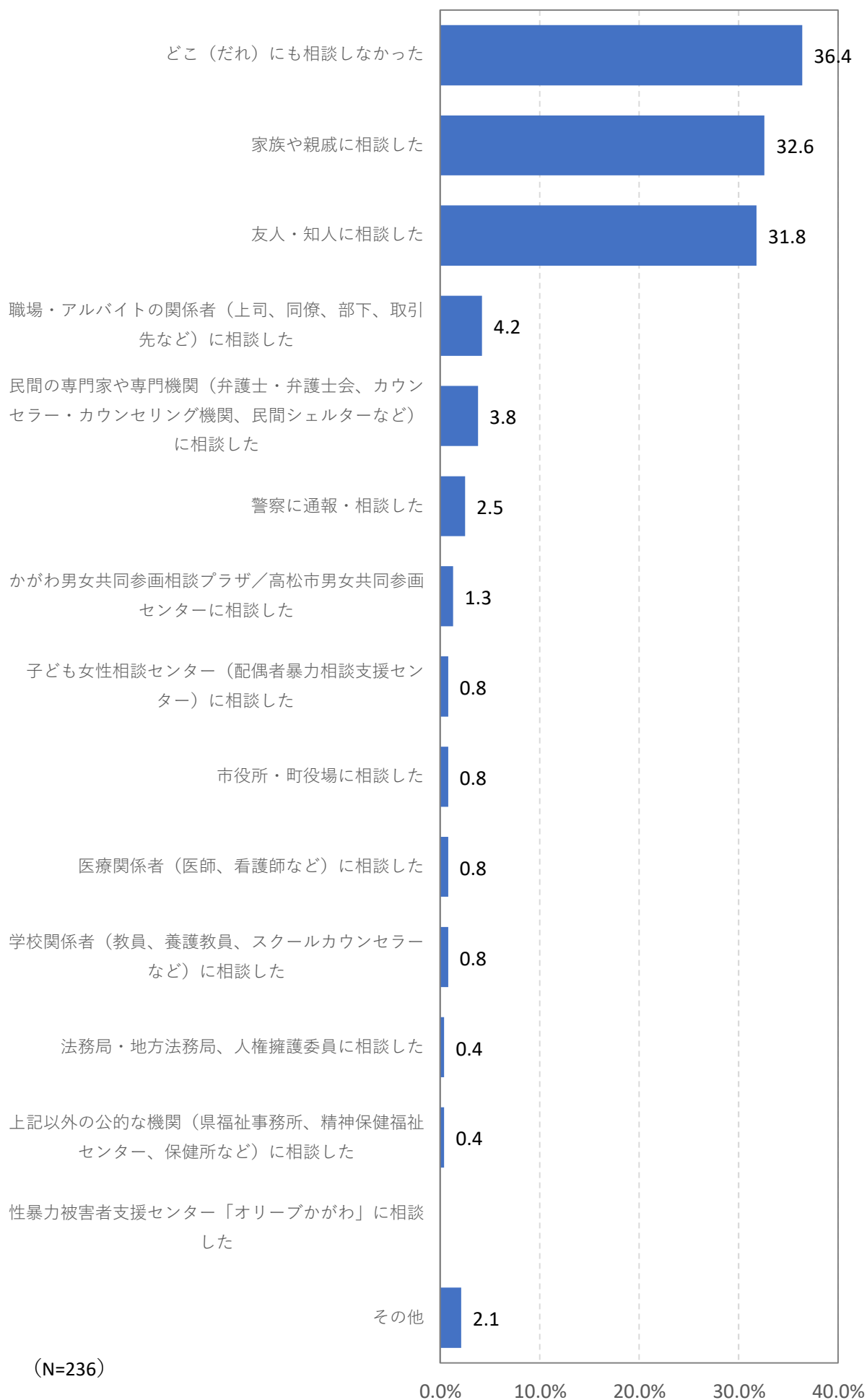


問 18 で「DV を受けたことがある」と回答した方にお尋ねします。

問 20. あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)



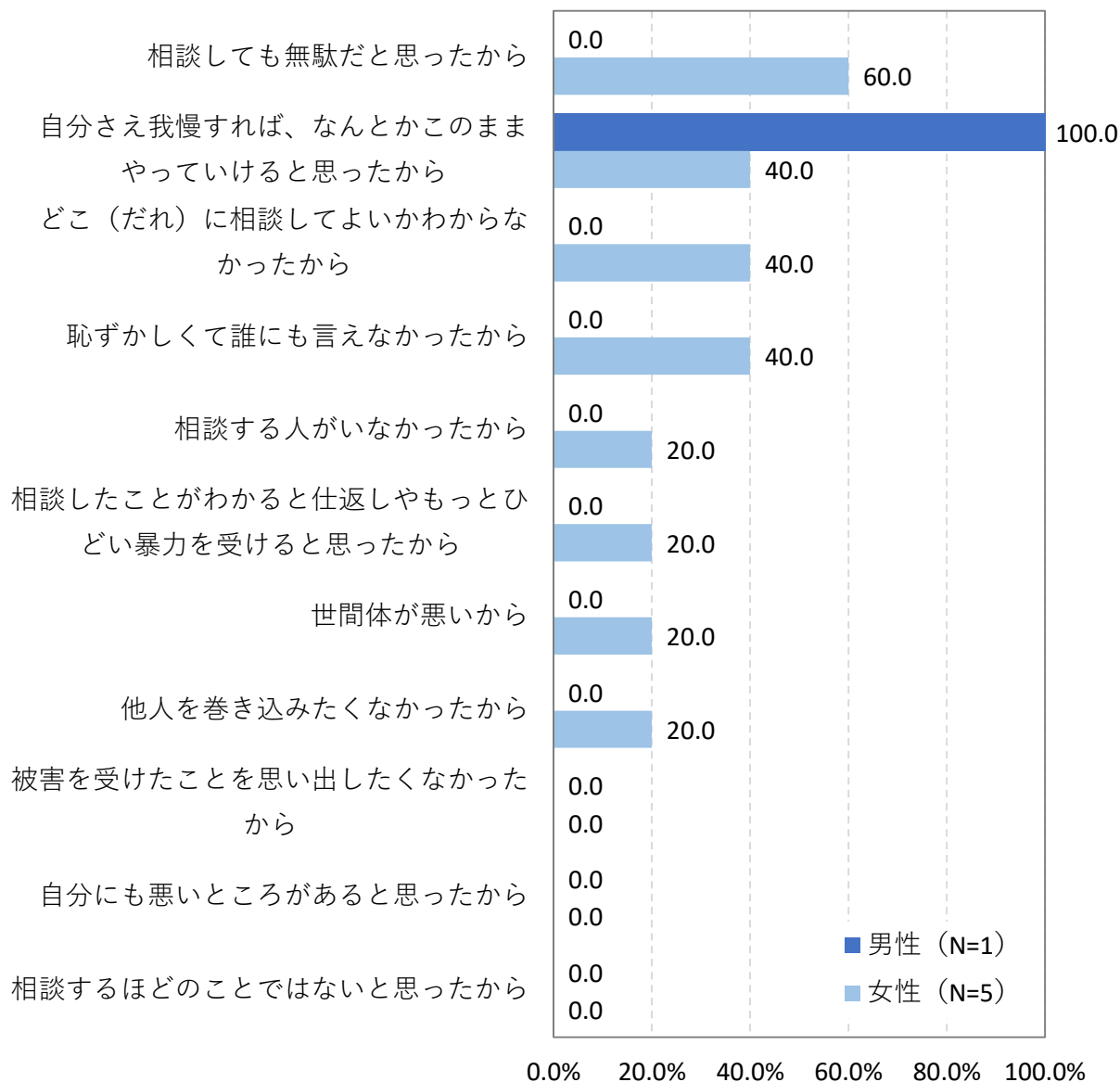
< 参考（香川県 R1） >



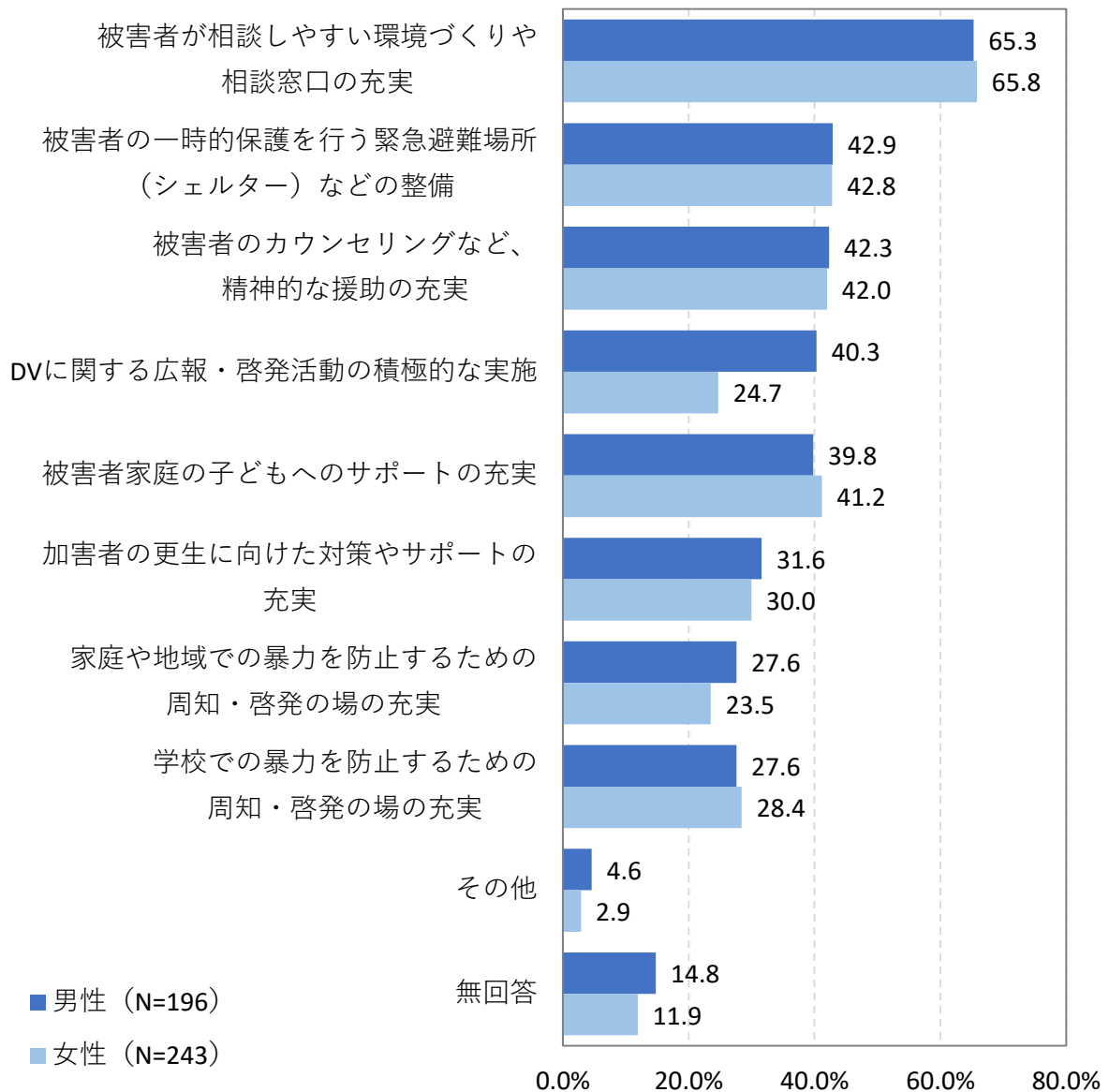


問 20 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方にお尋ねします。

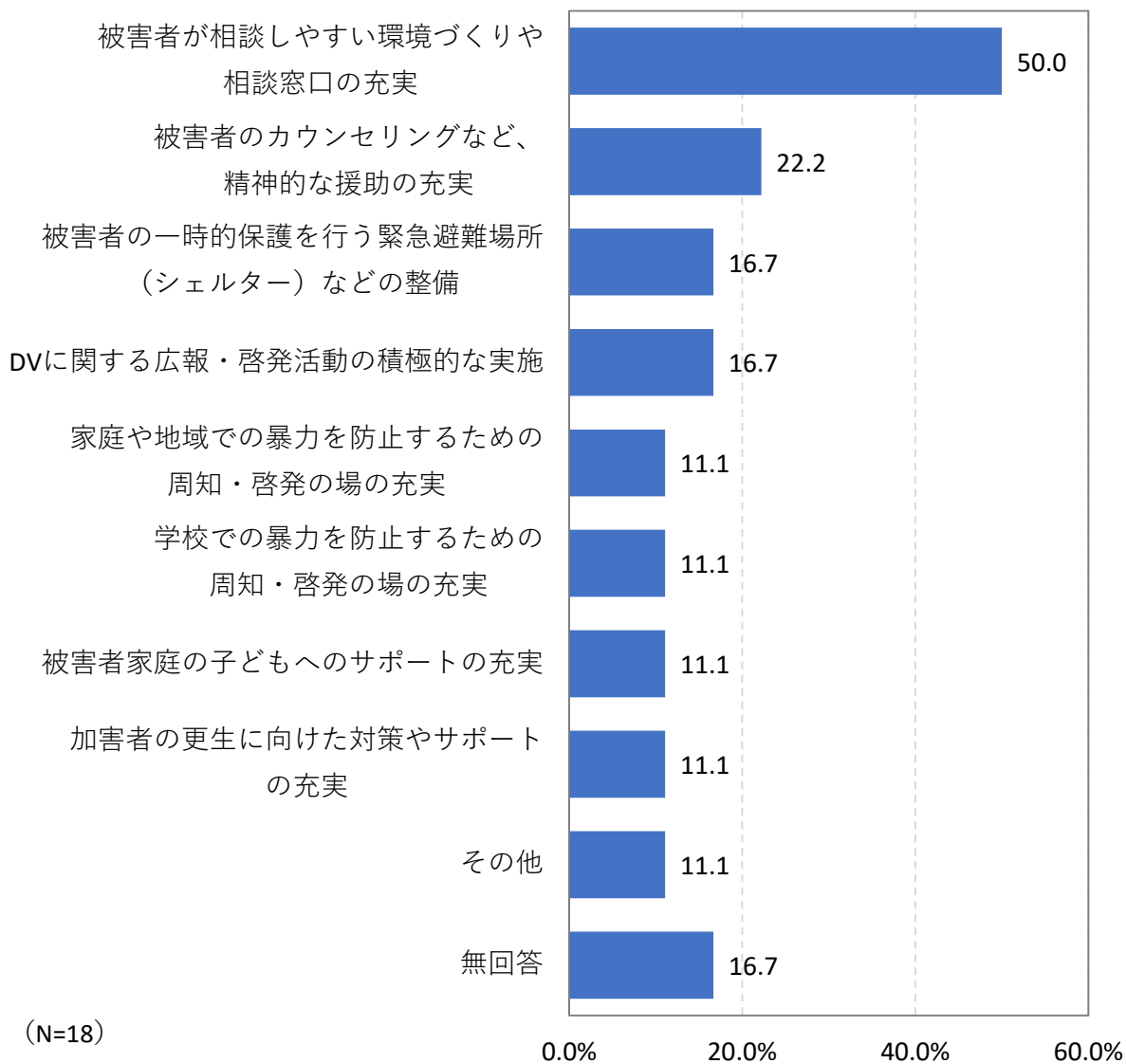
問 21. 相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。（〇はいくつでも）



問 22. ドメスティック・バイオレンス（DV）に対する支援や対策として、どのような取組が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



### DVを受けたことがある方のみ



## 人権について

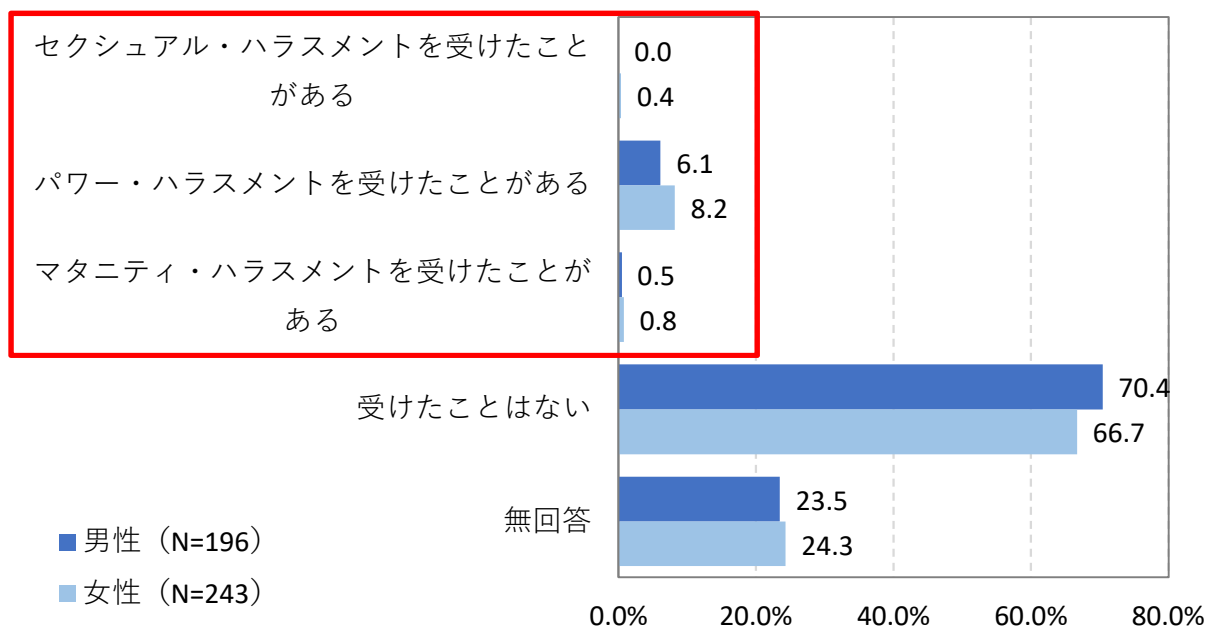
### 【調査結果】

- ここ1～2年の間に、職場・学校・地域でハラスメントを受けた方は、男性・女性ともに約1割いるという結果になった。その中でもパワー・ハラスメントが最も多くなっている。
- ハラスメントについて「相談しなかった（できなかった）」と答えた方は男性で5割、女性で約4割を占めており、相談しなかった（できなかった）理由は「相談しても無駄だと思ったから」が最も多い
- LGBTという言葉についての認知度は、全体で男女ともに6割以上と高い結果になっている。年代別では、20歳代～50歳代は約8割～9割と非常に高いが、70歳以上の方になると約4割と低くなっている。
- LGBTの方々にとって生きづらい社会だと思う方は男性・女性ともに約3割、「どちらかといえばそう思う」と答えた方も含めると約7割の方が生きづらいと社会と考えている
- LGBTが自分にかかわりのある問題として、悩んだり考えたりした方は1割未満となっていた。その中で、どこ（だれ）にも相談しなかった方は、男性で約7割、女性で約5割となっている。
- 性的少数者の多様性を認める社会を実現するために必要なことは、男性・女性ともに「性的少数者の人権を尊重した学校教育」と答えた方が最も多く、男性は女性より「性的指向及び性自認に関する正しい理解のための周知啓発活動」「性的少数者の利用に配慮した環境整備（トイレなど）」と答えた方が多く、女性は男性より「法制度・法的サービスの整備」「パートナーシップ制度の導入等」と答えた方が多い

### 【結果検証<sup>[株1]</sup>】

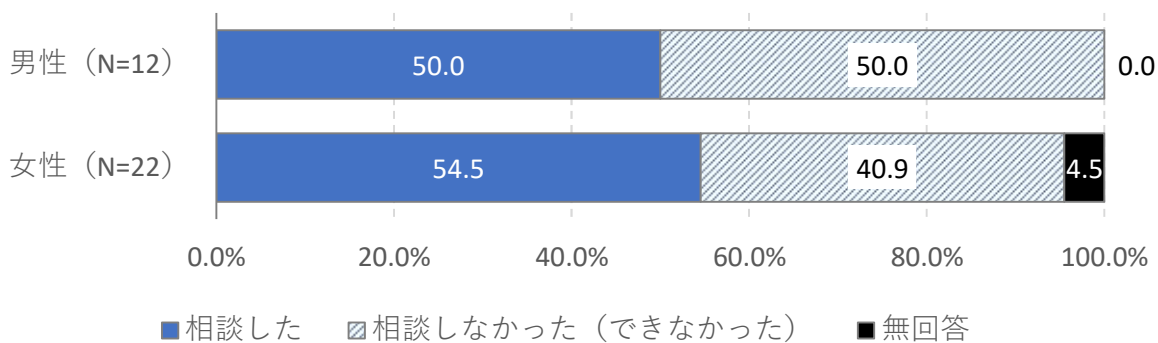
- DV・ハラスメント（被害者）と比較して、LGBT（当事者）では、家族・親戚や友人・知人も相談相手になりにくい傾向がある
- 当事者（関係者）の「多様性を認める社会」の実現に向けた意見では、回答者の多くが学校教育に注目しており、周知啓発よりも高い数値を示していることは特筆すべきである
- 当事者（関係者）のうち、「性的少数者の人権を尊重した学校教育」について、男性は「性的指向及び性自認に関する正しい理解のための周知啓発活動」と「性的少数者の利用に配慮した環境整備（トイレなど）」が多く、女性は「パートナーシップ制度の導入など」や「法制度・法的サービスの整備」が多くなっていることから、周囲の理解や環境の充実にとどまらず、制度・法的な整備が必要であり、男性よりも性の多様性についてオープンにしても問題ない社会の実現を求める傾向があるように考えられる。

問 23. あなたは、ここ 1～2 年の間に、職場・学校・地域でハラスメントを受けたことがありますか。  
(〇はいくつでも)



問 23 で「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」「パワー・ハラスメントを受けたことがある」「マタニティ・ハラスメントを受けたことがある」と回答した方にお尋ねします。

問 24. あなたはハラスメントについてこれまでにどこ（だれ）かに相談しましたか。  
(〇は1つ)



問 24 で「相談した」と回答した方にお尋ねします。

問 25. そのとき、どこ（だれ）に相談しましたか。(〇はいくつでも)

【ハラスメントについての相談先】

単位：%

	家族・親族	友人・知人	職場・学校	同じような経験をした人、 そうした人のグループ	弁護士	警察	香川県子ども 女性相談センター	人権擁護委員・女性の 人権ホットライン (法務局)	役場の窓口・ 電話相談	医師カウンセ ラーなど
男性 (N=6)	50.0	33.3	50.0	16.7	-	-	-	-	-	16.7
女性 (N=12)	50.0	50.0	75.0	-	-	-	-	-	-	8.3

問 24 で「相談しなかった（できなかった）」と回答した方にお尋ねします。

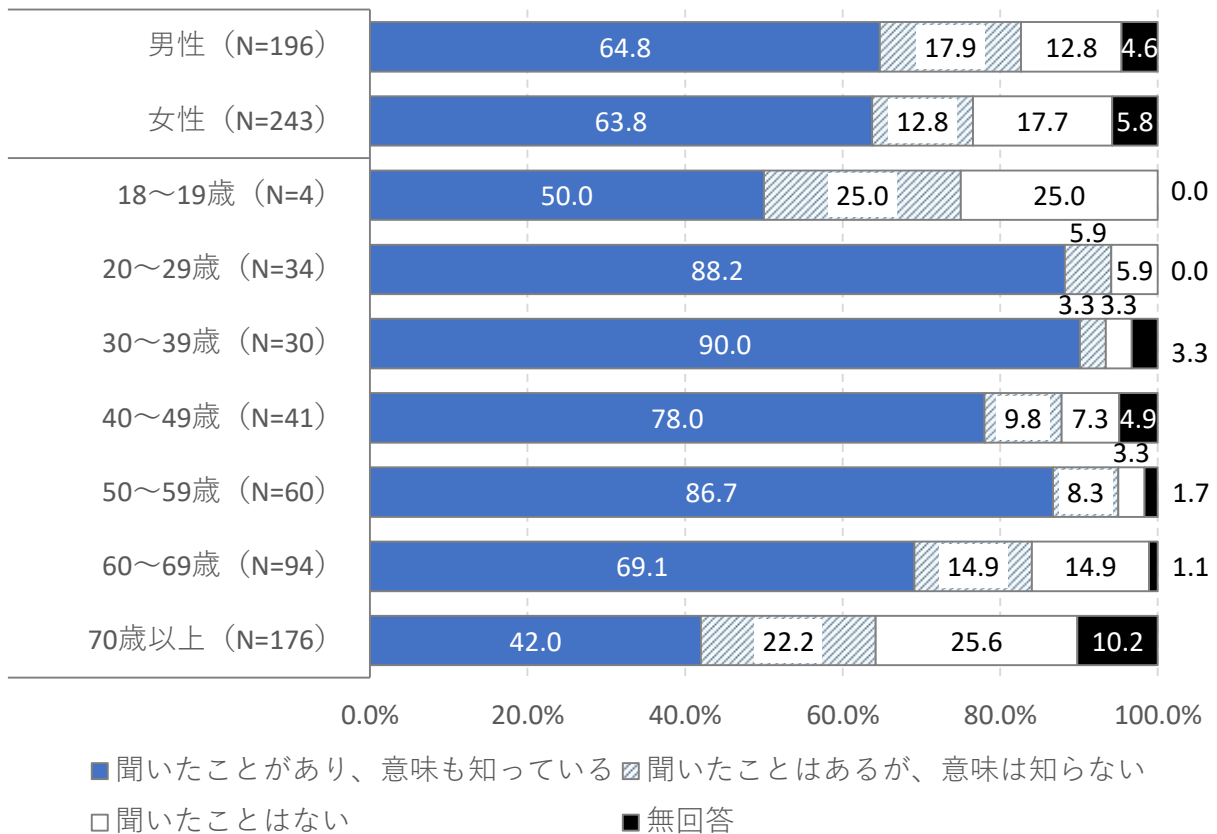
問 26. 相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。（〇はいくつでも）

【ハラスメントについて相談しなかった（できなかった）理由】

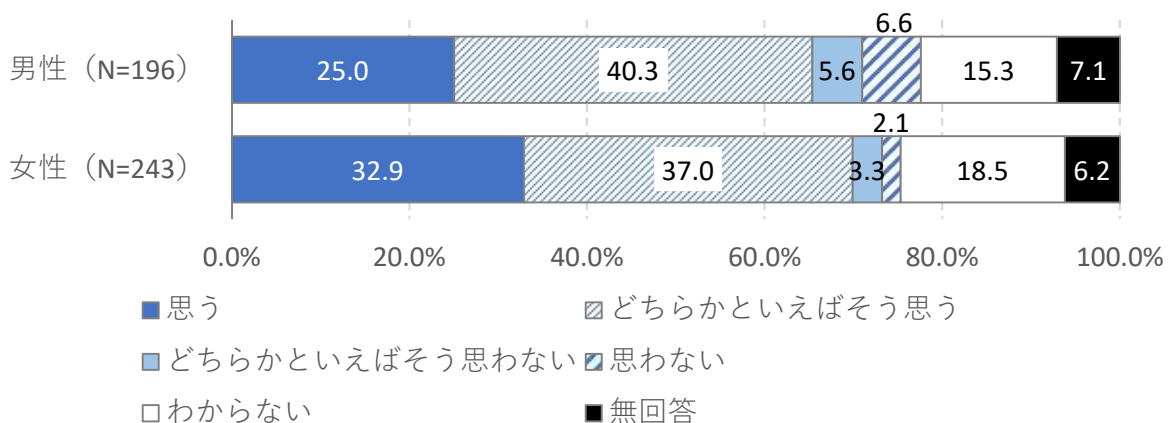
単位：%

	どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから	相談する人がいなかったから	被害を受けたことを思い出したくなかったから	相談しても無駄だと思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたかと思っただから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他
男性（N=6）	33.3	33.3	-	83.3	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7
女性（N=9）	-	11.1	11.1	66.7	33.3	22.2	-	33.3	33.3

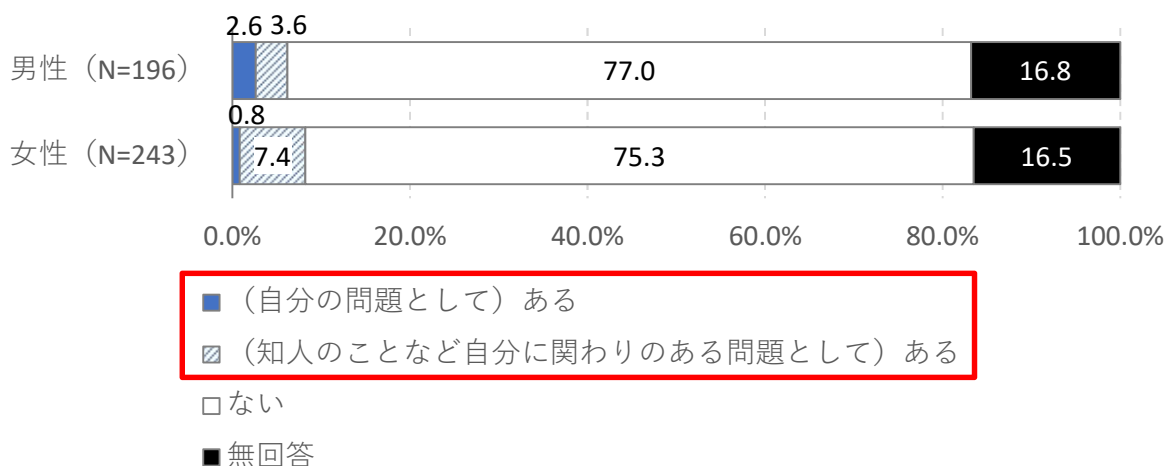
問 27. あなたは「性的少数者（LGBT 等）」という言葉を知っていますか。（〇は1つ）



問 28. 現在、LGBT（性的マイノリティ）の方々にとって、偏見や差別などにより、生きづらい社会だと思いますか。（〇は1つ）

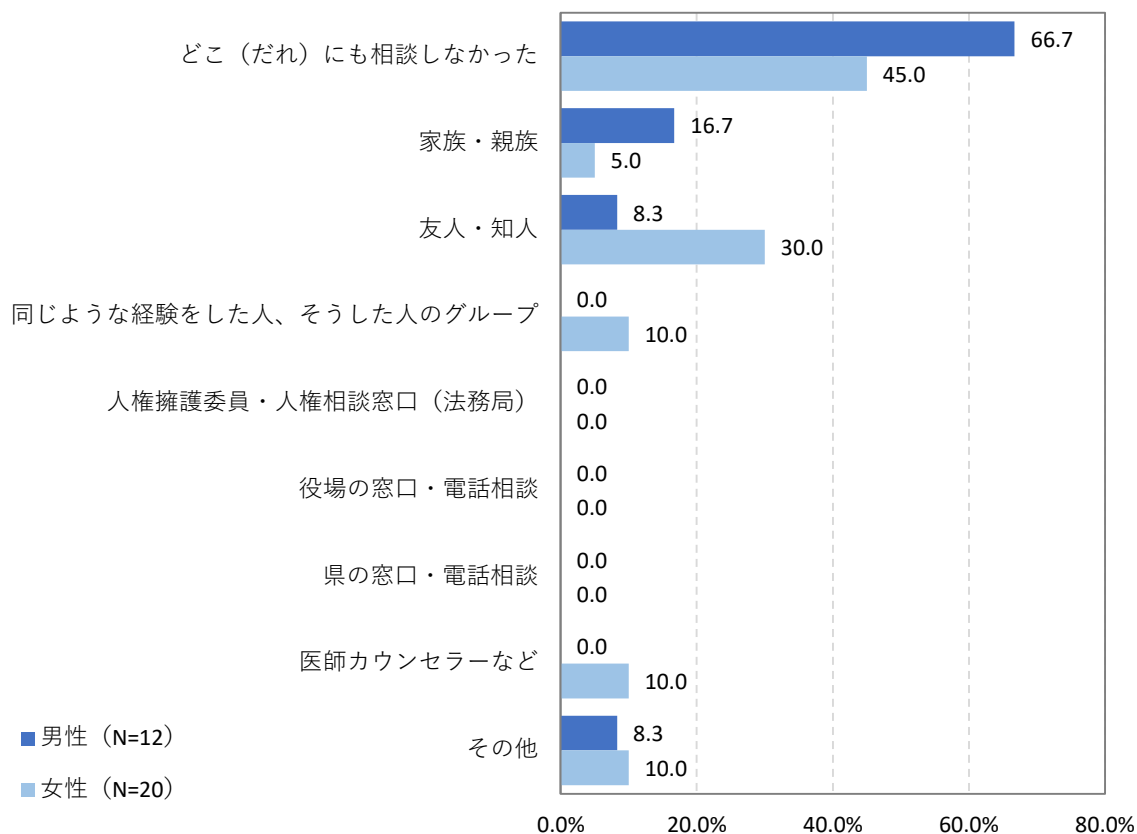


問 29. あなたは、性的少数者（LGBT 等）のことを、自分にかかわりのある問題として、悩んだり考えたりしたことはありますか。（〇は 1 つ）



問 29 で「（自分の問題として）ある」または「（知人のことなど自分にかかわりのある問題として）ある」と回答した方にお尋ねします。

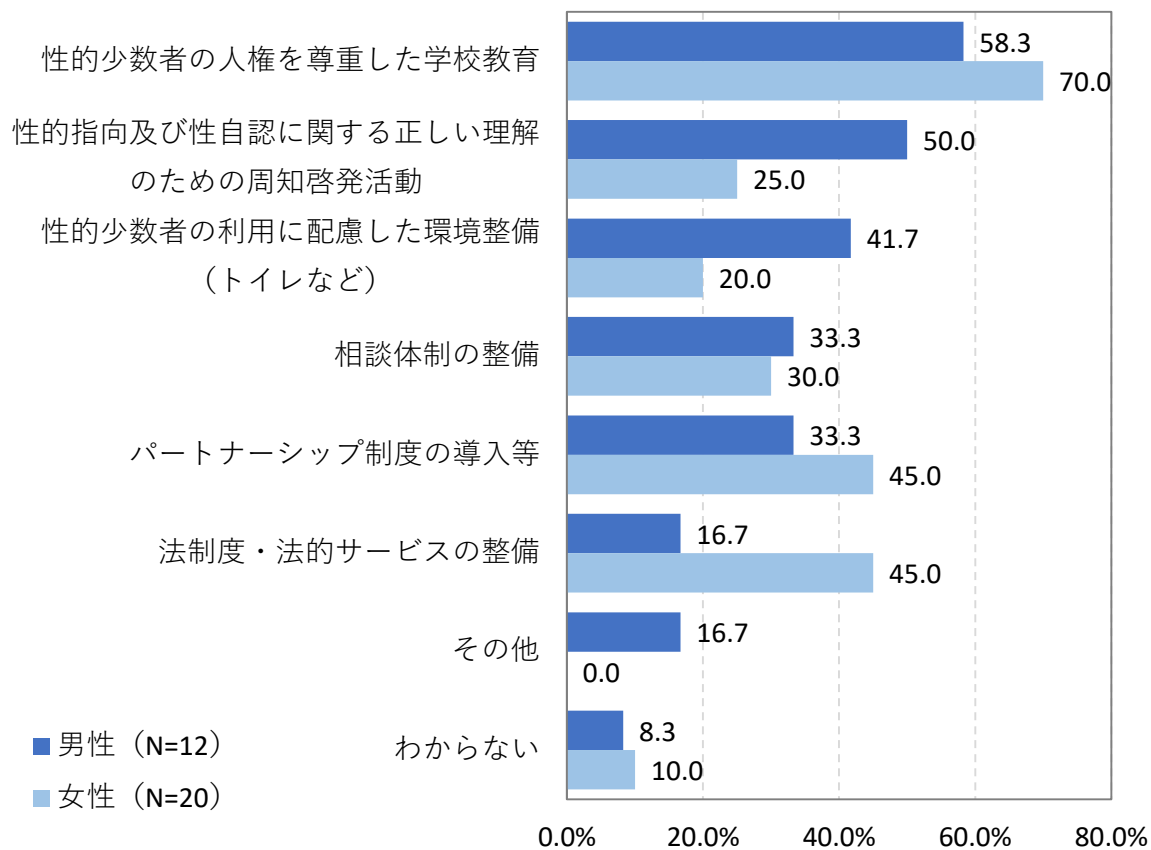
問 30. 悩んだりしたときにどこ（だれ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）



問 29 で「(自分の問題として) ある」または「(知人のことなど自分にかかわりのある問題として) ある」と回答した方にお尋ねします。

問 31. 性的少数者の多様性を認める社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(〇は3つまで)





# 男女共同参画社会の形成について

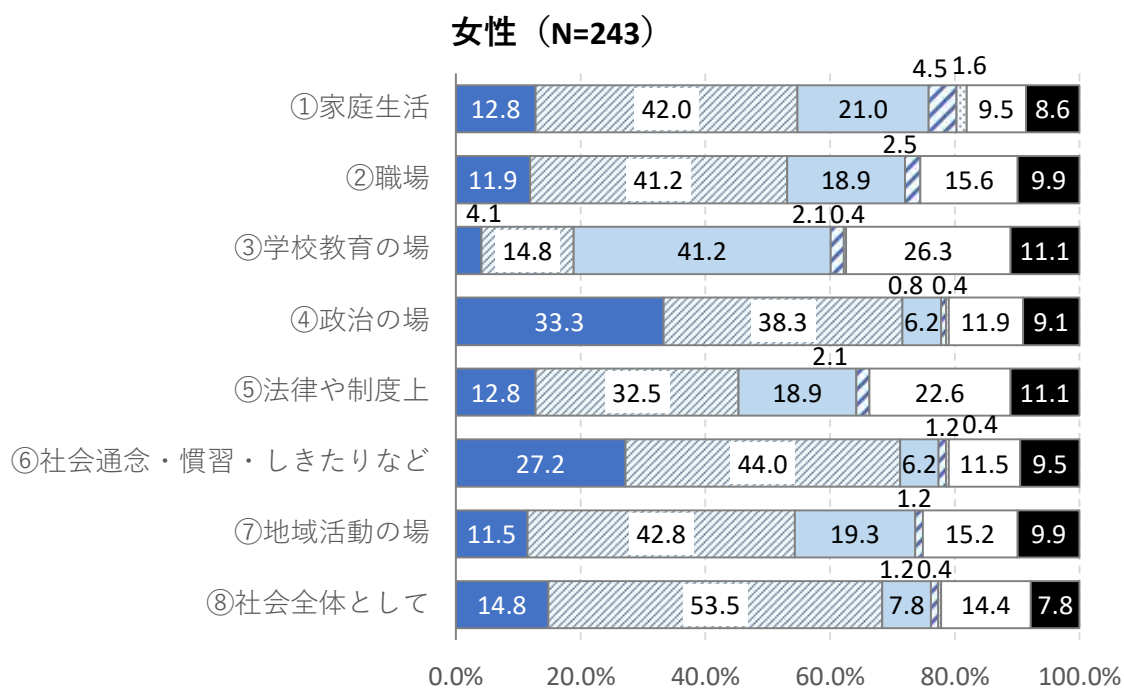
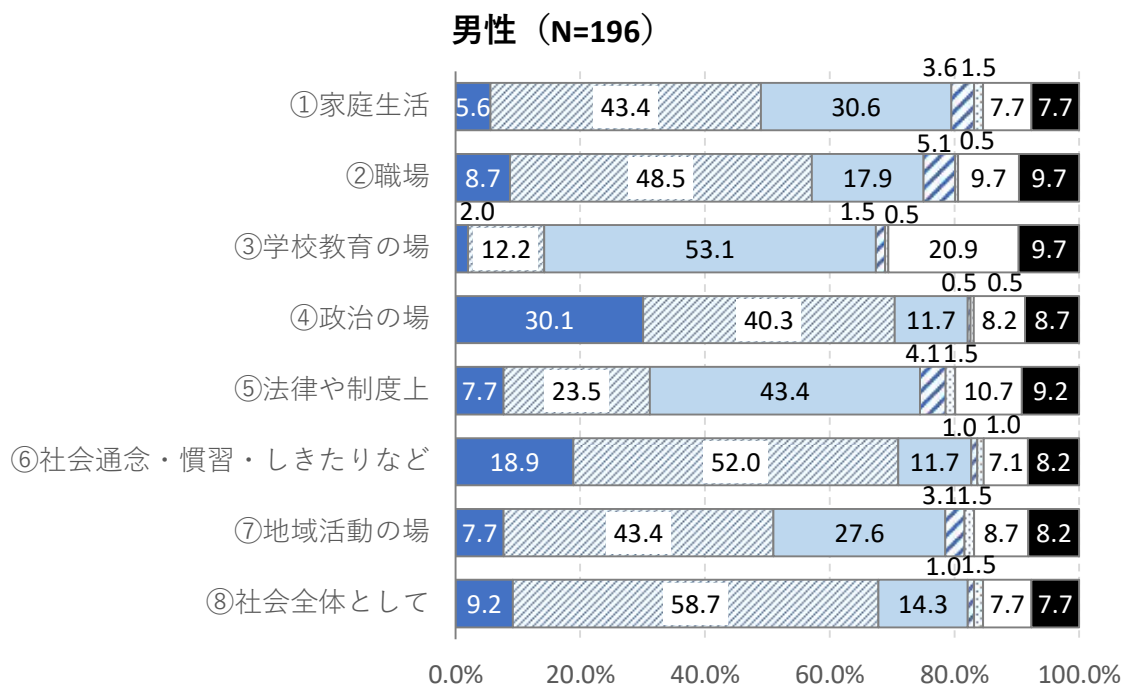
## 【調査結果】

- ①家庭生活、②職場、③学校教育の場、④政治の場、⑤法律や制度上、⑥社会通念・慣習・しきたりなど、⑦地域活動の場、⑧社会全体としての8分野について、男女の地位は平等になっていると思うかをみると、男性・女性ともにすべての分野で女性より男性が優遇されていると考えている。多くは女性の方が男性より“男性が優遇されている”と感じているものの、②職場のみ男性の方が“男性が優遇されている”と感じている。
- 男女共同参画に関する用語の認知度をみると、男性・女性ともに⑧ポジティブ・アクション（積極的改善措置）が最も低かった。次いで、男性は⑬ジェンダーバイアス、⑤女性活躍推進法という順になっていた。女性は、④女性差別撤廃条約、⑤女性活躍推進法という順になっていた。
- 男女共同参画社会を実現していくために、今後、まんのう町で力を入れるべきことは、男性は「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力など学習を充実する」「男女共同参画の広報・啓発活動を充実する」という順に回答が多く、女性は「高齢者施設・サービスなど今後に関する支援を充実する」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力など学習を充実する」という順に回答が多い。

## 【結果検証】

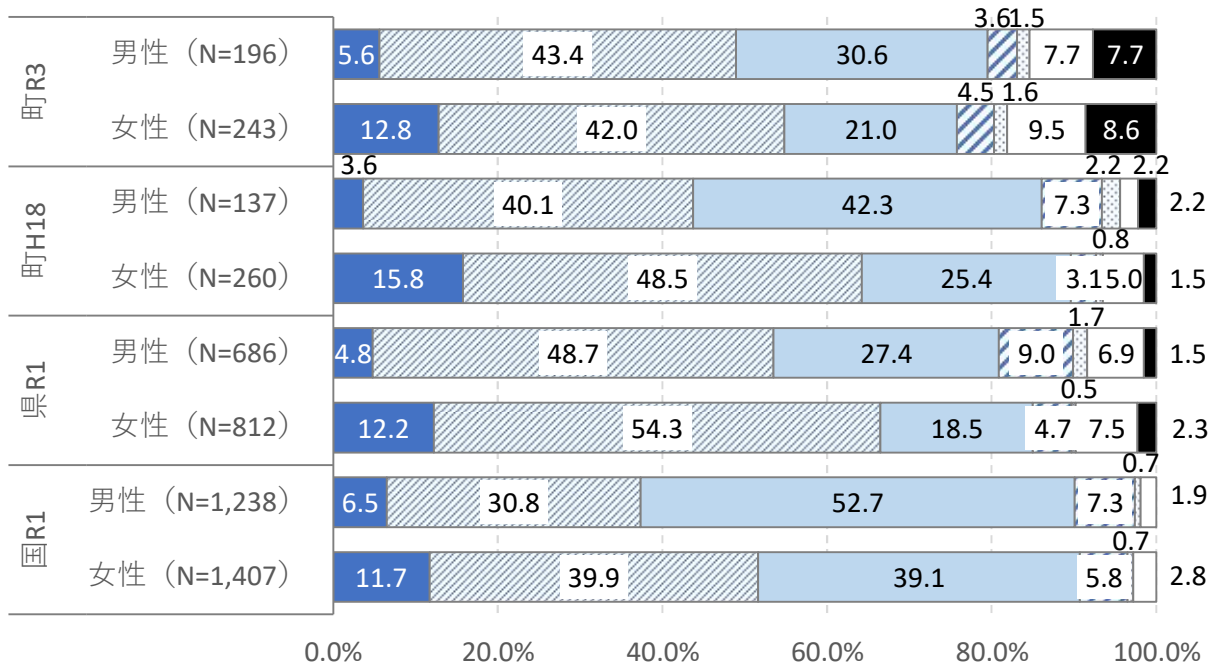
- 男性・女性ともに平等という意識が比較的高いのは「学校教育の場」で、男女間で平等意識に差があるのが「法律や制度上」となっており、その他の項目では、男女ともに“男性優位”という固定概念があるのではないかと結果になっている。
- 回答者の4～5割が「学校教育の場」は平等だという認識を持っているが、県調査（R1）と国調査（R1）の2つと比較すると低くなっている。「学校教育の場」では男女平等の意識が進んでいるが、職場や社会全体でみると、不平等と感じている方が多い状況から、学校教育だけでなく、職場や社会全体でさらなる意識啓発が必要である。
- 「家庭生活」「職場」「地域活動」など国全体の平等感に比べ、香川県・まんのう町（経年比較含む）では平等感が少なく、“男性優位”という考えが根強い
- 「政治の場」では前回調査に比べ、今回調査の“男性優位”という認識が男女ともに高く、性別間の不平等について認識する回答者が増加したと考えられる
- 言葉の認知度について、経年比較をしているものについては概ね若干数値が上昇している
- 意味を含めた深い理解に着目すると言葉によってばらつきが大きく、概ね男性の方が意味を含めた認知度が高い
- 男女共同参画に関する言葉の認知度（その言葉を知っているかどうか）について国と比較すると、全般に国の認知度と同様の水準、または国よりも認知度の高いものが多いと言える。
- 男女共同参画社会の実現に関する意見で、男女間で差が見られる項目が多く、「管理職などに女性の活用」「女性リーダーの養成」に関して男性からの意見が多い一方で、保育サービス・高齢者サービス、ワーク・ライフ・バランスの支援などを求める声が女性に多いのは注目すべきであり、女性自身がリーダーシップを切るということに積極的ではない（人も多い）可能性を指摘できる

問 32. 次の項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（①～⑧それぞれに〇は1つ）

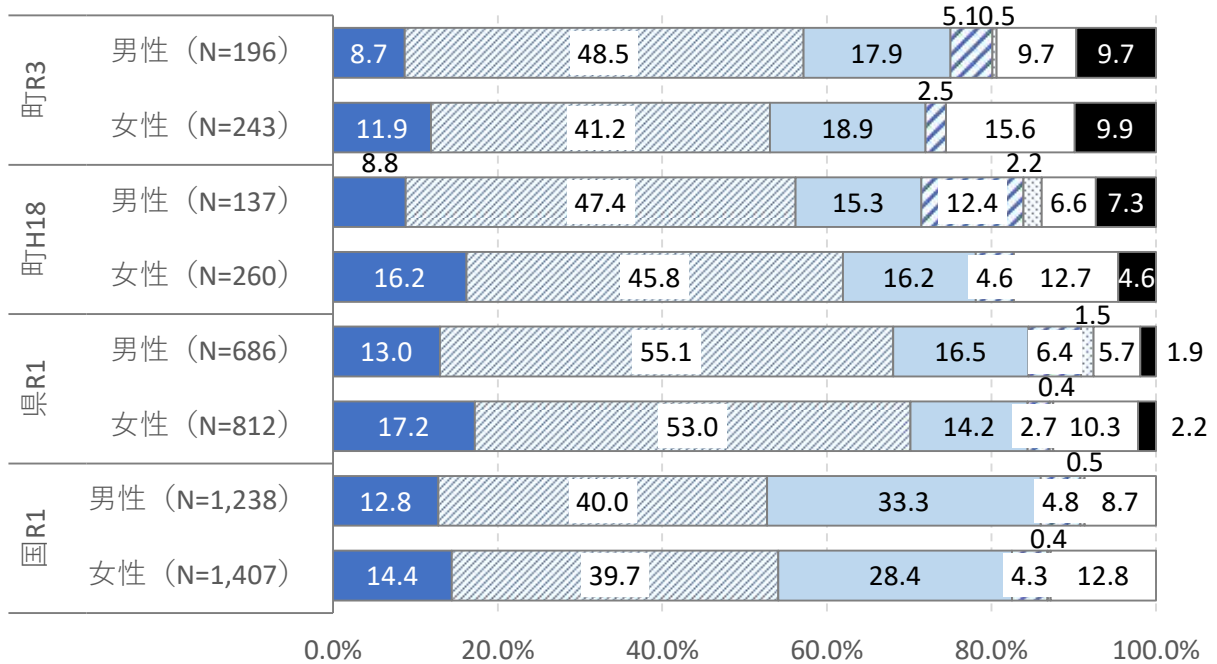


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等になっている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

### 参考 (①家庭生活)

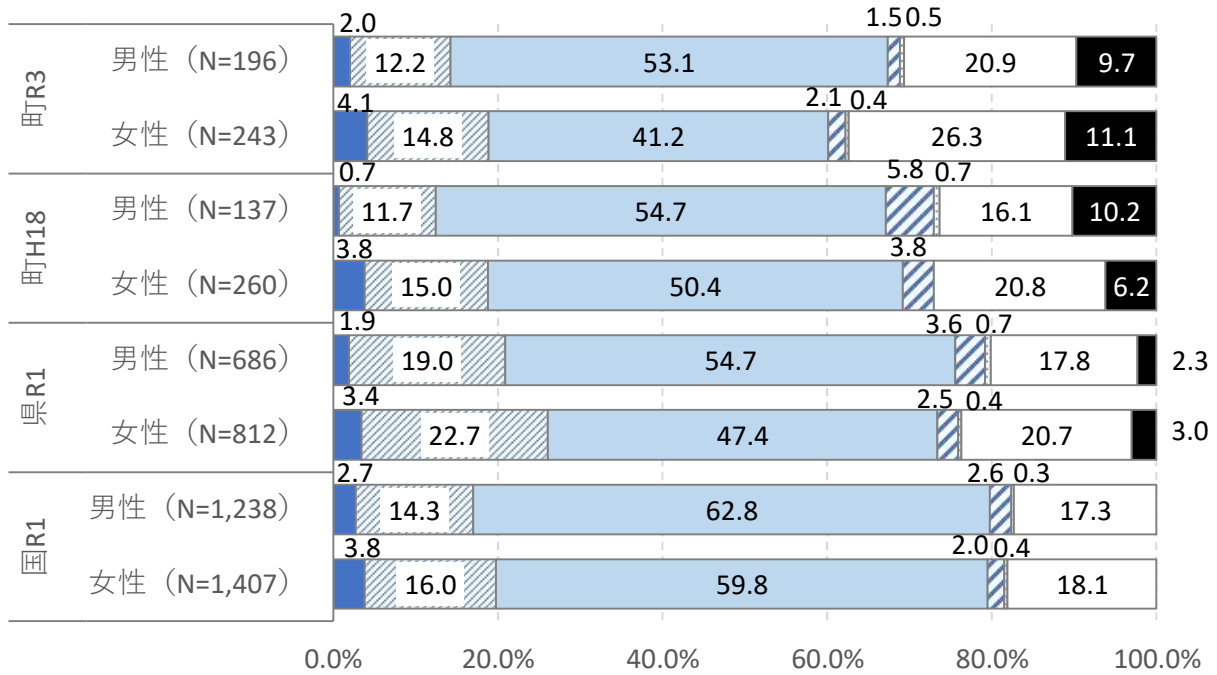


### 参考 (②職場)

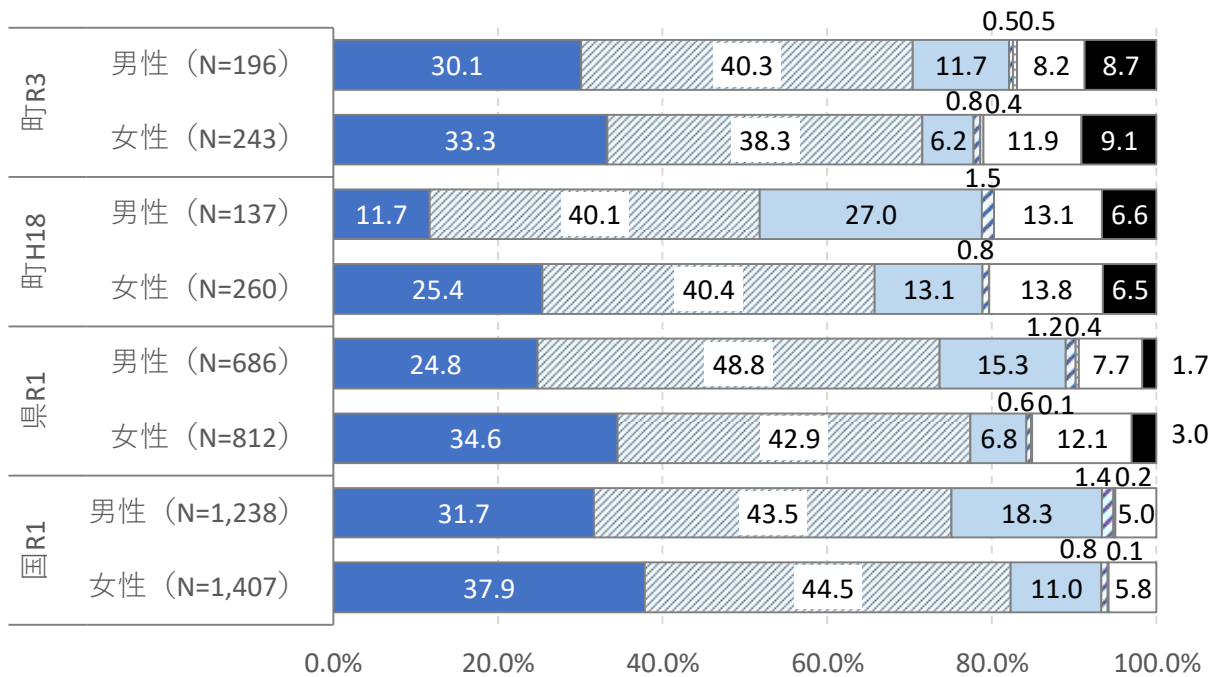


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- ▩ 平等になっている
- ▧ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▦ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

### 参考 (③学校教育の場)

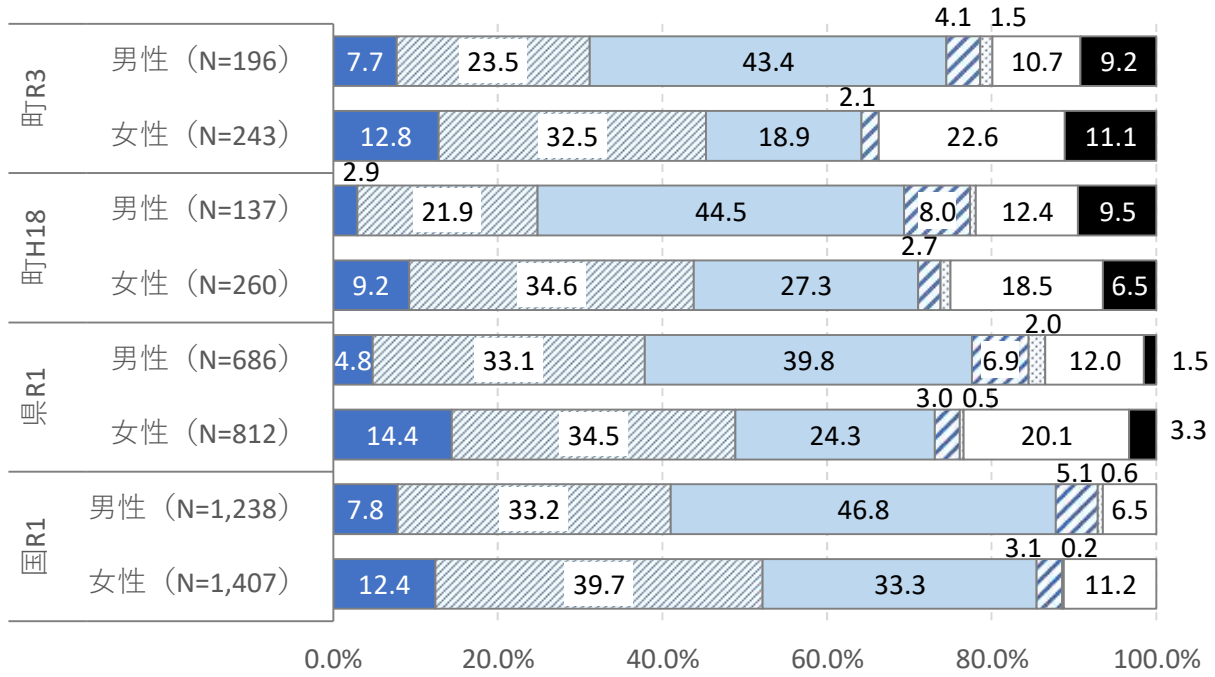


### 参考 (④政治の場)

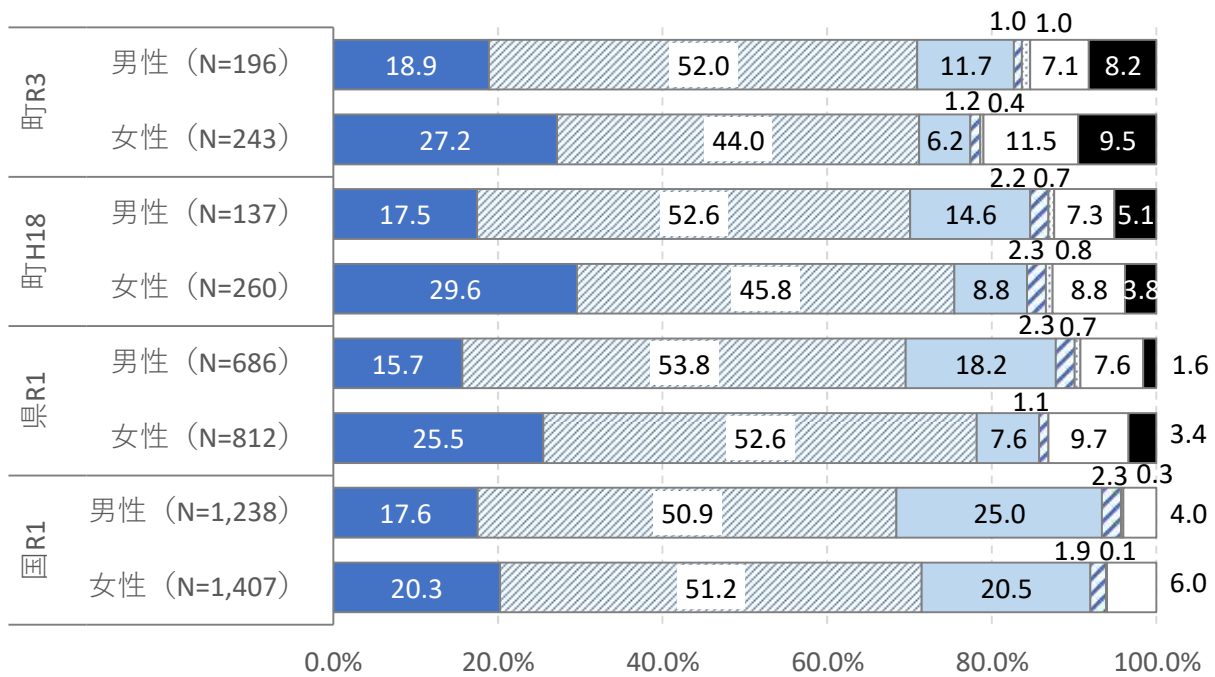


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等になっている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

参考 (⑤法律や制度上)

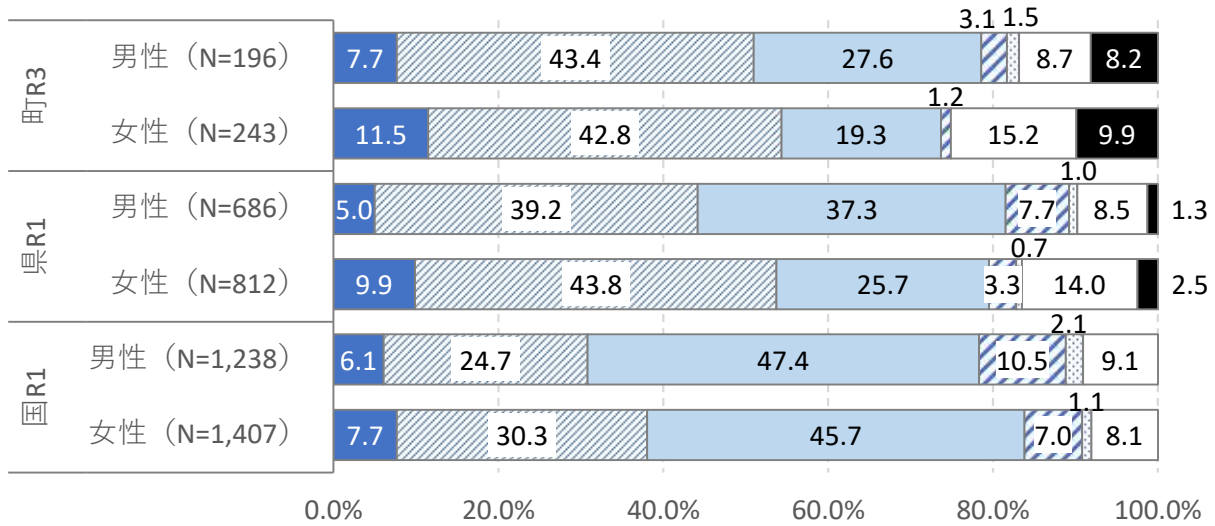


参考 (⑥社会通念・慣習・しきたりなど)

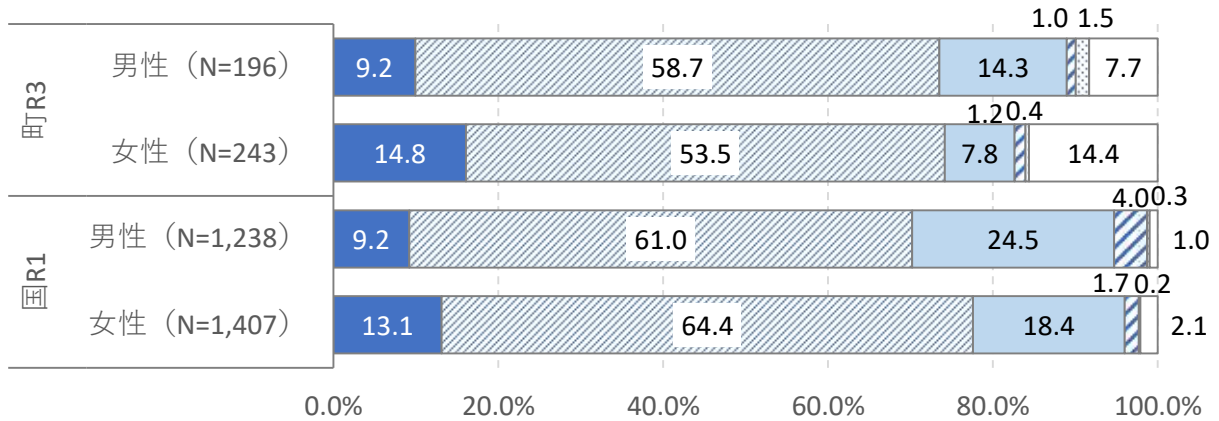


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等になっている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

参考 (⑦地域活動の場)

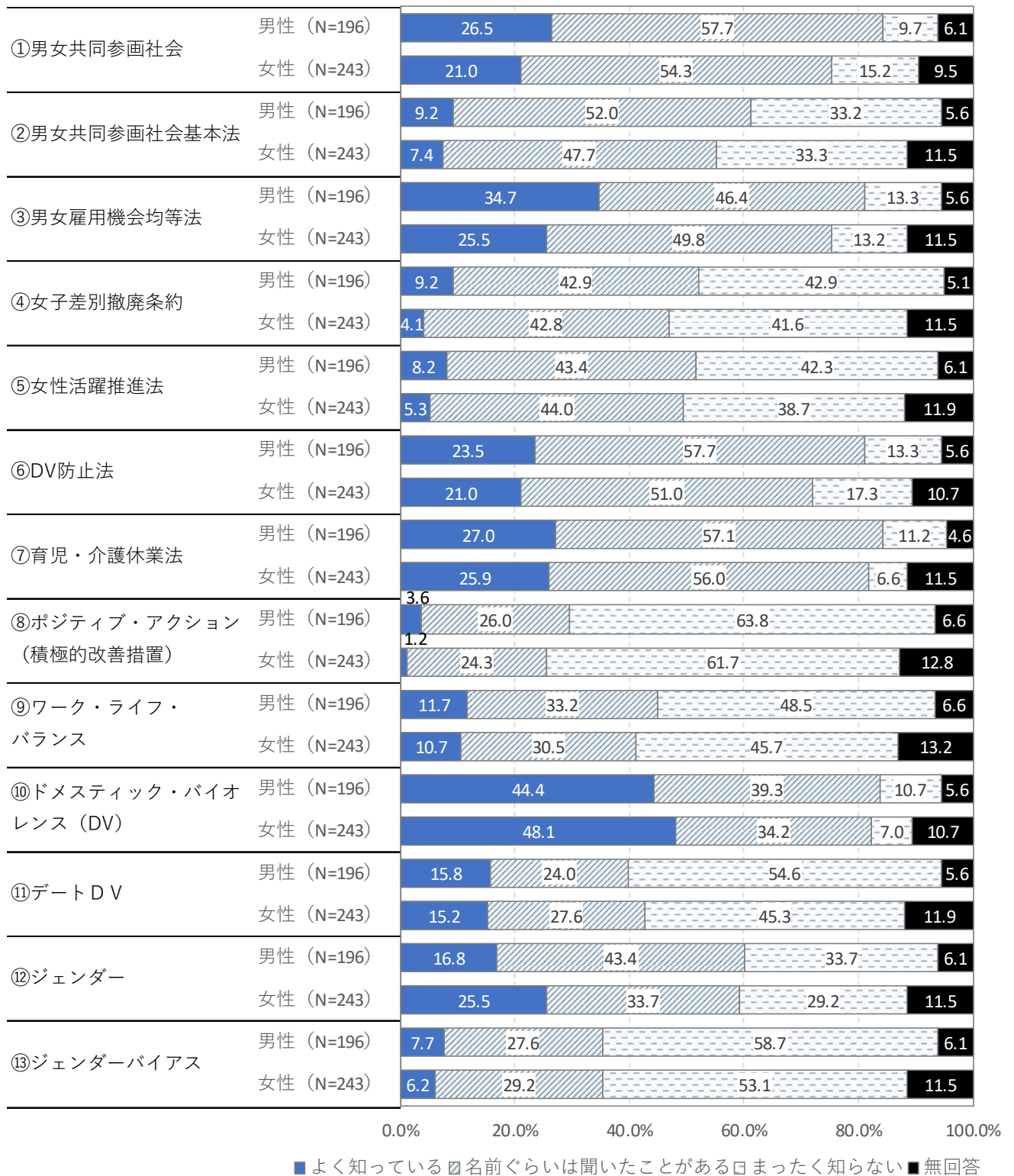


参考 (⑧社会全体として)

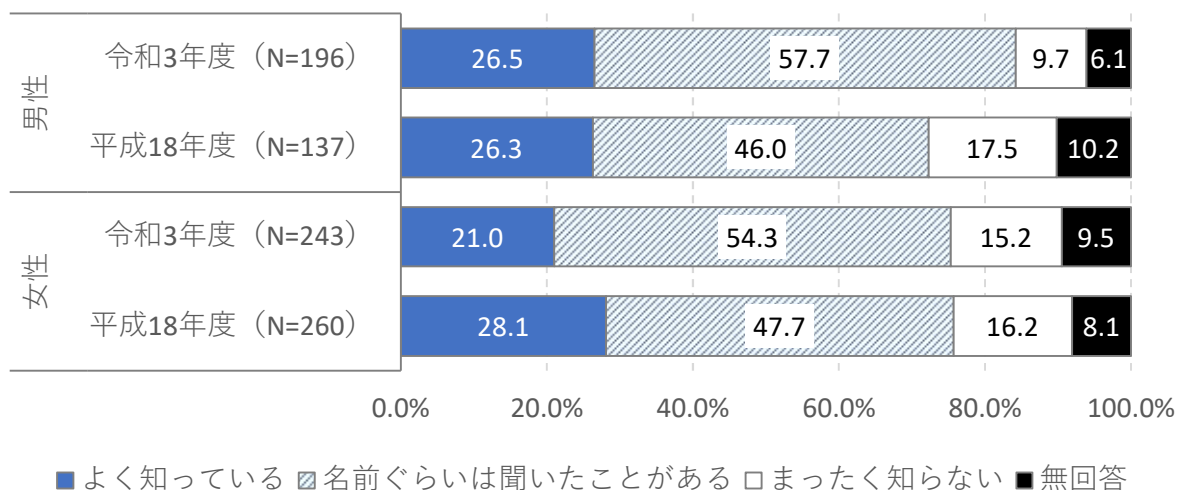


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性が優遇されている
- 平等になっている
- ▨ どちらかといえば女性が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない

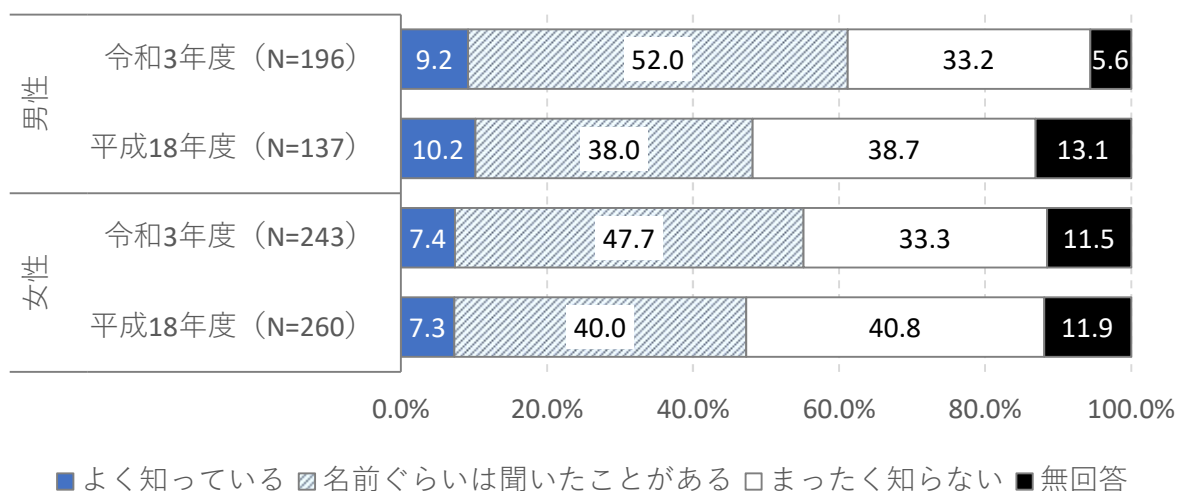
問 33. あなたは次の男女共同参画に関する用語を知っていますか。(①~⑬それぞれに〇は1つ) [y2]



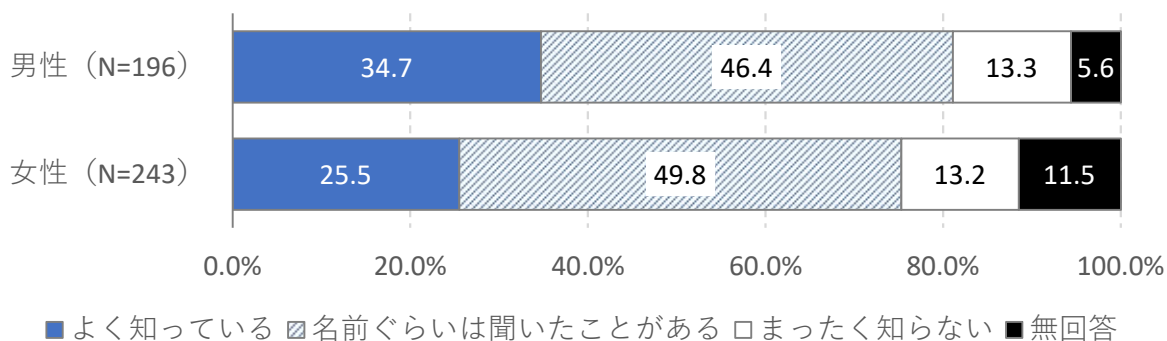
### ①男女共同参画社会



### ②男女共同参画社会基本法

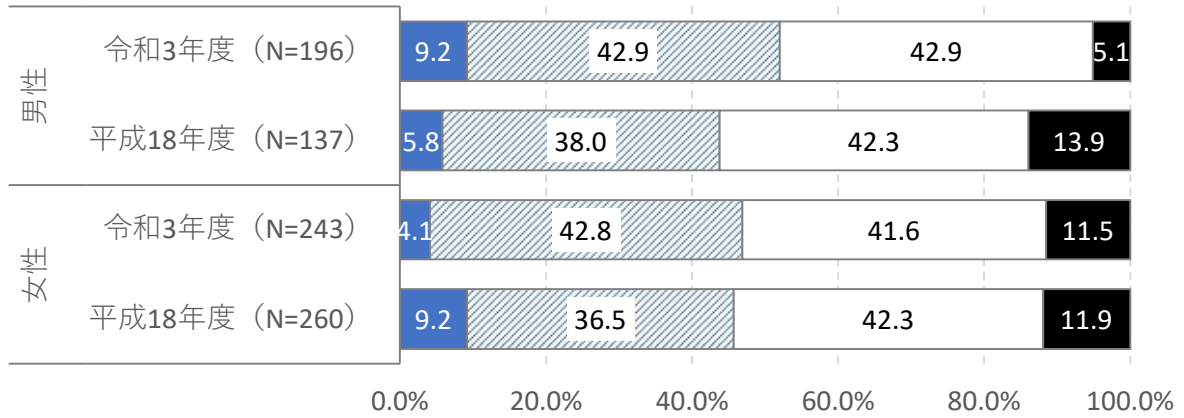


### ③男女雇用機会均等法



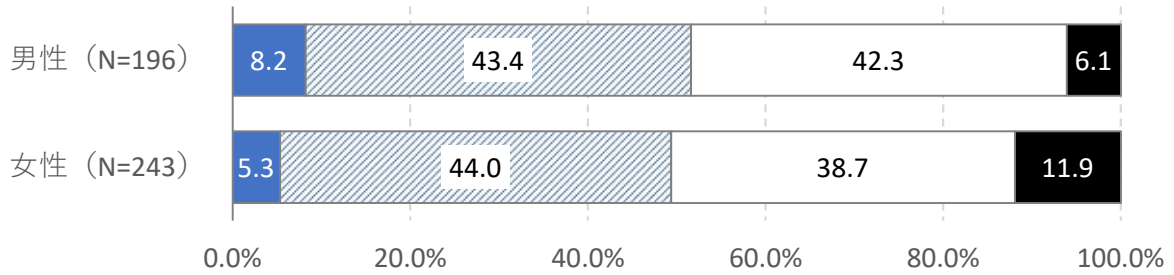


#### ④女子差別撤廃条約



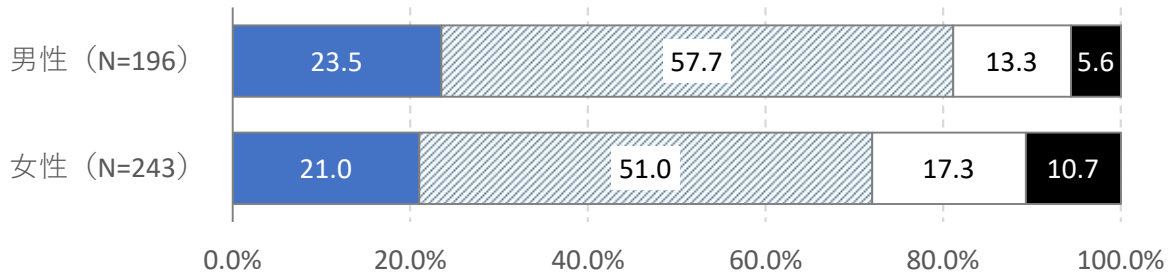
■よく知っている ■名前ぐらいは聞いたことがある □まったく知らない ■無回答

#### ⑤女性活躍推進法



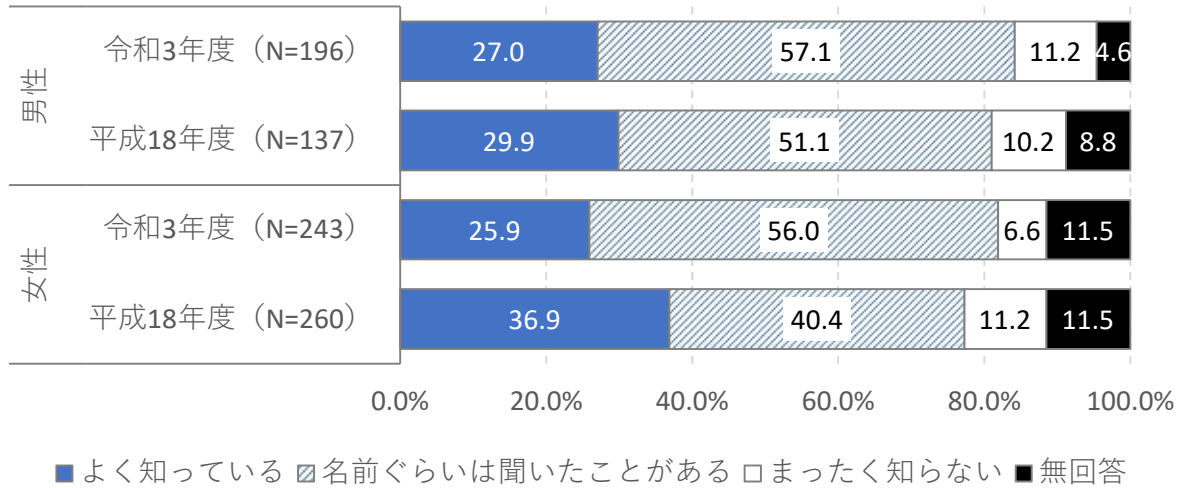
■よく知っている ■名前ぐらいは聞いたことがある □まったく知らない ■無回答

#### ⑥DV防止法

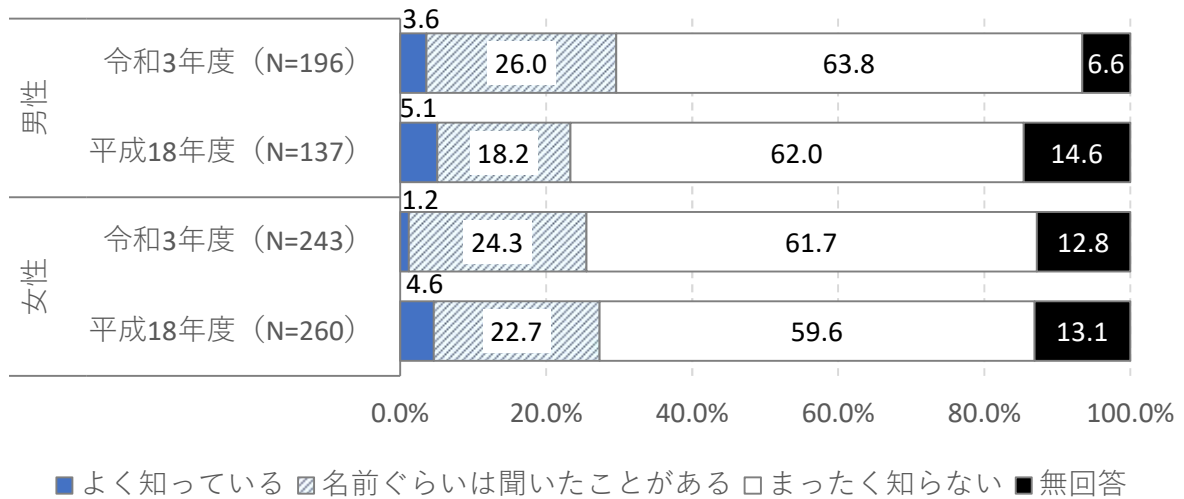


■よく知っている ■名前ぐらいは聞いたことがある □まったく知らない ■無回答

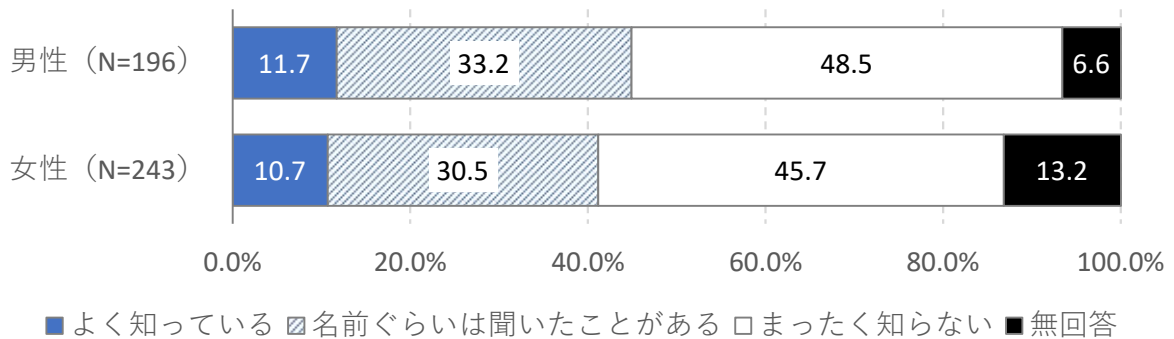
### ⑦育児・介護休業法



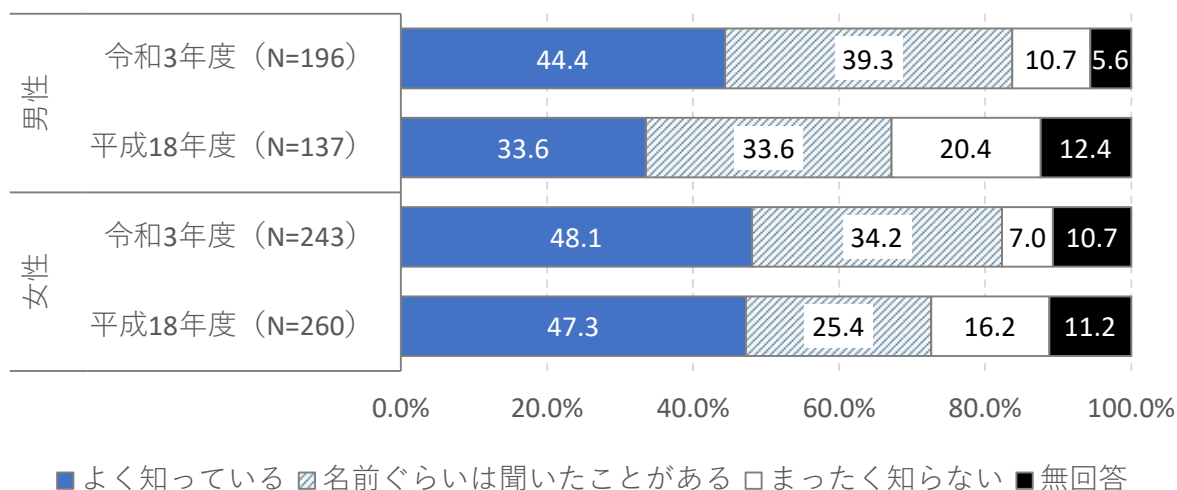
### ⑧ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



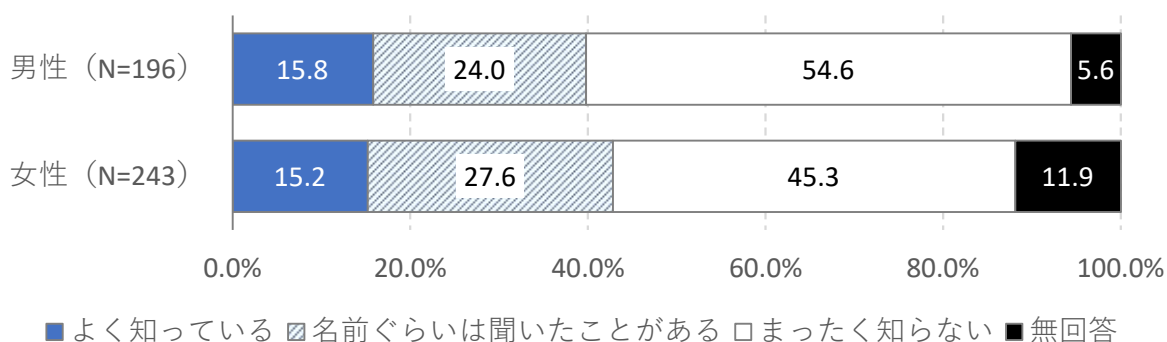
### ⑨ワーク・ライフ・バランス



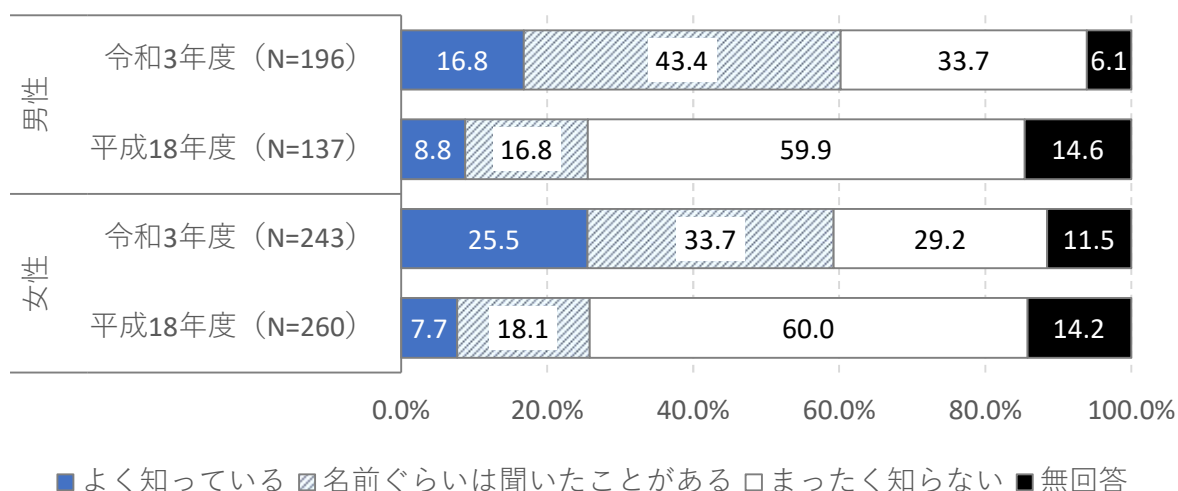
### ⑩ドメスティック・バイオレンス (DV)



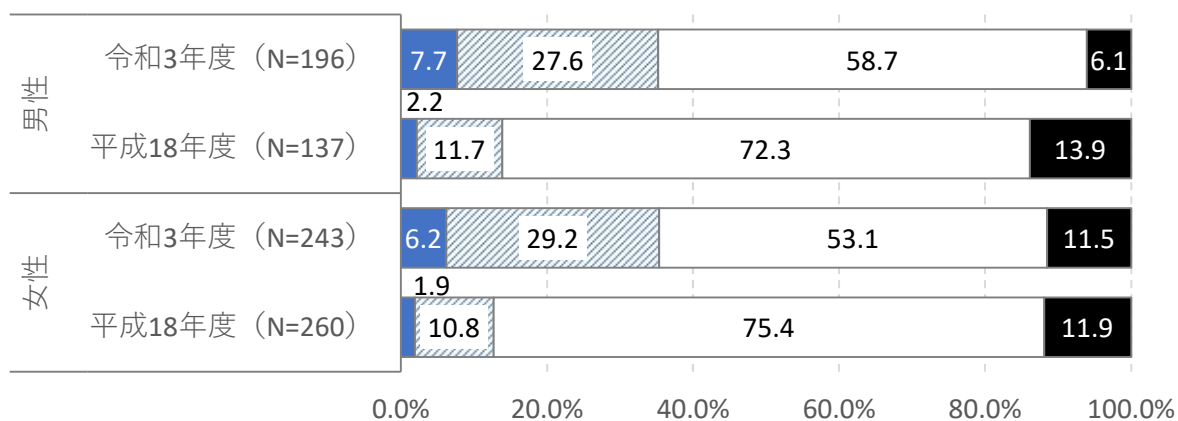
### ⑪デートDV



### ⑫ジェンダー



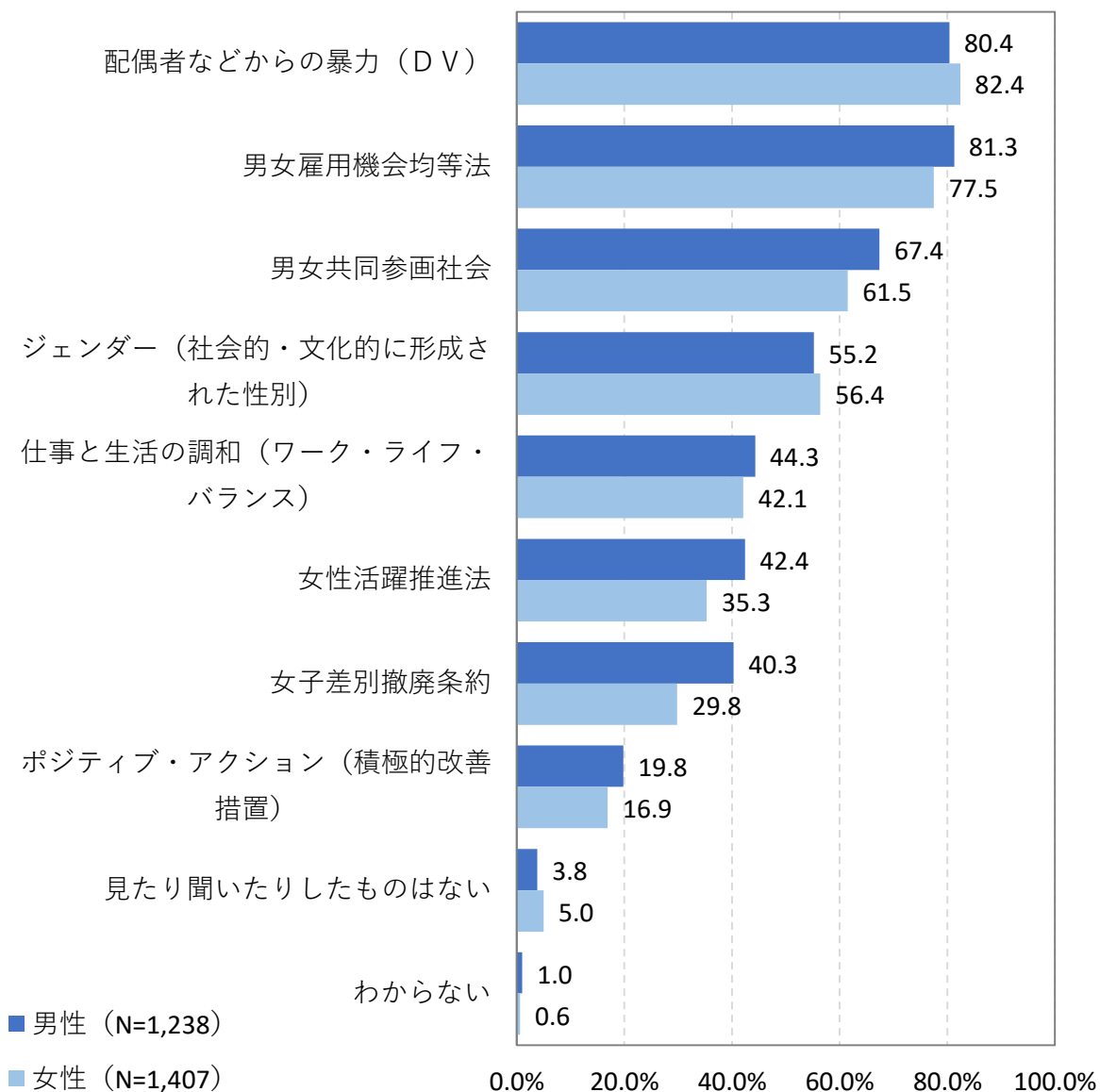
### ⑬ジェンダーバイアス



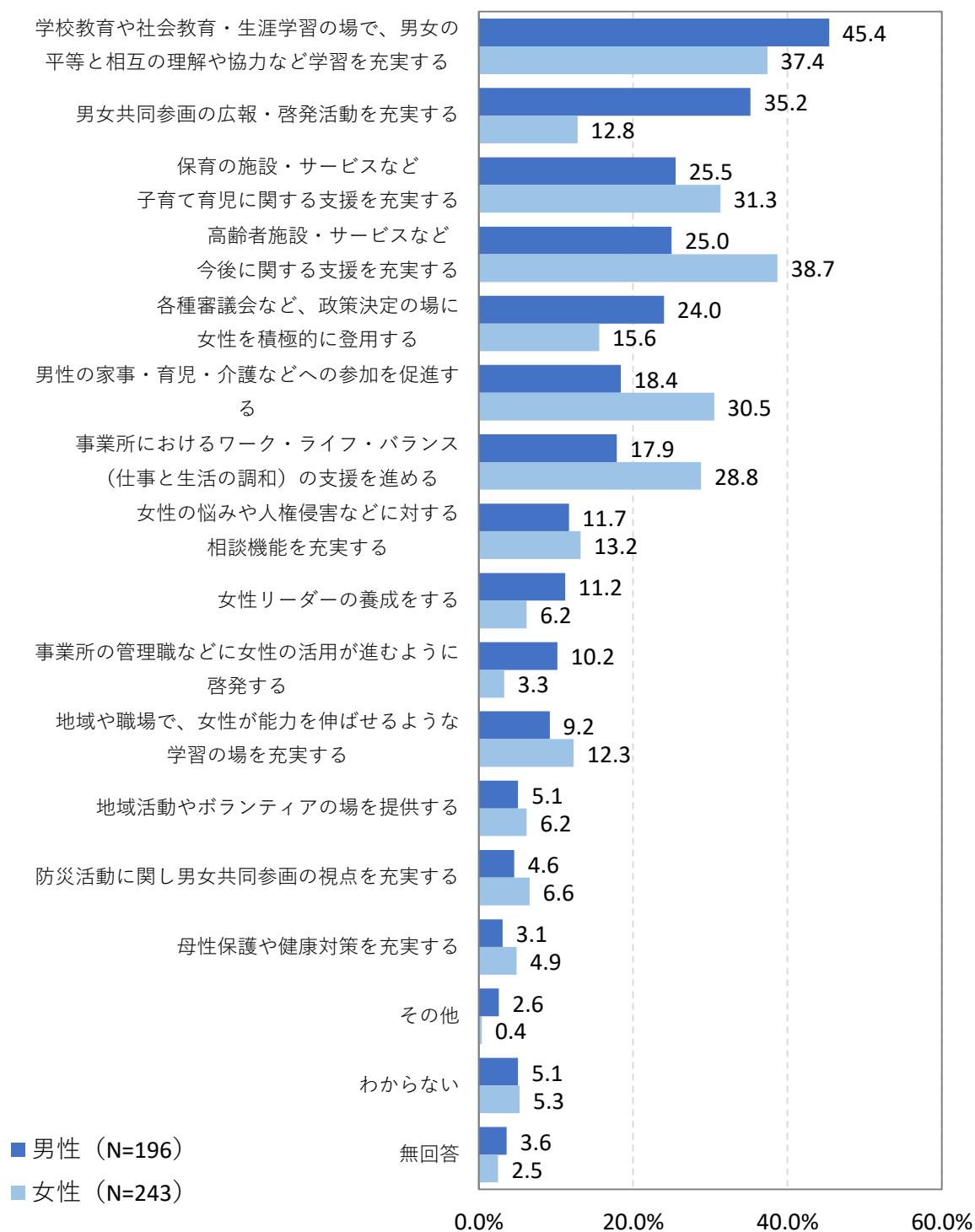
■よく知っている □名前ぐらいは聞いたことがある □まったく知らない ■無回答

### 参考（男女共同参画に関する用語の周知度 国R1）

これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。



問 34. 男女共同参画社会を実現していくために、今後、まんのう町はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）



問 35. 男女共同参画社会づくりについてご意見などがありましたらご記入ください。

■主な意見

- 男女共同参画社会づくりのためにどのような活動や取り組み等を行い、成果があったのかわからない
- 中身と実行力のある計画の策定・改訂を期待する
- 男女（家庭や職場等を含む）が協力して生活しやすい状況・環境をつくってほしいと思う
- 各自治体より女性の参加を募り、定期的にまんのう町全体の教育システムを提供して、意識・活動の向上を図る機会をもてたらよい
- 幼児教育や学校教育を充実させ、男女共同参画社会の意味を教えてほしい
- 老若男女、全ての人が笑顔で暮らせるような社会づくりを進められるよう、税金の使い方を提案できる仕方を考えて(目安箱)のようなシステムを設ける
- 町政を発信する場のHPに情報が少ない
- 女性自らが技術・能力をスキルアップして、社会で活躍しようとする意欲が一番であり、それを社会がフォローする仕組みが大事である
- LGBT の人たちの人権をもっと考えてほしい
- 女性が働く上で子育てや教育の費用の無料化が必要だと思う
- 親の介護が必要なときに休みが取れないため、一時的に介護をお願いできるサービスが欲しい
- 町が率先して、女性管理職の登用を進めてもらいたい
- 仕事と家庭を両立しやすい社会が男女共同参画社会の実現につながると思います
- 若い世代の意見が受け入れやすい地域社会になっていくべき